

14. 6二-276



26
276

雷雨報告

中央氣象台編

大正十四年



始



14.6
276

昭和六年三月刊行

大正十四年

雷雨報告

中央氣象臺



雷雨報告

紀元二五八五年
西曆一九二五年



發行所寄贈本

中央氣象臺刊行

146 = -276

目次

報 文

一、總 說

二、各月顯著雷雨

表

第一表	全國雷雨觀測所數の表	三〇
第二表	全國月別雷雨回数表	三〇
第三表	降雹を伴ひたる雷雨回数表	三〇
第四表	全國降雹箇所表	三〇
第五表	落雷を伴ひたる雷雨回数表	三一
第六表	全國落雷箇所表	三一
第七表	全國燒失家屋表	三一
第八表	全國震死者表	三一
第九—二十表	各月全國月別雷雨回数表	三二
第二十一表	全國雷雨發現時刻別回数表	四四

第二十二表 内地に於ける四季別雷雨回数表(發現時刻別)……………四五

第二十三表 臺灣に於ける四季別雷雨回数表(發現時刻別)……………四五

第二十四—三十五表 各月全國雷雨發現時刻別回数表……………四六

第三十六—三十八表 内地に於ける進行方向別雷雨回数表……………五二

第三十九—四十一表 臺灣に於ける進行方向別雷雨回数表……………五三

第四十二表 内地及臺灣に於ける各月顯著及稍顯著雷雨一覽表……………五四

圖 版

第一 地方別地圖

第二—十三 各月雷雨發現地方竝に進行方向圖

大正十四年雷雨報告

一、總 說

一、本年に於ける各測候所、郡役所、警察署、市町村役場、中、女、小、師、農、商船、蠶業、水産等の各學校、農事、水産、蠶業等の各試験場、專賣局、帝室林野管理局、燈臺等の役員、其他篤志觀測者、竝に東京電燈、鬼怒川水力電氣、京濱電力の各株式會社に於ける發電所、變電所、變壓所、保線係等の事務員の熱誠なる觀測報告に依りて調査し得たる結果を記し、併せて熱心なる觀測者に深謝する次第なり。

本年内地に於ける雷雨報告を受けし觀測所数は千七百七十三箇所、臺灣に於けるものは百二十六箇所、其他の地方に於けるものは三十四箇所に於けるものは百三十三箇所なり。尙一層詳細なる觀測所數、即ち縣別等に於ける觀測所數は第一表に就きて見るべし。又卷末の圖版第一に就きて見るも可なり。此の圖版の各縣或は、地方に記したる數字は、觀測所數を示せるものなり。

二、本年全國に於ける雷雨總發現數は二千九百一十一回なり。月別回数を示せば、一月に三十回、二月に十四回、三月に百十一回、四月に七十七回、五月に二百九十三回、六月に四百十六回、七月に五百十八回、八月に七百七十三回、九月に三百四十九回、十月に百四十五回、十一月に九十二回、十二月に九十三回にして、地方別回数を示せば、内地に二千八百八十三回、臺灣に三百四十八回、支那中部に十回、同北部に九十二回、朝鮮に百十七回、樺太に二十八回、南洋に七十六回なり、尙一層詳細なる回数第二表全國月別雷雨回数表に就きて見るべし。

第一表及びそれに續く諸表に於ける地方別方法は臺灣・朝鮮・樺太・九州・四國・山陽・山陰・奥羽・北海道は通常謂ふ所の地域を表はし、州南諸島は沖繩縣八重山列島以東鹿兒島縣奄美大島諸島迄、近畿は五畿内及和歌山、滋賀兩縣、關西は三重・愛知の兩縣と美濃・遠江の二國、本州中部は信・飛・甲・駿・豆、北陸西部は福井・石川兩縣、同東部は富山・新潟兩縣、關東は武・相・兩毛・房總及常陸、支那中部は北緯三十五度以南、同北部は北緯三十五度以北及滿洲、南洋は小笠原諸島及バラオ諸島を表はす。小笠原諸島を南洋に入るは多少當を得ざる如く見ゆれども、小笠原諸島には父島一箇所、バラオ諸島にはコロール島一箇所のみを觀測所なれば、これ等二箇所の觀測に依りて調査せる雷雨を南洋に起りたる雷雨とせるなり。以上の地方別は卷末圖版第一の地方別地圖に就きて見れば一層明瞭となるべし。

本報告の調査は、朝鮮・支那・樺太及南洋の回数は測候所のみを報告に依りて調査したるものなり。又表中P₁は數字八ポイント、P₂は數字ルビーなり)の如く書けるは、其地方の其月の雷雨發現數はP₁回なれども、雷雨の中には其範圍一地方のみに限らず、他の地方にも及ぶものあるを以て、相當大なる區域、例へば内地全體として計算するときにはP₁回だけ差引きて計算すべきことを示すものなり。又内地以外の地方に於いてP₂或はP₃の如く記せるは、内地を除き他の地方全體に就きて計算する場合にはP₁の如く記せるIを差引かずに計算すべきものなれども、内地まで入れて、全國の雷雨發現數を求める場合にはそれらも差引きて計算すべきことを意味するものなり。表中計の欄にはPの和を、重複の欄にはPの和を、差引計の欄

にはPの和よりQの和を差引きたるものを記入せり。重複は雷の發現地ならざる他の地方に就きて採りたるものなり。

本年全國の降雹を伴ひたる雷雨回数には百七十七回にして、月別回数を示せば、一月に二回、二月に二回、三月に十八回、四月に十一回、五月に四十四回、六月に十六回、七月に七回、八月に三十一回、九月に七回、十月に十二回、十一月に十八回、十二月に九回にして、地方別回数を示せば、内地に百五十回、臺灣に二回、支那北部に十回、朝鮮に十四回、樺太に一回にして、支那中部及南洋には一回も降雹のありたる雷雨は發現せざりき。一層詳細なる回数は第三表降雹を伴ひたる雷雨回数表に就きて見るべし。此の表に於ける重複は雷の發現地ならざる他の地方に就きて採れるものなり。

本年全國の降雹箇所数は三百六十一箇所以上にして、月別箇所数を示せば、一月に二箇所、二月に五箇所、三月に七十八箇所以上、四月に三十箇所以上、五月に九十三箇所以上、六月に二十五箇所、七月に七箇所以上、八月に五十二箇所以上、九月に七箇所、十月に十二箇所、十一月に三十四箇所、十二月に十六箇所以上にして、地方別箇所数を示せば、内地に三百三十三箇所以上、臺灣に二箇所、支那北部に十箇所、朝鮮に十五箇所、樺太に一箇所にして、他の地方には降雹せざりき。降雹箇所は觀測所のある場所に降雹したるとき各々の觀測所毎に一箇所として計算しあるを以つて、連續的に廣大なる區域に降雹のありたる場合には、一般には數箇所以降雹したることとなるなり。斯の如くして計算したるものを第四表中には數字を以つて印刷してあるなり。又觀測所のない場所、例へば他町村に降雹のありたることを報告せられたる場合には、降

雹箇所中には計算せずして、その旨Nなる文字にて示せり。即ち表中 P_{+N} とあるがそれにして、Nはそれ以上の意味にして、 P_{+N} はP箇所以上の意味なり。

第五表には落雷を伴ひたる雷雨回数、第六表には落雷箇所数、第七表には落雷に依る焼失家屋数、第八表には落雷に依る震死者数を載せたり。是等の表に就きて見るに、内地に於ける落雷を伴ひたる雷雨回数は百四十三回、落雷箇所は六百六箇所以上、焼失家屋は三十棟、震死者は三十人なり。第五表中の重複は雷の發現地ならざる他の地方に就きて採れるものにして、第六表中のNはそれ以上の意味にして、 P_{+N} とあるはP箇所以上なることを表はす。以上四つの表は雷雨報告に依りて爲したるものにして、觀測者の目撃したるもの、聞きたるもの、新聞に依りて知りたるもの等ありて、時と場所とに就き種々異なるものなれども、觀測者の普通耳目に觸るる範圍の現象に就きて統計したるものと解して可ならん。第九より第二十に至る十二箇の表には各月の日別雷雨回数、降雹を伴ひたる雷雨回数、降雹箇所、落雷のありたる雷雨回数、落雷箇所、震死者数を載せたるものにして、降雹回数及落雷回数の欄中 P_{+N} の如く記せるは N は重複として採るべき雷雨回数、 r は降雹又は落雷の箇所数を示せるものなり。

第二十一表及第二十四表より第三十五表に亘る諸表には雷雨の發現の時刻別雷雨回数を示せるものにして、第二十一表には全年に對する雷雨回数、第二十二表より第三十五表迄には各月に對する特別雷雨回数を掲ぐ。これ等の表に於ける時刻は、内地、朝鮮、樺太、南洋は中央標準時(東經百三十五度に於けるもの)にして、他の地方即ち臺灣と支那に於

けるものは西部標準時(東經百二十度に於けるもの)なり。

三、第四十二表は内地及臺灣に於ける各月顯著及稍顯著雷雨一覽表にして、内地及臺灣に於ける顯著及稍顯著雷雨の始雷及終雷の月日、時刻、場所、進行方向、道筋、範圍、強弱、性質等を示し、尙各の雷に對する降雹箇所数、落雷箇所数をも掲ぐ。又記事には震死者、燒失家屋、旋風被害、豪雨等を載す。

進行方向、通過道筋、範圍等の欄に於いて方向に四角な括弧を附し、「西」の如くせるは進行性の雷雨の中には、その雷の主に進行したる方向、即ち主軸とは別の方向、例へば反對の方向にも相當進行することあるを以つて、このことを示せるなり。又擴大せる雷雨も或方向にのみ多く擴大せるを常とする故、それを進行方向中に示し、その方向に次いで多く擴大せる方向を示すにもこの方法に依れり。擴大性の雷雨の方向に九い括弧を附してあるは、終雷場所は一箇所にあらずして、始發場所の周圍に於いて終雷するものなれば、それを示すに、上の如き記法を爲せるものにして、始發場所の何れの方向の如何なる場所にて、何時終雷せしかを明らかにせるなり。

雷の中には其發現時刻の不明なるものあるを以つて、發現場所に對して時刻を記さざる場合あり。一つの雷に對して多くの地名を示せるは、發現時刻は不明なるも最も早く雷を觀測せる地名は何處なるか、又は發現地に最も近き觀測所にては何時雷を觀測せしかを示すものなり。又終雷場所に對しても多くの地名を記せしは、範圍大なる雷に對しては、如何なる場所にては何時終雷せしかを示し、尙最も遅くまで雷鳴を聞きし場所は必ずしも、始發場所より最も遠き場所には非ざれば、これをも明ら

かにせん爲なり。雷雨の強弱は雷鳴の程度に依り強弱の三階級に分けて示し、各觀測所に於ける雷鳴の程度を參照して附けたるものなり。

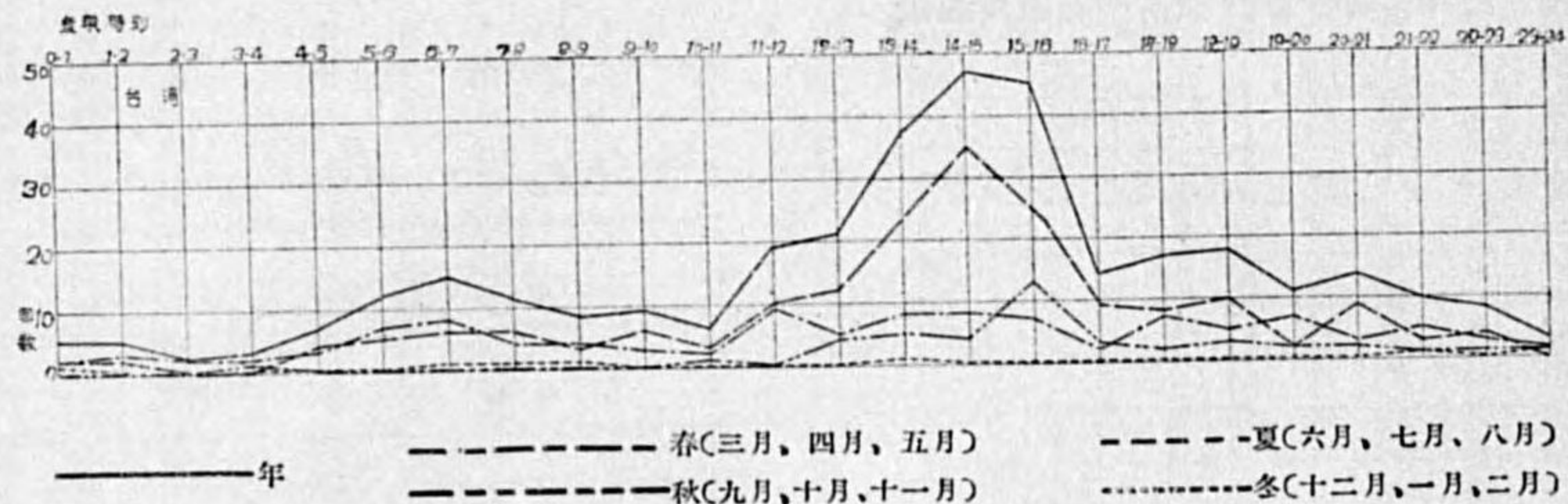
雷の性質は進、擴、局、停、不に分けて示し、進とあるは進行性の雷にして、顯著雷雨はこの種に屬するもの多し。擴とあるは一地方に發して擴大したるもの、局とあるは雷の範圍極めて少なるもの、停とあるは雷の發したる場所に停滯して移動少きもの、不とあるは性質不明のものを示す。

記事の欄に於ける雨量は雷雨の際、五十耗以上の降水量のありたる場所及短時間に割合に多く雨量のありたる場所に對して掲げたるものにして、分子は耗單位の降水量、分母は降雨繼續時間にして、小數點以上は時、以下は分を表はす。

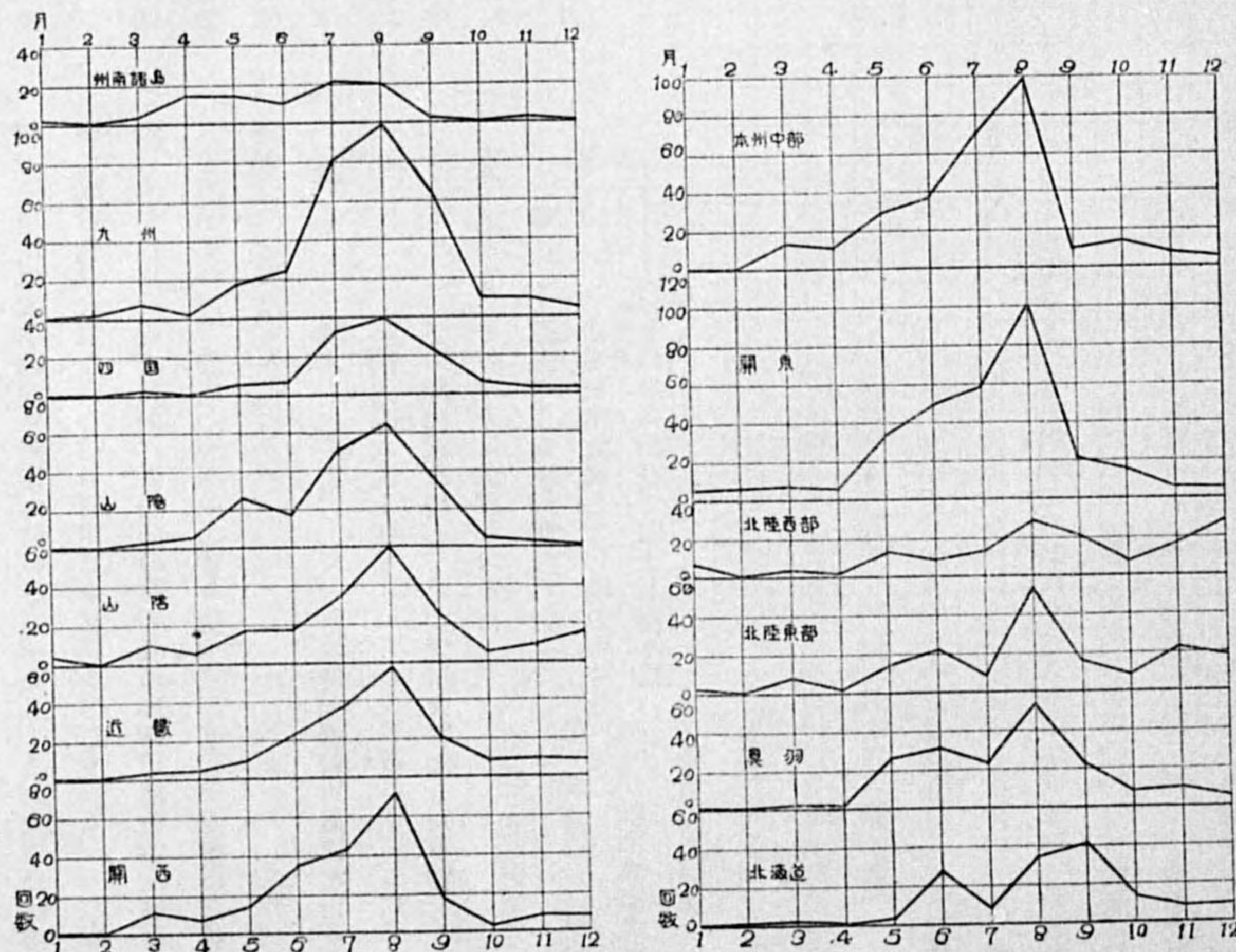
四、第三十六表より第三十八表に亘る諸表には内地に於ける進行方向別雷雨回数を示せるものにして、第三十九表より第四十一表に亘る諸表はそれの臺灣に對するものなり。第三十六表及第三十九表に於いては進行性雷雨の進行方向を示せるものなり。進行方向中初めの進行方向と後の進行方向との異なるものあるときは、何れも進行方向中に加へ、又「」にて示せるものも進行方向中に加へたり。重複は「」の方向に對して附したるものにして、初めと後との進行方向異なるときは後の方向に重複を附せり。内地にては四百三十五回の進行性雷雨に就きて見るに北東に最も多く進行し、それに次ぐものは東なり。臺灣に於いては三十二回の進行性雷雨に就きて見るに北東に最も多く、それに次ぐものは東北東なり。

第三十七表及第四十表は擴大性の雷に對する進行方向、即ち最も多く擴

第二圖 臺灣四季別雷雨回数曲線圖 (始雷時刻別)



第三圖 地方別 (月別) 雷雨回数曲線圖 (内地之部)

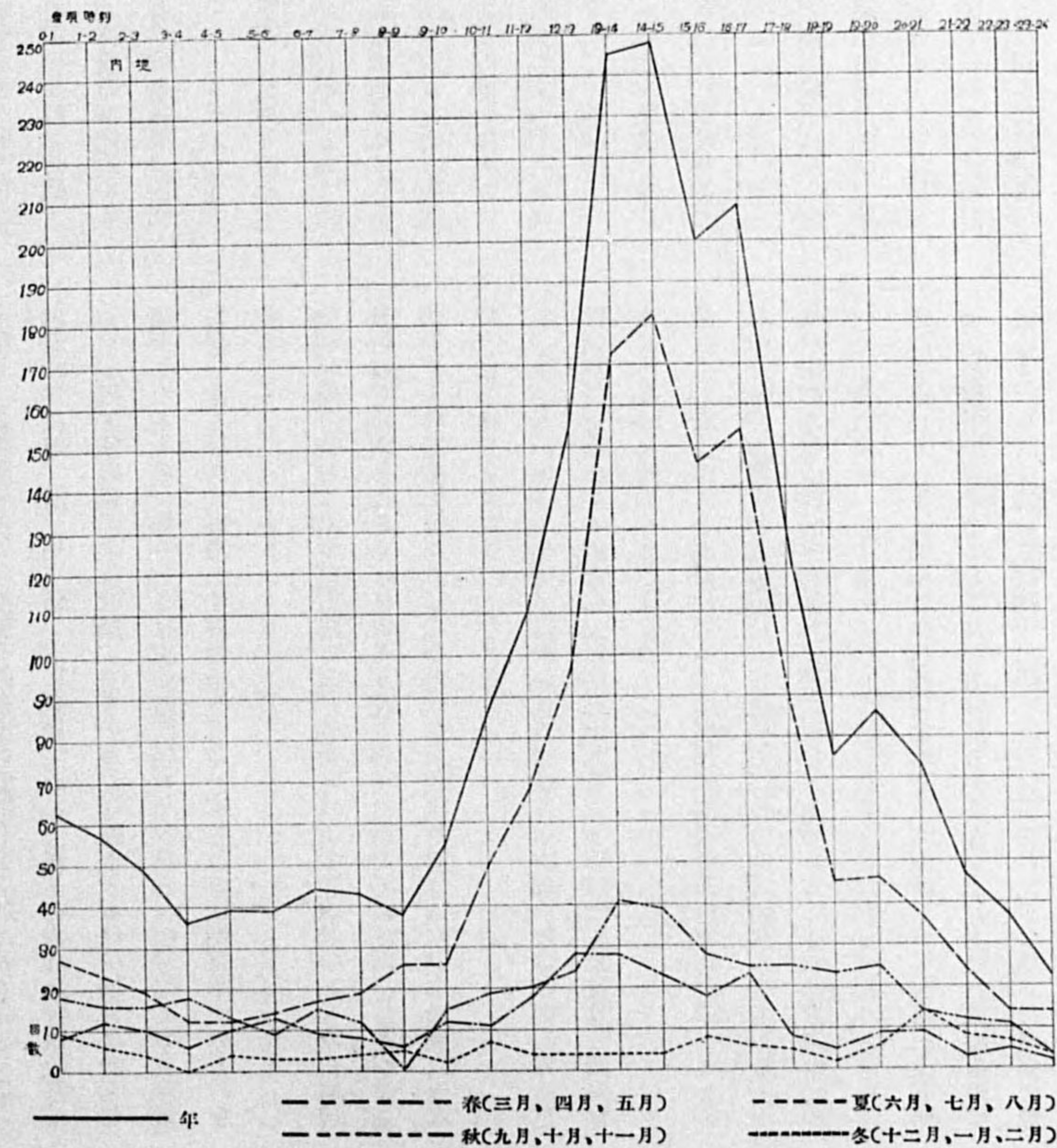


大せる方向を示すものにして、全國雷雨一覽表の擴大性雷雨中最も多く擴大せる方向のあるものに就きて統計したるものにして、「」に對して重複を採り、何れの方向にも同様に擴大したるものは除けり。内地に於いては十七回の擴大性雷雨に就きて見るに、北東へ擴大する傾向最も著しく、それに次ぐものは南東なり。臺灣に於いては統計に用ひたる雷雨回数僅少なるを以つて、何れの方向に多く擴大せしかを知るを得ず。

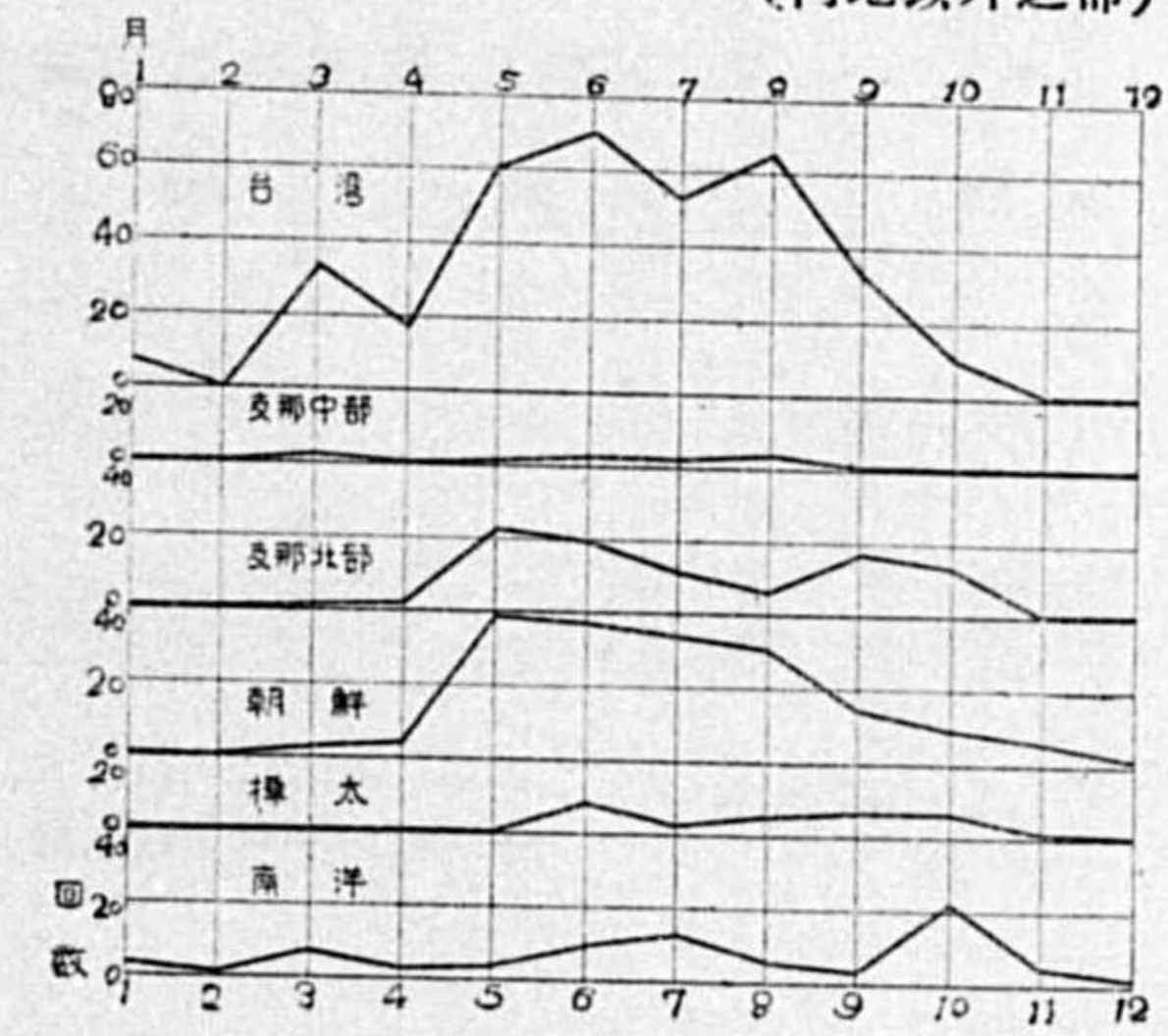
第三十八表及第四十一表には夫々第三十六、三十七表の和、第三十九、四十表の和を記入せり。内地の五百十二回の雷雨に就きて見れば北東に進行又は擴大するもの最も多く、それに次ぐは東に進行又は擴大するものなり。臺灣の三十八回の雷雨の中北東に進行又は擴大するもの最も多く、それに次ぐは東北東に進行又は擴大するものなり。

五、第一圖及第二圖には夫々内地及臺灣に於ける四季別にしたるものと、全年との發雷の時刻別雷雨回数曲線にして載せたり。これ等の圖に於ける時刻は内地は中央標準時、臺灣は西部標準時を用ひたり。これ等の圖に

第一圖 内地四季別雷雨回数曲線圖 (始雷時刻別)



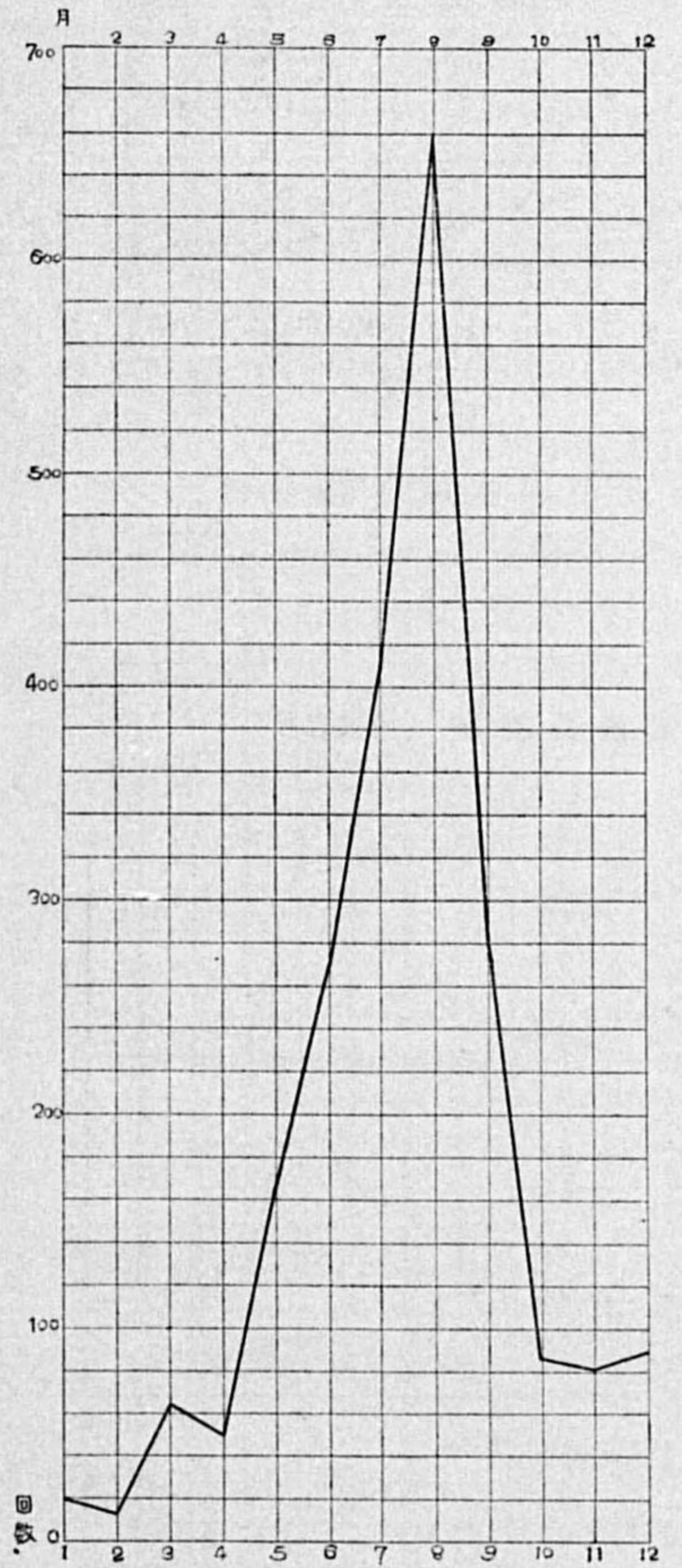
第四圖 地方別(月別)雷雨回数曲線圖
(内地以外之部)



就きて見るに全年を通じては、十四時と十五時との間に始發せる雷雨回数最も多きを知るべし。圖の製作に用ひたる數字は第二十二表及第二十三表中にあり。第三圖には内地の各地方に對する月

別雷雨回数を示し、第四圖には内地以外の地方に對するそれを示す。又第五圖には内地全體の月別雷雨回数を圖示せり。これに依れば内地に於いては、八月に最も多く雷雨の發現せるを見るべし。
六、本年内地及臺灣に於ける全體の雷雨の發現場所、進行方向等を月別に圖示すれば、卷末の圖版第二より第十三の如し。圖中の記號は左の如き意味を表はすものなり。
「▲.....x」 擴大したる雷にして、xは發現場所、▲は主にその方向に擴大したるを示す
「.....」 その線附近に發し、その近所に停滞したる雷
「↑」 その方向に進行したる雷
「●」 範圍小なる(局發性)雷
「○」 範圍相當大にして停滞したる雷
「—」 その線に沿ひて擴大したる雷

第五圖 内地に於ける月別雷雨回数曲線圖



二、各月顯著雷雨

左に本年度に出現せし雷雨の中顯著と思はるゝもの及相當優勢なる雷雨多數出現せる日のものに就きて其概要を掲ぐ。されども觀測所の稠密ならざる地方、又は觀測所は稠密なるもそれらよりの報告を得ざりし地方、即ち支那、朝鮮、樺太、南洋にありては、顯著なる雷雨ありても、それを知るに由なければ、此處には記すを得ざりき。本年臺灣には顯著なる雷雨は一回も發現せざりき。

一月

顯著なる雷雨は發現せざりき。

二月

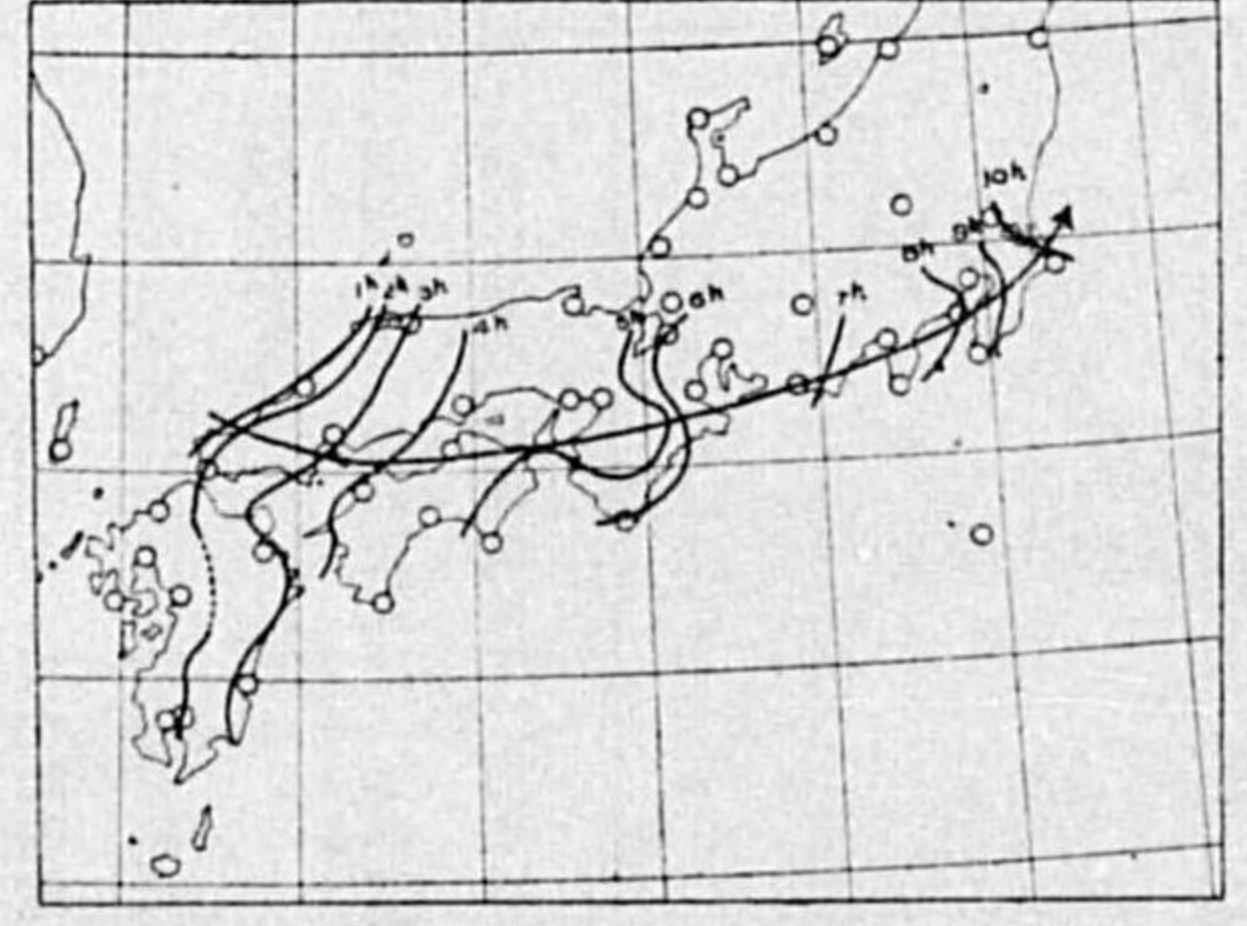
顯著なる雷雨は發現せざりき。

三月

十二日の雷雨 十一日夕刻朝鮮南西部の沖にありたる低氣壓は東北東に進行し非常に發達し、十二日朝鳥取の沖合に達せり。然して木浦府西方沖合にありたる頃より朝鮮海峡通過の際まで其前面に雷雨を伴ひたり。

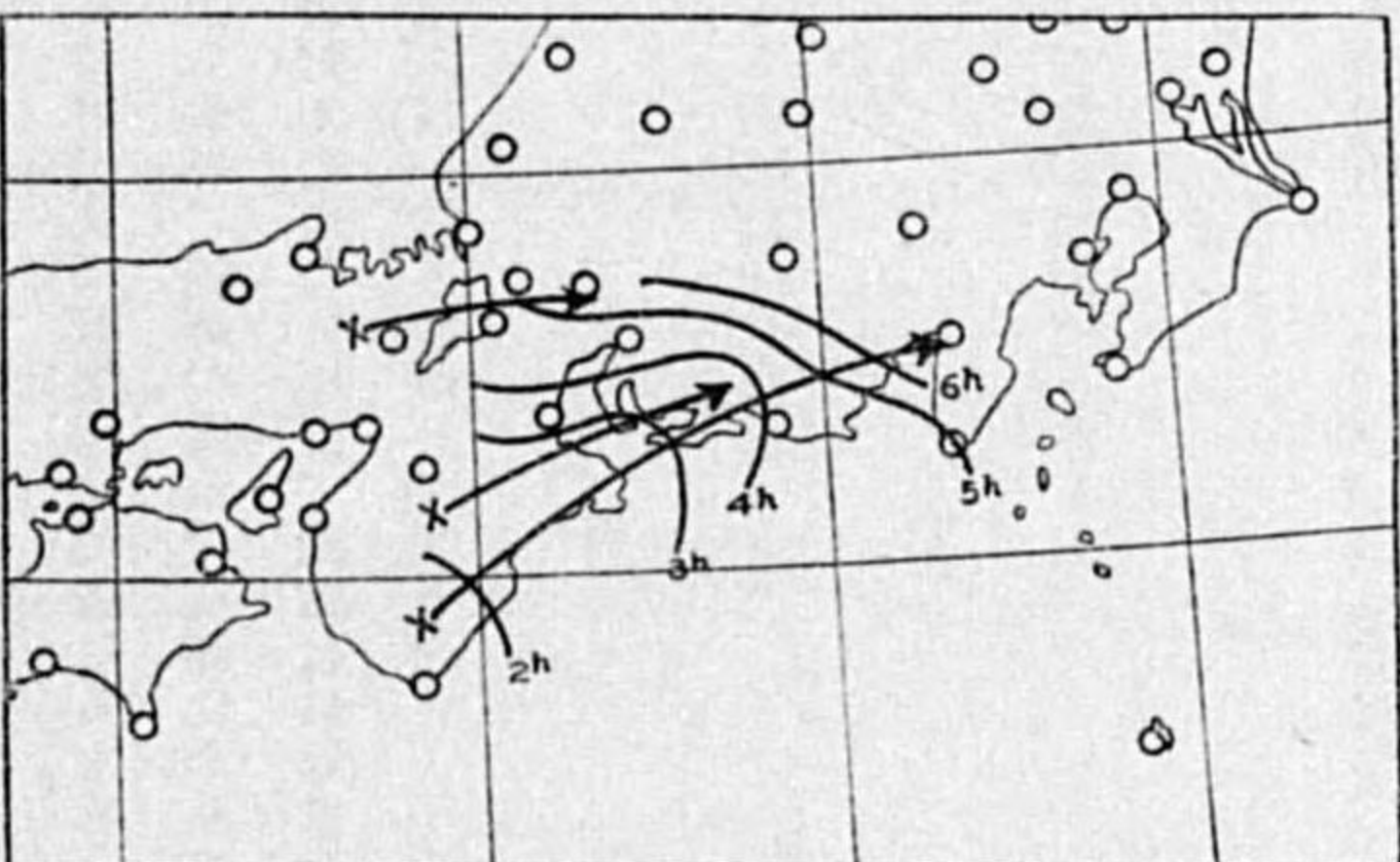
木浦にては十八時少し過より雷鳴降雹あり。釜山、濟州島にては二十時過より雷雨を観測せり。殊に朝鮮海峡通過のときは對馬島に強烈なる雷雨を起し、降雹を齎し、正に日本海に入らんとする十二日零時過に響洋西方にある沖の島附近に更に強大なる雷雨發現し、東方に進路を取り、

第六圖 雷の發始の時線



一時過長門、石見の沿岸に上陸し、二時頃より急に南方に擴大し、北は出雲沿岸より南は九州南端に至る稀有(四百十軒)の幅員となり、主軸は二時過關門海峡附近に強鳴と共に降雹を齎し、それより内海北岸に強雷しつゝ東進し、四時頃備後洋を過ぎ、四時半頃讃岐、備前地方に達し、強雷降雹あり、香川縣仲多度郡與北村、香川郡丹座村、同郡太田村等に落雷あり、住宅三棟を燒失せり。それより五時過紀伊水道を渡り、和歌山縣に達し、日高川流域地方に鷄卵大の雹を降らし、一方紀伊山脈上にも一時過一つの強雷雨發生あり、同山脈地方に降雹を齎し、それより東方に進行し、三時頃遠江洋に入り、五時頃伊豆半島を掠め、六時頃房總沖を通過せり。然して前記大雷は此の後を追ひ、六時頃熊野洋沿岸に強雷降雹しつゝ遠江沿岸に沿ひ七時過伊豆半島に達し、同地方一帯に強雷降雹あり、七時半頃相模洋に出で、八時頃浦賀水道を経て、九時頃兩總地方に強雷降雹しつゝ九時半頃遂に太平洋に去りたり。此の雷の進行速度は毎時平均六十軒乃至百二十軒なりき。東京市にては八時三十九分より九時十分迄強雷を観測し、八時十六分より少時間小豆大の降雹ありたり。此の北邊は一時半頃石見、出雲兩國一帶の地方

圖七第 雷及線時等發始の雷 向方行進の



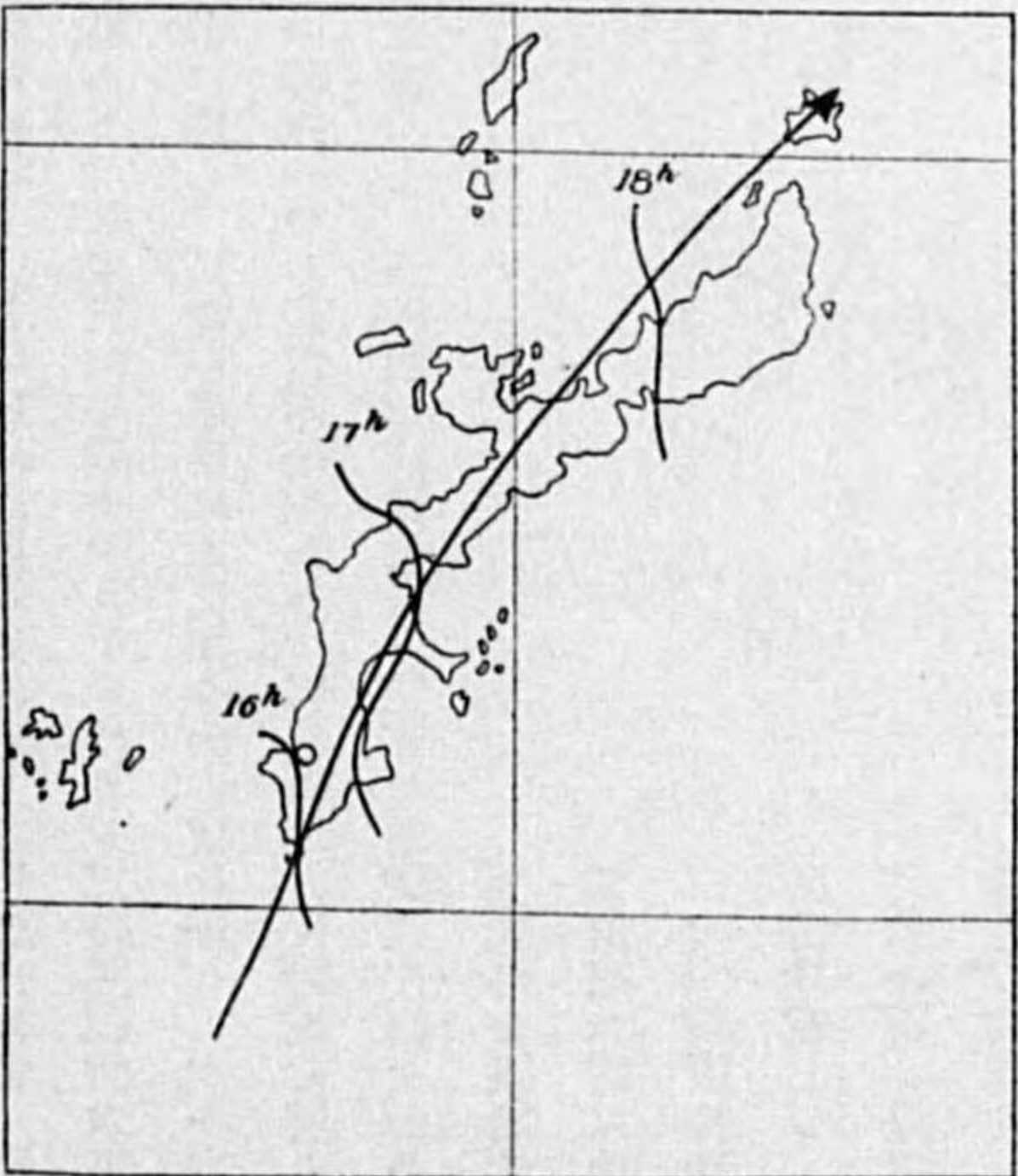
日二十月三 雨雷るけ於に部中州本及西關・畿近・陰山

に擴大しつゝ同湖東岸一帯の地方に強鳴と共に大豆大の降雹あり、それより東方に進路を取り、近江、美濃南部、尾張等一帯の地に強雷降雹あり、三重縣三重郡千種村に落雷あり、住家一棟焼失せり。六時半頃三

此の外四時半頃琵琶湖西岸に發したる雷雨は同湖沿岸に強雷しつゝ、東進し、五時過岐阜縣揖斐川流域に達し、又紀伊川上流域にも四時半頃發生したるものあり、共に合して岐阜、愛知兩縣下に強雷あり、六時過三河、遠江の國境附近に至り終熄せんとしたるとき、更に五時半頃琵琶湖上に強烈なる雷雨發現あり、南方

に強雷あり、それより少しく東進して出雲、伯耆、備後の三國境附近に到り俄に勢力衰へ、遂に二時半頃同地方に雷鳴歇みたるも雲は尙東進したるものゝ如く、明石市、豊岡町を連ぬる線上にては五時頃より降雨ありたり。南邊は優勢ならざるも二時前九州北部地方に雷鳴を始め、南方に向ひ、二時半頃大分縣に擴大し、同縣下一帯に雷鳴あり、それより方向を東南東に取り、進行を始め三時過豊後水道を渡り、四時過石槌山を経て、四時半頃高知縣北東部を過ぎ、五時頃遂に洋中に入りたり。

圖八第 雷及線時等發始の雷



日二十二月三 雨雷るけ於に島總沖

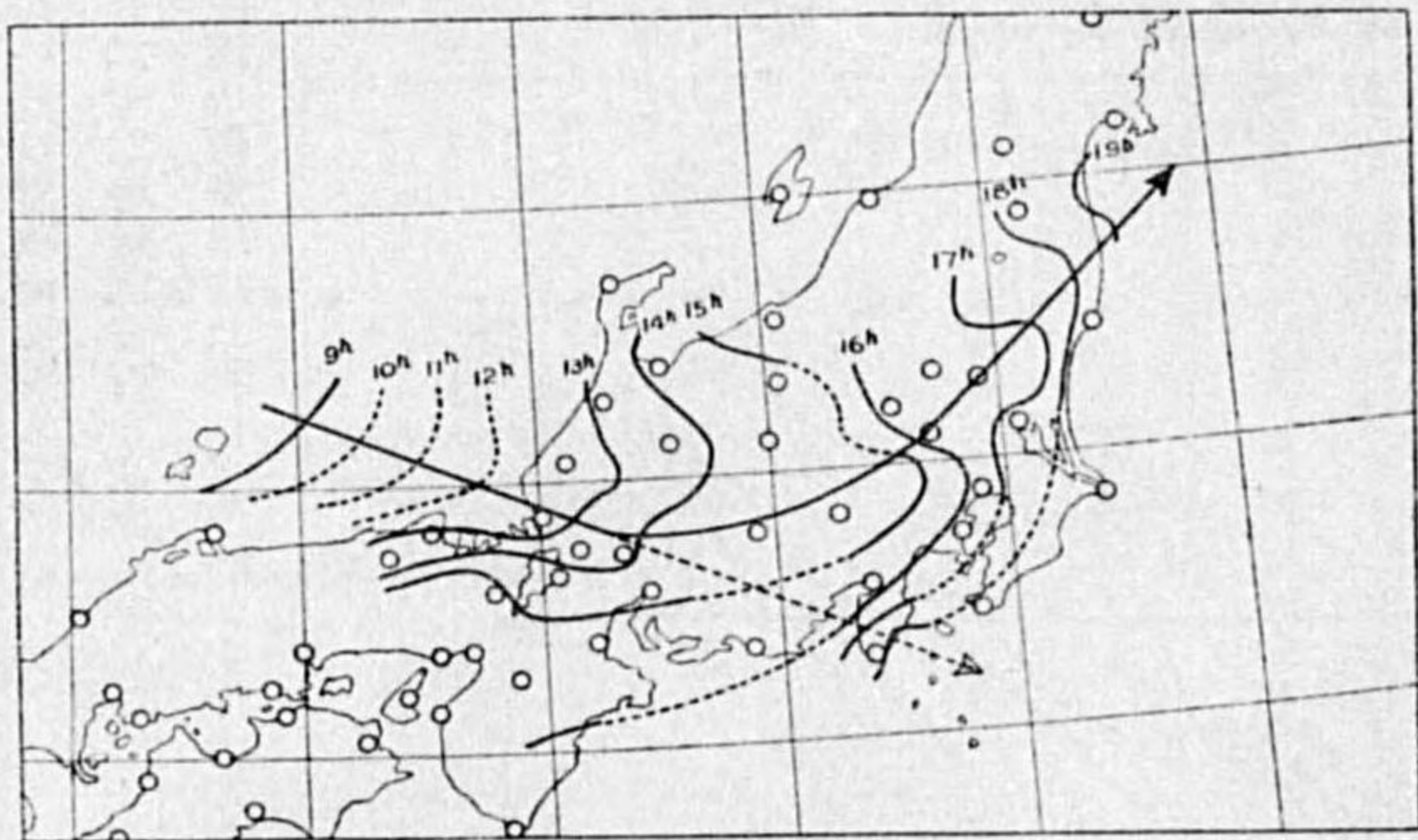
此の日沖繩島南東方海上に十六時前發したる勢力相當大なる雷雨あり。進路を北々東にせり、十八時半頃此の島を去りて海に入りたり。此の雷雨に際しては別に被害はなかりき。第八圖は此の雷の一時間毎の雷の始發等時線なり。

河、遠江地方に至り、前記諸雷と合一して東進し、七時頃赤石山脈を越え、七時半頃富士山を越え、八時頃相模地方に出で、前記響洋に發して東行したる大雷雨と同地方にて出會ひ、後合して東京府下を通過し、九時過常陸、下總地方に雷鳴ありて十時前遂に太平洋に去りたり。これ等は此の日の主なる雷雨にして第六圖、第七圖はこれ等の諸雷の始發場所と始發等時線を示す。
二十二日の雷雨 十八時の天氣圖に依れば低氣壓帯は支那大陸より北海道、樺太方面に達し、沖繩島にては南東風吹き天氣良好なり。

四月

十三日の雷雨 本日六時には高氣壓は支那大陸に、優勢なる低氣壓は日本海と奥羽東方海上とにあり、日本のものは勢力次第に衰へ、奥羽東方のものは次第に北方に進行し、十八時には北海道南東に達したり。正午頃までは本州にては風強からず晴天の處多けれ共、十八時には北西風も強まり、日本海岸にては降雨中の處多し。

圖九第 雷及線時等發始の雷

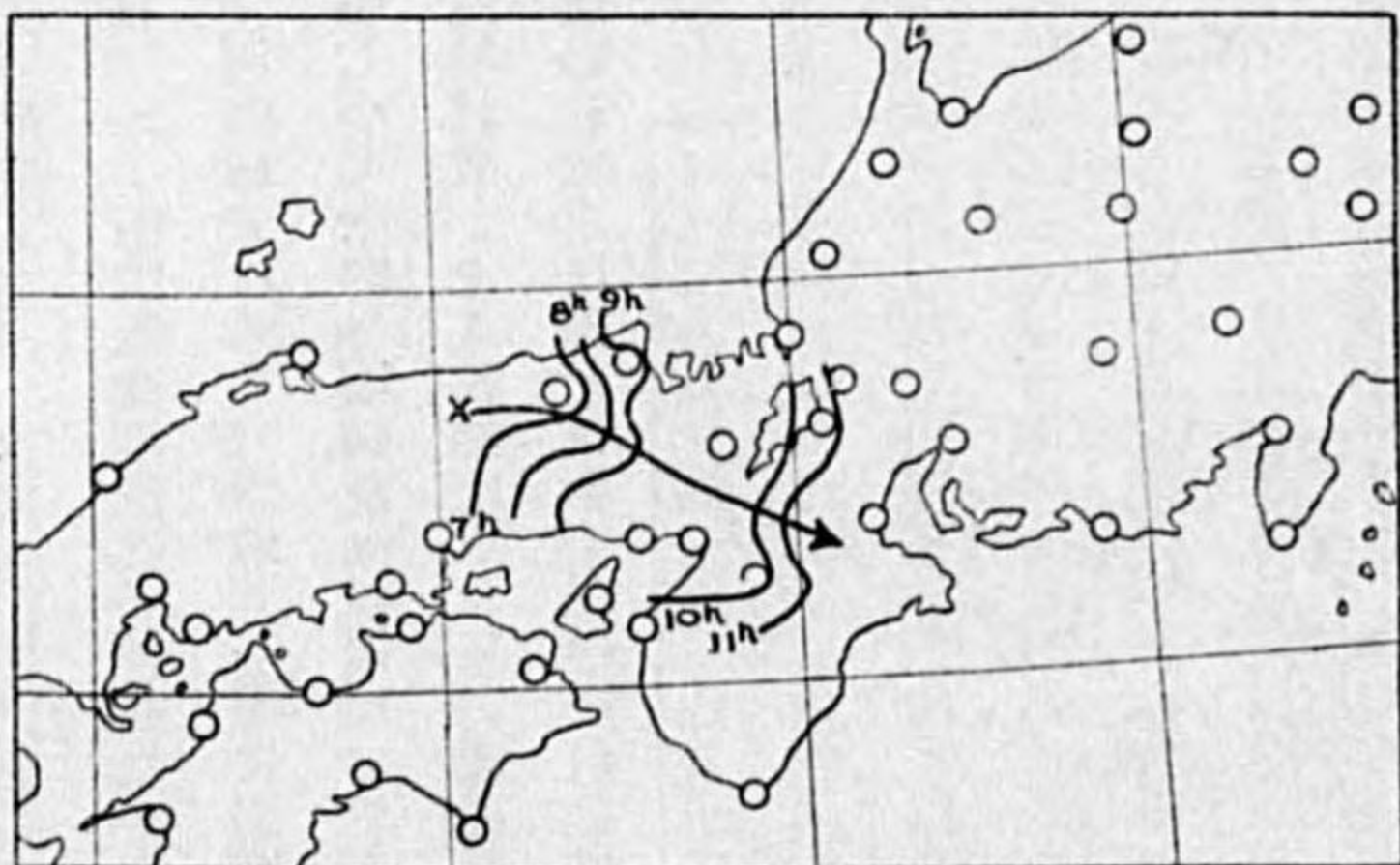


日三十月四 雨雷るけ於に畿地方中部本邦より海本日

下に入り、岐阜縣中部地方より進路を東北東に變へ十五時過關東に入

此の日十五時半頃男體山附近に發して所々に大豆大の降雹を齎し、八十軒の幅員を保ちて東方に進み、十六時半過栃木縣下を経て、十七時過鬼怒川を渡り、十七時半頃鹿島洋に入りたり。同日八時過隱岐國北東方海上に發現して東南東に進み、十二時半頃若狹灣より若狹國に上陸し、十三時頃岐阜縣

圖十第 雷及線時等發始の雷



日二十二月四 雨雷るけ於に畿近及陽山・陰山

雷雨 十一日十八時の天氣圖に依れば低氣壓帯は日本海北西部に在り。高氣壓は滿洲より九州を経て本邦南海岸に向ひ足形を呈す。十二日六時に

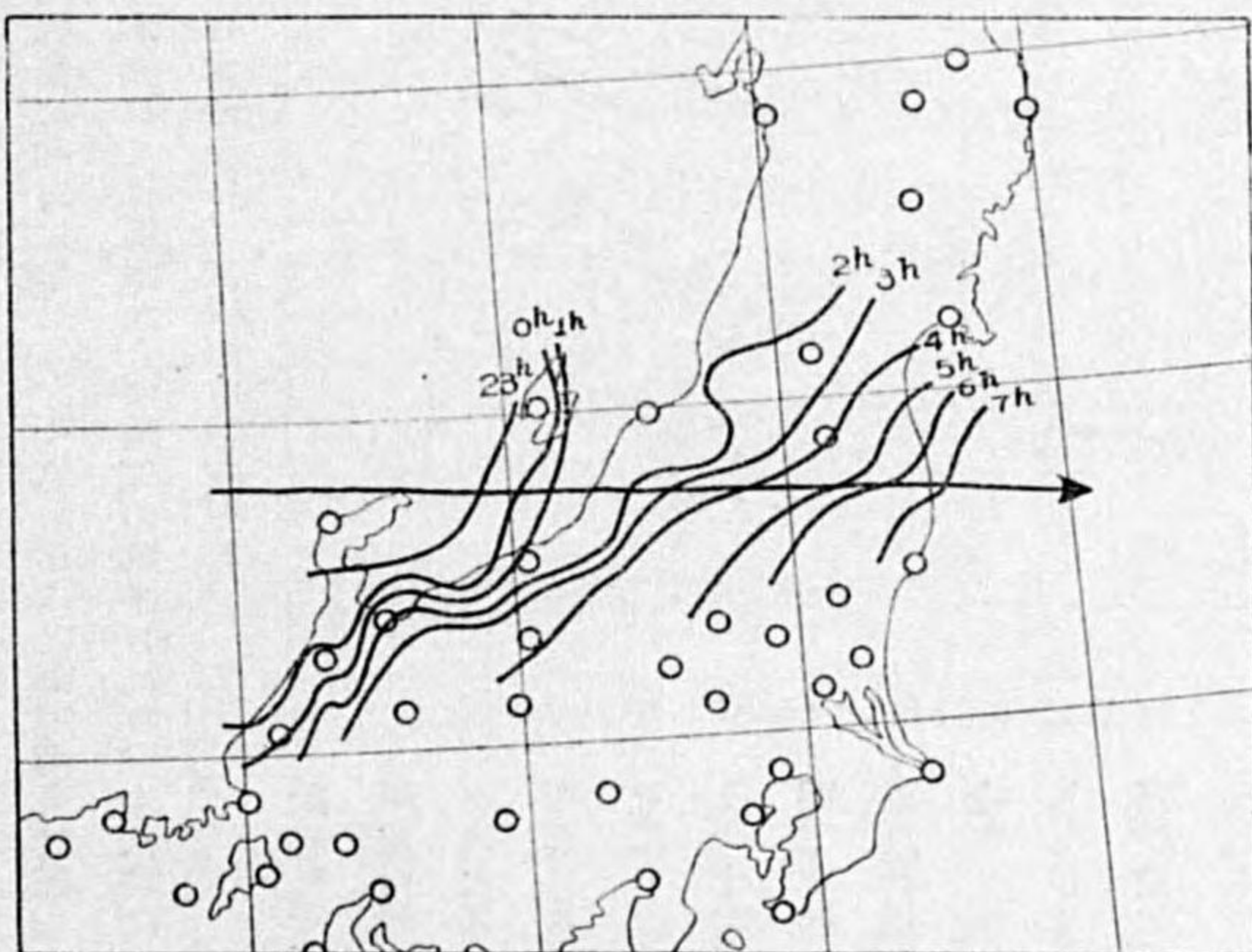
此の日六時過但馬、丹後、播磨の三國境附近に發して九十軒の幅員を保ち、平均毎時三十軒乃至五十軒の速度を以て南東に進み、九時半頃大阪市と京都市とを連ぬる線を越え、十一時過伊賀、山城の國境附近に達し、十二時半頃消滅したる雷ありたり。第十圖には此の雷の始發場所と一時間毎の雷の始發等時線を示す。

五月

於いては前記低気圧は北海道西部沖合に進み、高気圧は朝鮮中部にありてその一端は若狭海に突入す。

十一日二十二時過能登西方沖合に發したる雷雨は二十三時頃加賀、能登、佐渡の西海岸に上陸し、それより北陸道沿岸を東南東に進行し、翌

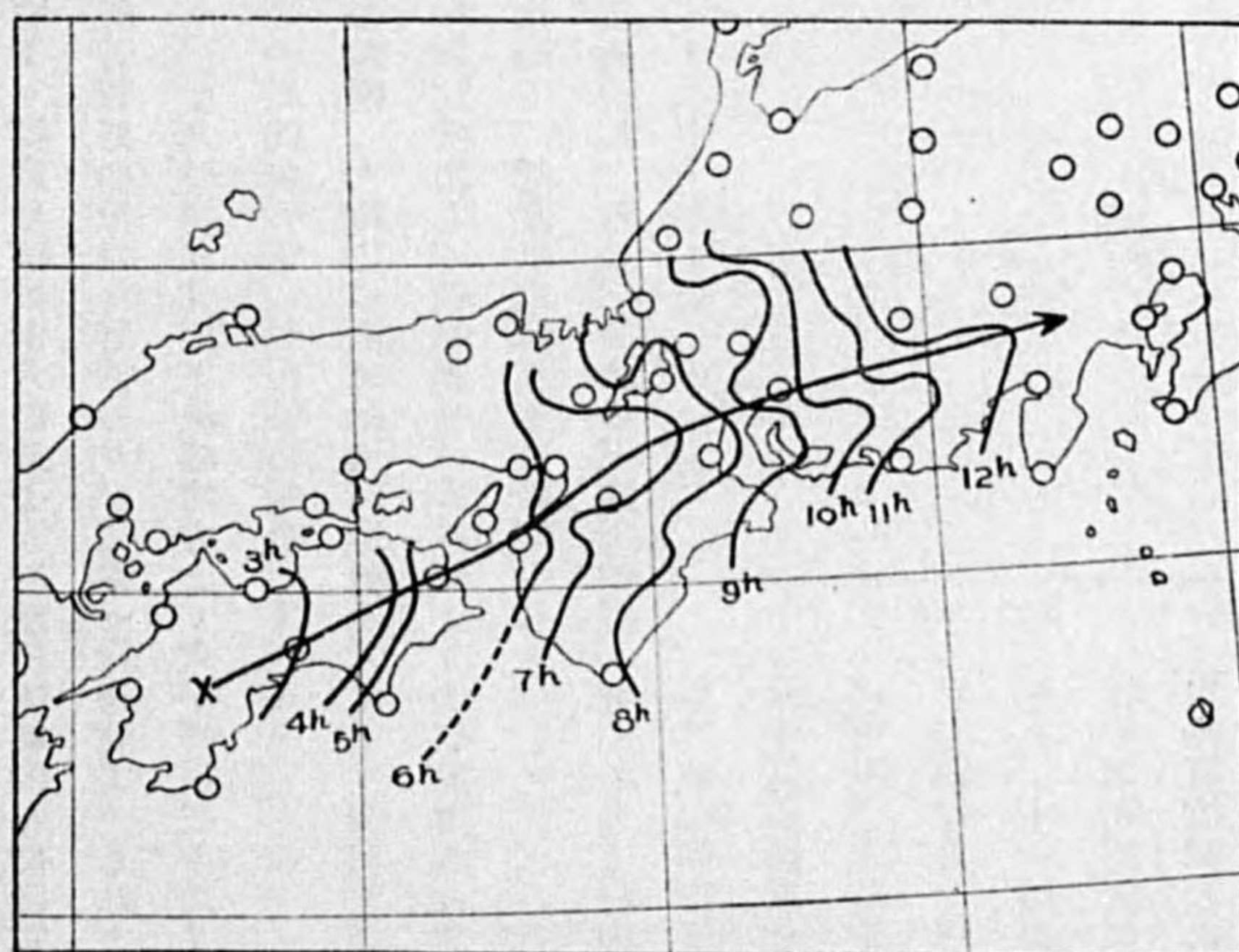
第十圖 雷の始發等時線



五月十一日二十日 北陸・本州中部及東部 奥羽に於ける雷雨

一時頃越後國直江津町、柏崎町附近を過ぎ、三時半頃信濃川中流域を過ぎ、四時過會津地方に入り所々に降雹を齎し、五時頃阿武隈川中流域を経て六時過太平洋に去りたり。第十一圖に此の雷の一時間の雷の始發等時線を示す。

第二十圖 雷の始發等時線



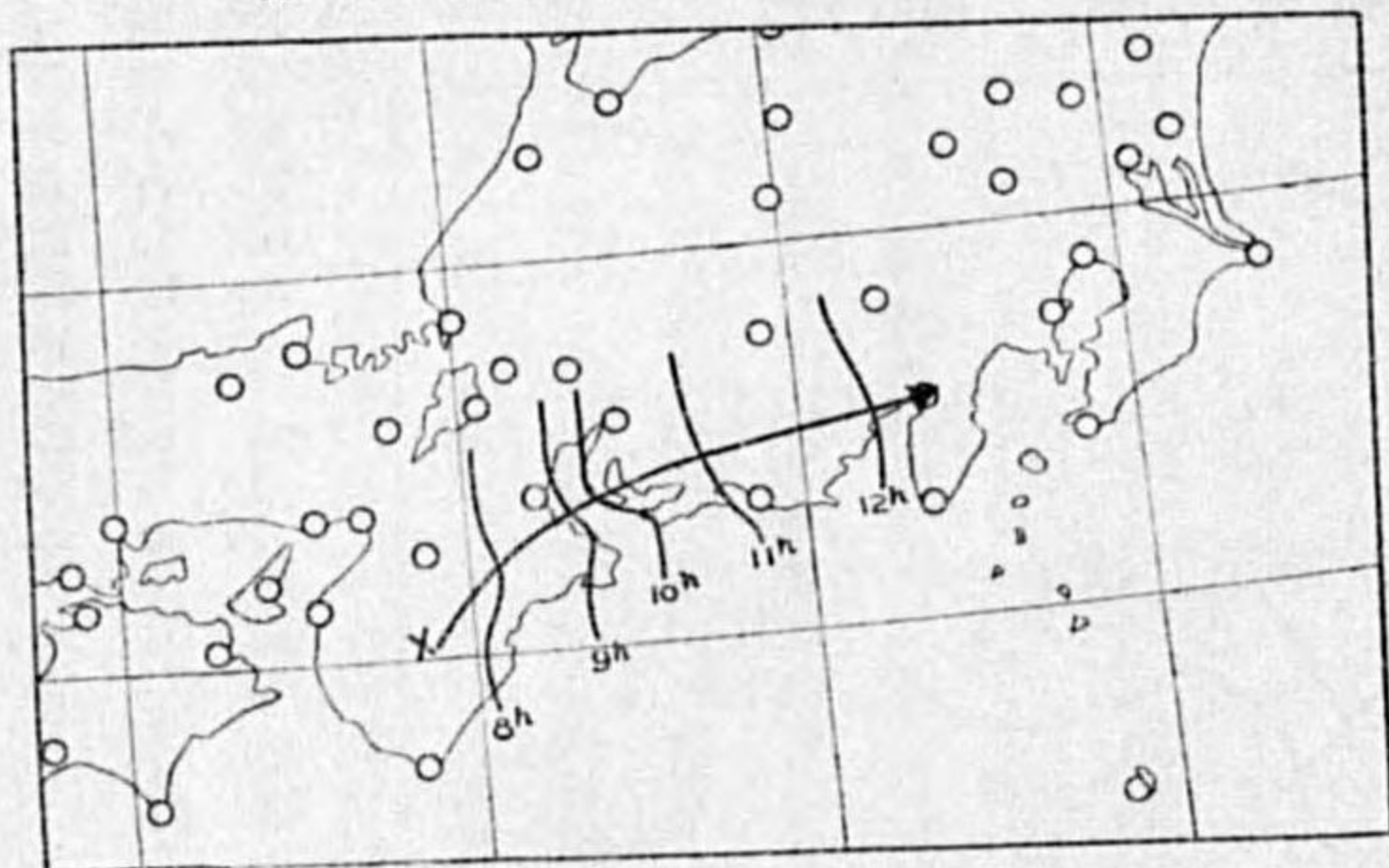
五月十一日 四日 本邦中部に至る雷雨

二十一日の雷雨 六時の天氣圖に依れば低気圧は日本海の中部に在りて北東に進行す。紀伊水道にも小低気圧存す。二十度の等温線は紀伊水道にて楔型を呈す。

此の日三時半頃大阪灣南側に始發したる雷は北東に進み四時半頃攝津、和泉、河内地方に入り、同地方一帯に強雷せり。六時頃京都府地方に入り強鳴しつゝ七時半頃琵琶湖西岸にて消失せり。又二時頃土佐の四萬十川上流域に發したる雷雨は東北東に進路を採り、五時半過紀淡海峽に達し、進路を北東に轉じ百七十軒の幅員を保ちて近畿に入り、琵琶湖南部

に於て前雷と合して近畿一帯の地方は強雷激甚を極む。然して八時頃進路を再び東南東に轉じ、八時半頃岐阜縣地方を経て、十一時頃木曾川流域を過ぎ、十二時頃赤石山脈に達し、勢力急減し、辛うじて同山脈を越えたるも富士山に遮られ十二時半頃遂に消滅せり。第十二圖に此の雷の始發場所と一時間毎の雷の始發等時線を示す。七時頃熊野川上流伯母子山附近に發したるものは最初北東に進路を採り八時頃紀伊、鈴鹿の山脈地方を越えたる頃より東北東に方向を變へ、九時頃伊勢灣を経て十時半三河、尾張地方に至り強雷あり。十一時頃天龍川下流を渡り、十二時半頃沼津市附近に達し、十三時頃消失せり。第十三圖に此の雷の始發場所

第三十圖 雷の始發等時線



五月十二日 近畿・西關及本州中部に於ける雷雨

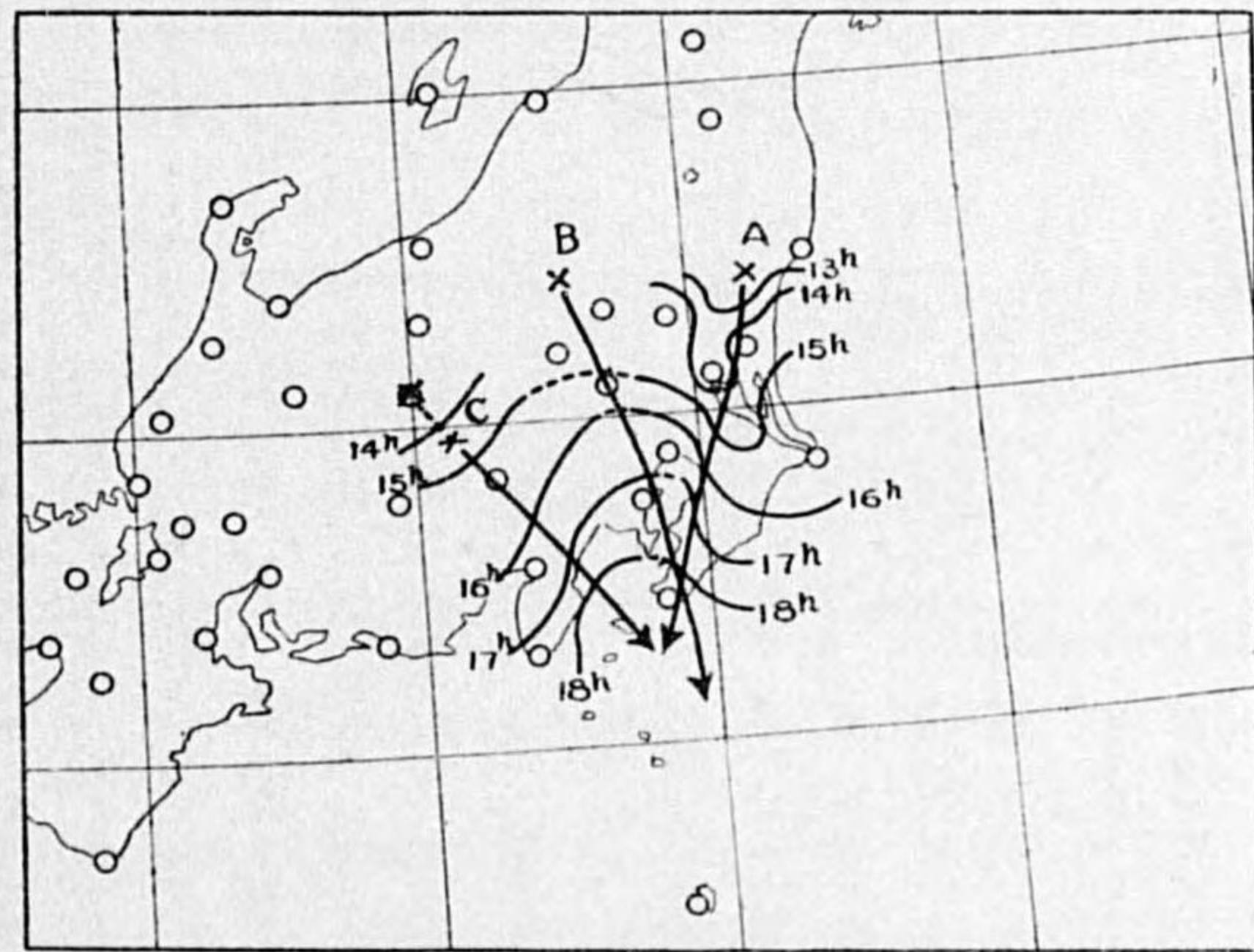
紀の川中流域に發したるものは同流域地方に強雷して南東に進み、八時

頃熊野川流域に出で、同流域に強雷しつゝ十一時過熊野灘に入りたり。四時半頃若狭灣北西方沖合に發したるものあり。南東に進み同灣沿岸一帯の地方に雷鳴あり、六時半頃敦賀町附近に至りて終熄す。十三時頃新潟縣阿賀野川下流域に發したるものは北東に進み、十五時半頃山形地方を経て、十六時頃陸前野原、黒川兩郡地方に達し消失せり。十五時半頃岩城國那須山附近に發したるものは北東に進行し、十六時半頃阿武隈川流域に出で、同流域地方に強雷あり、十八時半頃同下流域を経て、二十時過石巻町附近に達し、二十一時過ぎ北上川下流域にて終熄せり。これ等は此の日の主雷なり。

二十四日の雷雨 十二時の天氣圖に依れば高気圧は本邦南海岸と能登沖とにあり、低気圧は北海道南東部の沖合と滿洲北部とにあり。本州中部にては小低気壓發生せんとする模様あり。二十度の等温線走向は日本海より金澤市附近を経て長野市、松本市間を通り北に曲り、新潟西方を北東方に過ぎ、盛岡市附近を経て宮古町北方を海に入り、急に南下して小名濱町附近より筑波山西麓を経て南東に向ひ銚子町南方沖に走れり。此の日十三時頃(B雷)群馬縣北甘樂、多野兩郡西部地方に發したる雷は少しく東北東に進み、十三時半頃桐生市地方に達して十四時頃終熄せんとしたるとき、更に十四時過群馬縣利根川上流に強雷雨發生あり、前雷と合して同縣下一帯に強雷あり。伊香保町に落雷あり。それより七十軒の幅員を以て南々東に進路し、十四時半頃熊谷町附近を過ぎ、十六時過東京市附近に達し、東京市内赤坂區傳馬町、新谷町、水川町等に落雷あり、十七時半頃房總地方を経て、十八時半頃太平洋に去りたり。進行速度は平均毎時二十七軒なりき。東京市にては十六時二十五分より十七

時三十分迄強雷雨を観測したるが、降雨中少時間小豆大の降雹を見た。十三時前筑波山附近に發したる雷は少しく西南西に進行し十四時半頃終熄せんとしたるとき、更に十三時前(A雷)久慈川流域久慈郡地方に發したる強雷雨あり、前雷と鬼怒川流域にて合し、擴大しつゝ九十軒の

線時等發始の雷 圖四十第



雨雷るけに部中州本及東關 日四十二月五

幅員を保ち南々西に進み、霞ヶ浦附近を経て十五時頃利根川を渡り、下總、上總地方に強雷しつゝ十六時半頃東京灣に入り、十七時半頃同灣中部を過ぎ、十八時頃同灣を出で、十九時過伊豆國大島附近海上にて遂に

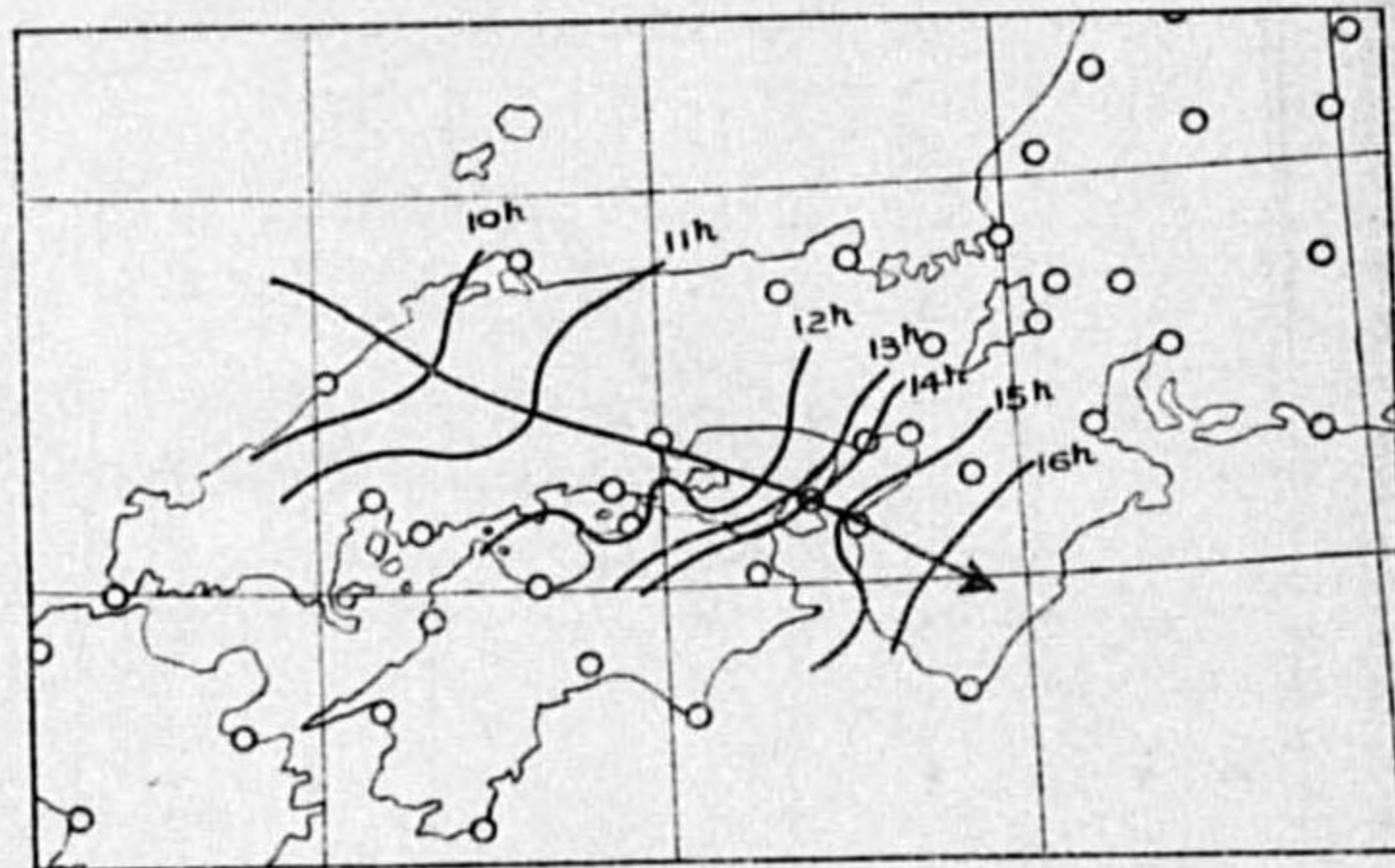
消失せり。進行速度は平均毎時四十軒なりき。十四時頃(C雷)長野縣八ヶ嶽附近に發したるものは、十五時過甲府盆地に入り、精進湖附近に大豆大の降雹を齎し、それより八十軒の幅員となり南東に進み、十六時過相模の酒匂川上流に出で、相模一帯の地方に雷鳴あり、十八時過相模灘に入り、十八時半頃房州を掠めて遂に太平洋に去りたり。進行速度は平均毎時三十軒乃至四十軒なりき。第十四圖にこれ等の雷の始發場所と一時間毎の雷の始發等時線を示す。

三十日の雷雨 六時の天氣圖に依れば高氣壓は本邦全部を掩ひ、低氣壓は西比利亞東部に在り。本邦に於ける氣壓傾度は全く小にして北陸及本州中部は曇天、東海道及關東方面は降雨あり。

此の日三時前出雲の西方海上と隱岐國南東海上とに強雷雨發現あり。兩者共南東に進行し、前者は四時頃出雲、石見の海岸に上陸し、簸川流域地方に強雷降雹あり、五時頃中國山脈を越え、六時頃内海中部に達し消滅せり。後者は六時過但馬國に入り五十軒の幅員を以て、八時頃丹波國を過ぎ、十時過鈴鹿山脈を越えて關西地方に至り、十二時過遠江洋に去りたり。又九時半頃出雲、石見の西方海上に發して南東に進路を取り、十時半頃中國山脈を越え、備後、備中地方所々に降雹及落雷あり、爲に農作物其他被害甚しかりき。十一時過内海に達し急に速度遅緩となり殆んど停滞の狀なりしが、十四時過再び進行を始め讃岐、阿波地方所々に降雹を齎しつゝ十五時過紀伊に入り、十六時過紀伊山脈に達し、十七時過消滅せり。第十五圖に此の雷の一時間毎の雷の始發等時線を示す。又八時過若狹灣西方遙かなる沖合に發現したる大雷雨は勢力頗る大にして、其幅員も亦稀有なるものにして三百軒以上を保有せり。然し九時

過但馬、丹後、若狹、越前の海岸線に上陸し、能登の西海岸にては八時半過既に此の雷を観測せり。今、此の雷の路筋を

線時等發始の雷 圖五十第

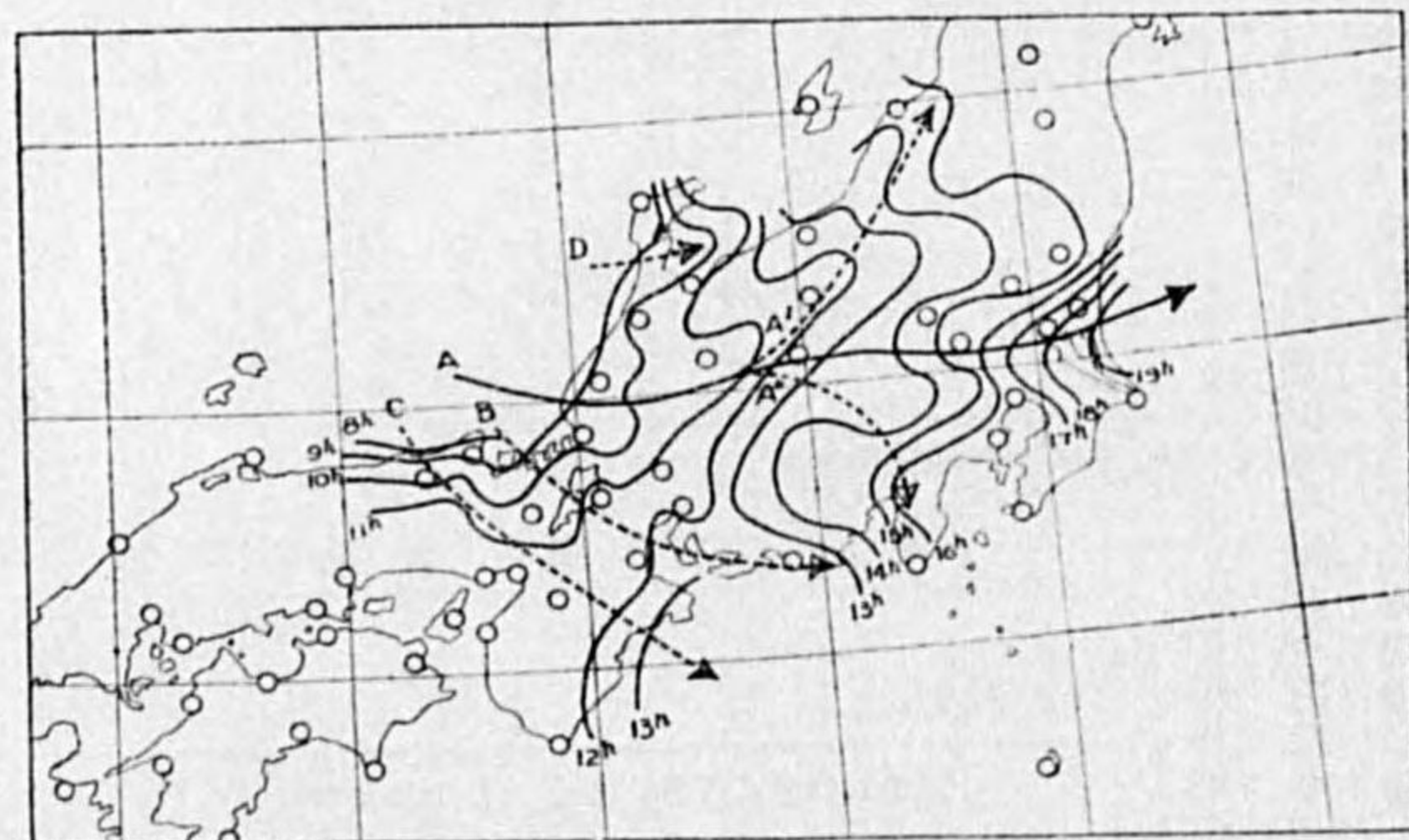


雨雷るけに畿近及國四・國中 日十三月五

A・B・C・Dに區分し記すれば次の如し。「A部」は本雷の主軸とも稱するものにして九時過越前國及加賀國沿岸に上陸し同地方一帯に強雷あり。それより東方に進路をとり白山北西麓に大豆大の降雹を齎し、石川縣能美郡山中町に落雷あり。十一時頃飛騨國に入り、十一

時半頃硫黃岳、乗鞍岳に達し、二派(A・A')に分れ、主軸は十二時過信州松本市附近を経て、十二時半頃群馬縣に入り、碓氷峠附近を過ぎ、十三時半頃赤城、白根の高峯を越え、十四時半頃宇都宮市附近を通過し、十五時半頃鹿島洋に去りたり。「A'」は十一時半頃信濃川に沿ひ北東に進み、十四時半頃新潟市附近に達し、十七時過終聲せり。「A''」は南東に進み甲府盆地に入り、富士川に沿ひて十六時頃駿河に至り、十六時半頃駿河灣にて消失せり。「B部」は九時過若狹灣南岸に上陸し、南東に進み十時頃琵琶湖地方に達し、滋賀縣東淺井郡、伊香郡地方に大豆大の降雹あり、草津町宇矢倉に落雷あり。家屋一棟燒失せり。十一時過鈴鹿山脈を越え伊

線時等發始の雷 圖六十第



雨雷るたひ畿を方地部中邦本りよ合沖方西灣狭若 日十三月五

進み、九時半頃富山灣に出で、同灣沿岸一帯の地方に強雷降雹あり。最

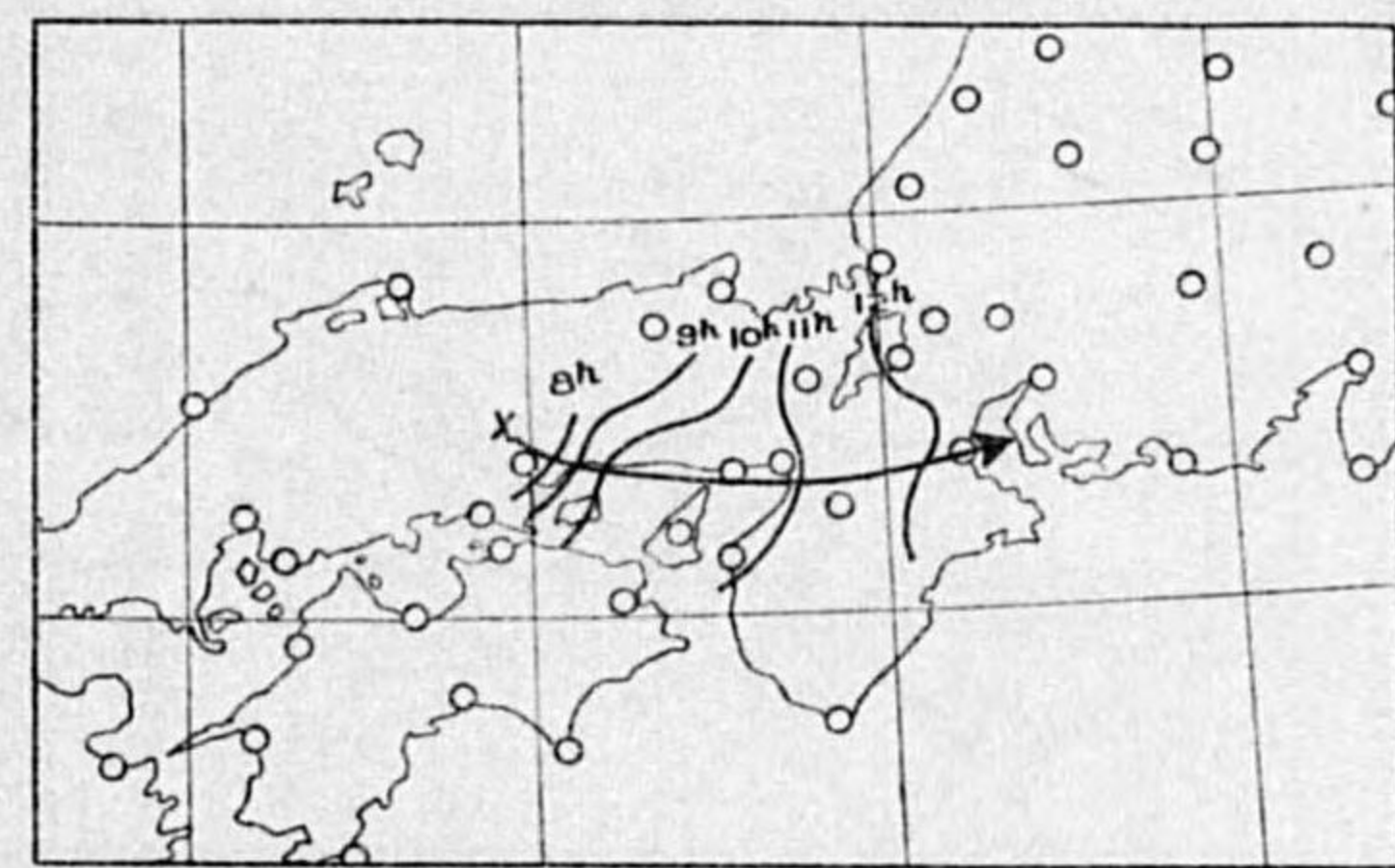
勢に入り、三重縣三重郡菟野村、鈴鹿郡關町等に落雷あり。十二時頃多半島を経て遠州に達し、勢力稍衰退したるも尙前進を續け、十三時頃大井川を渡り急に速度を減じ、十六時頃富士川下流域を過ぎ、沼津市附近に達して十七時頃遂に終聲せり。「C部」は九時過但馬、丹後の海岸に上陸し、南東に進み十時頃丹波に入り強雷激甚を極め、水上郡成松町、幸世村、船城村、生郷村、黒井町等に降雹あり。内最大なるものは直徑約七厘半以上に達し、翌日正午に至るも溶解せず、爲に農作物被害甚しく、其見積り高約六、七萬圓なりと云ふ。又多紀、水川兩郡内に落雷あり。震死者一名、家屋の燒失せるもの一棟ありたり。十一時頃京都市附近に至り強雷降雹あり。京都市寺町に落雷あり。十二時過山城、伊賀の國境附近に達し十四時半過終聲せり。「D部」は八時半頃能登西海岸に上陸し、東方に

大なるものは一錢銅貨大のものありたり。又富山市泉町、射水郡伏木町、西礪波郡戸出町、上新川郡針原村、婦負郡四方町等に落雷あり、一名震死し、倉庫一種焼失す。十三時半頃糸魚川附近に至りて十四時過遂に終聲せり。第十六圖に此の雷の一時間毎の雷の始發等時線を示す。

六月

二十日の雷雨 六時の天氣圖に依れば高氣壓は東海岸にあり、低氣壓は日本海南部に存す。

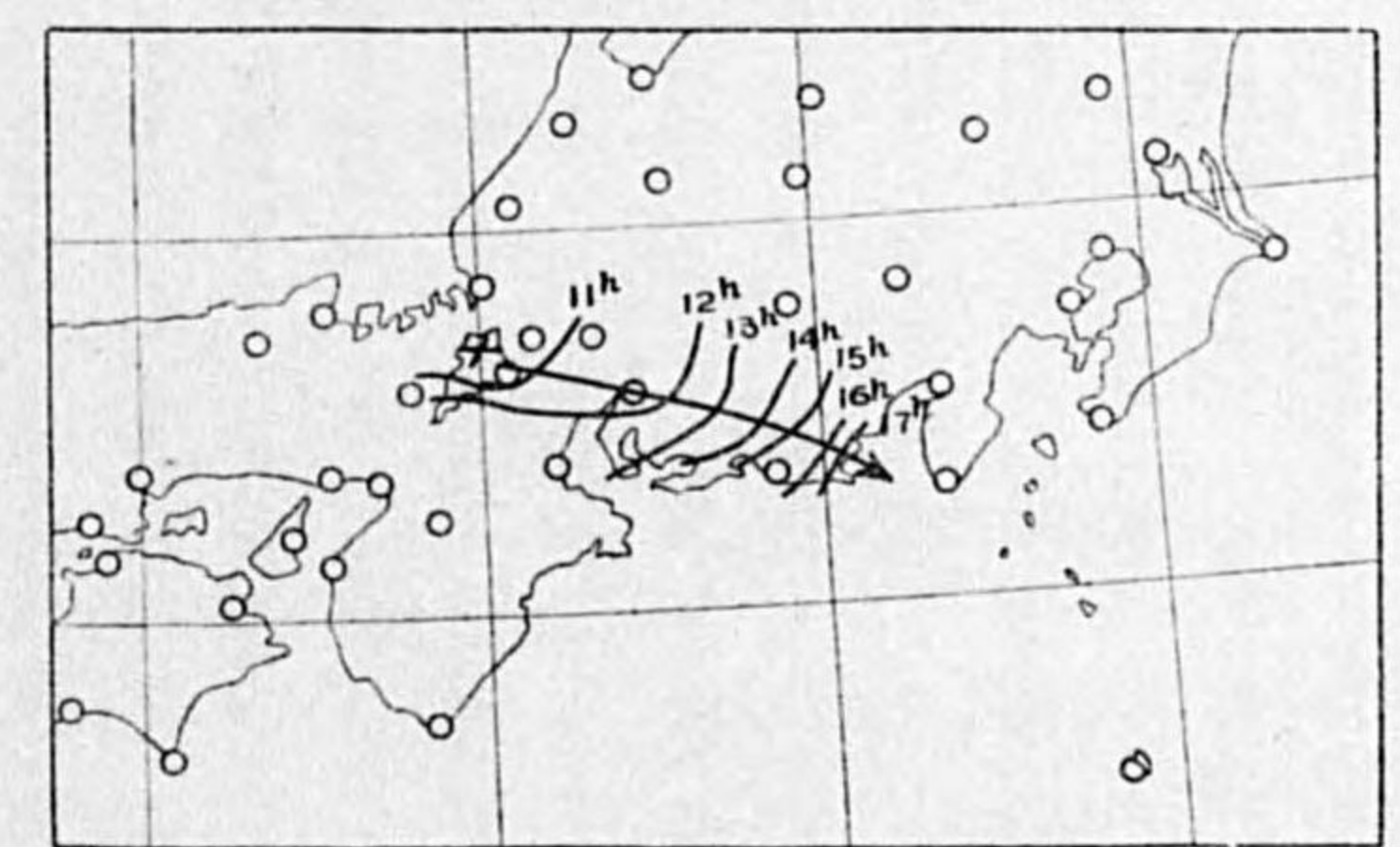
線時等發始の雷 圖七十第



雨雷るけ於に畿近及國西・陸山・陽山 日十二月六

此の日七時過岡山縣西大川中流域に發したる雷は擴大しつゝ東方に進み八時過兵庫縣に入り、十時過大阪灣東岸に大雨を降らし、大阪市にては三時五十七分間に五十九耗六、和歌山市にては三十分間に百十耗六の多量を観測せり。然して主軸は十一時過京都、奈良地方を過ぎ、十二時頃鈴鹿山脈に達し、十二時過伊勢灣沿岸地方に出で、十二時半頃伊勢灣にて消滅せり。第十七圖に此の雷の始發場所と一時間毎の雷の始發等時線を示す。十時四十分頃琵琶湖上に發したるものは東南東に進路を取り、十一時過鈴鹿山脈北部を越え、

線時等發始の雷 圖八十第



雨雷るけ於に西關及畿近 日十二月六

十二時前尾張國に出でたり。十三時過三河國を通り、十四時頃天龍川に至り、十六時半頃同川河口地方に出で、十七時半頃大井川下流域地方に達し、同地方にて十八時前終に消滅せり。第十八圖に此の雷の始發場所と一時間毎の雷の始發等時線を示す。

二十八日の雷雨 十二時の天氣圖に依れば高氣壓は西比利亞、支那方面と小笠原島方面とにあり、低氣壓は樺太より本州を掩ふ。本州にては風弱く天氣好き方なり。

此の日十時半頃鬼首村(宮城縣)北方山地に發したる勢力相當大なる雷雨は十二時半頃仙臺市附近を過ぎて尙南方に進み、十四時頃福島縣北東部に至りたる頃より勢力次第に衰へ、十六時頃福島縣南東部に達したるも、十六時半前遂に其處にて終聲せり。此の雷に伴ふ被害は無かりき。

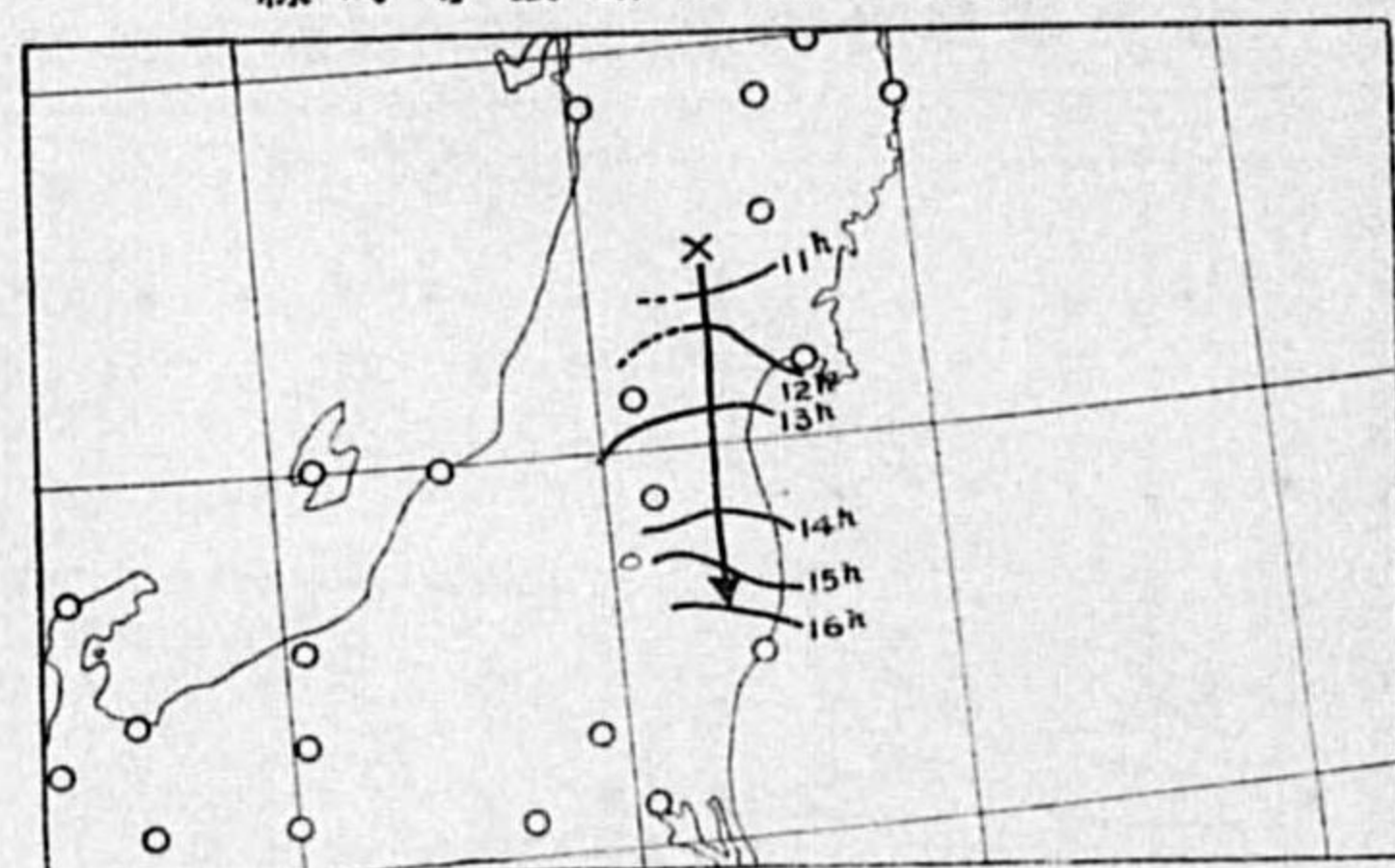
第十九圖に此の雷の始發場所と一時間毎の雷の始發等時線を示す。

二十九日の雷雨 六時と十二時との天氣圖を見るに高氣壓は日本海と小笠原諸島方面とに、低氣壓は奥羽遙か東方の海上と支那東海とにあり。本州及北海道にては風強からず、晴と曇と半々位にして不連續線は本州

に沿ひて走る。

此の日七時半頃佐渡、越後兩國中間海上に發したる雷は東南東に進路を取

線時等發始の雷 圖九十第

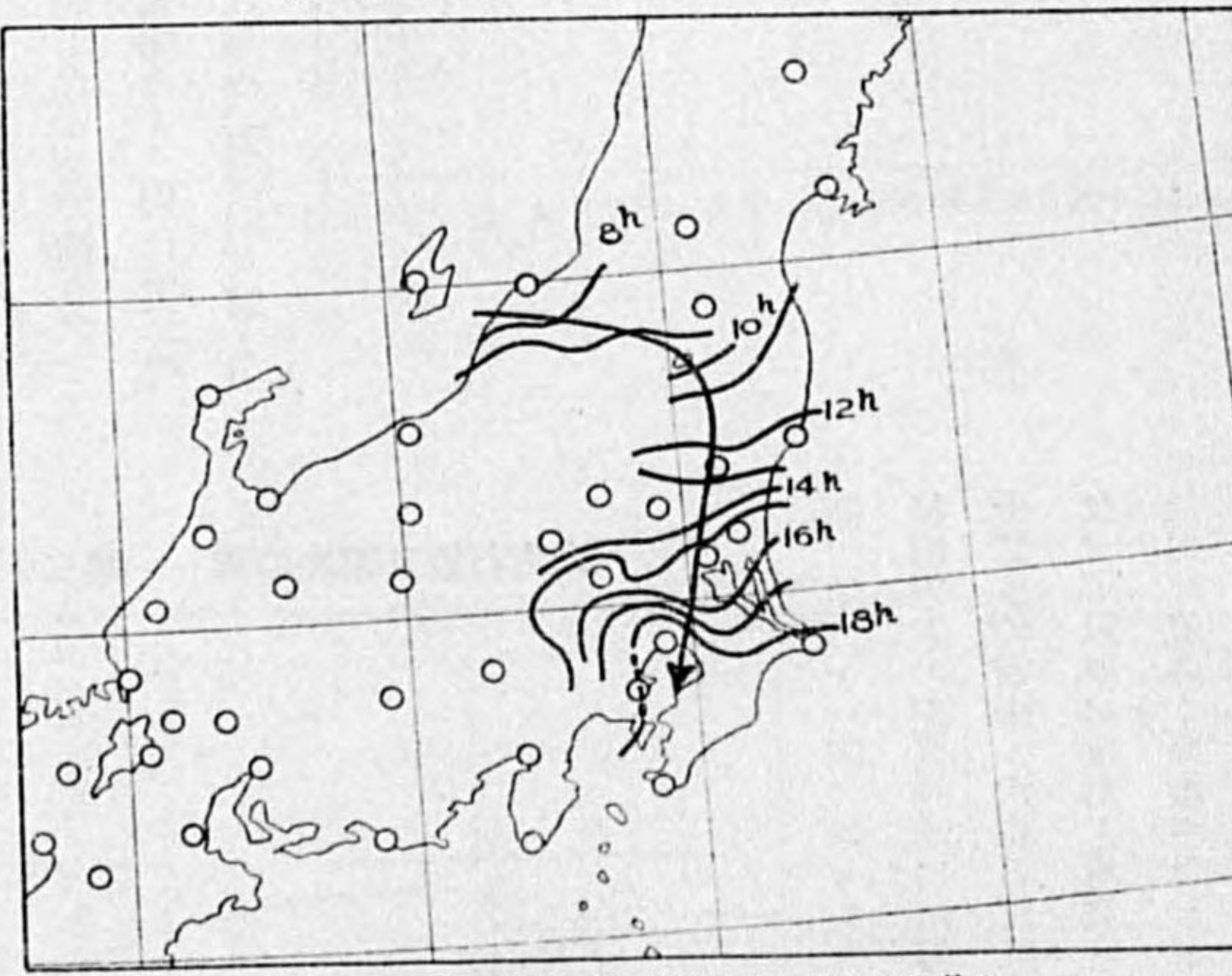


雨雷るけ於に羽奥 日八十二月六

八時過阿賀野川中流域地方に至り、十時前岩城國安積郡地方より方向を南方に變へ、十二時前久慈、鬼怒兩川上流を結ぶ線上に出で、鹽谷郡南部地方に五十錢銀貨大(徑二種三)の降雹を齎し、多き所は一尺も積雹したる所ありて、爲に農作物の被害激甚にして慘害一千町歩に達す。就中雹害の五割以上に達するものは水稻七十町歩、煙草二十五町歩、小麥三十五町歩、大小豆十四町歩、陸稻二十四町歩、其他蔬菜、果樹類十三町歩等な

取り、新潟縣西、中兩浦原郡地方に降雹を齎し、

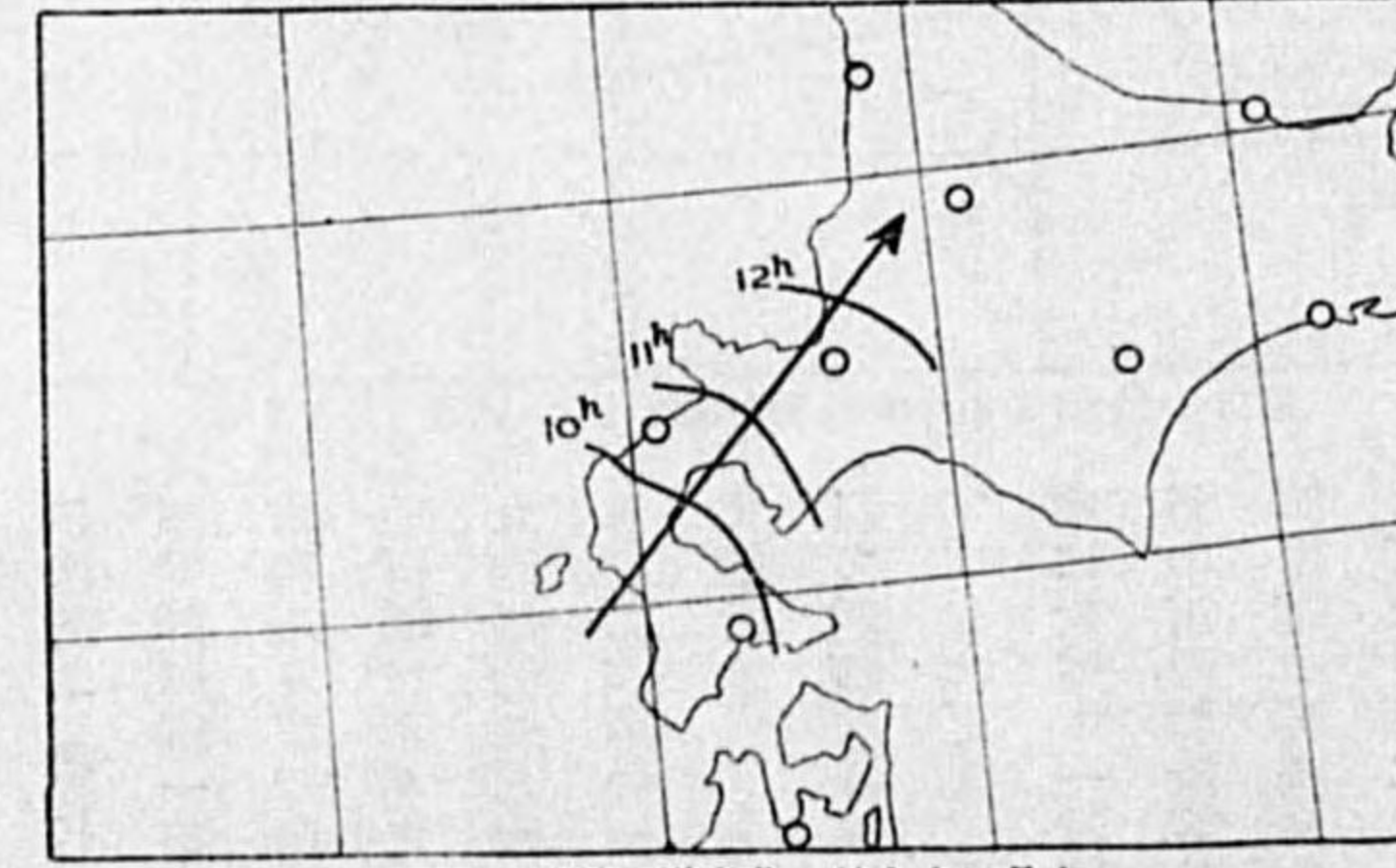
線時等發始の雷 圖十二第



雨雷るけ於に東關及羽奥・部東陸北 日九十二月六

り。又鹽谷郡矢板町、芳賀郡七井村等に落雷あり。爲に一名人事不省、民家二棟を燒失せりと云ふ(宇都宮測候所報告)。それより雷は鬼怒川流域に沿ひて南方に進路を取り、十三時頃鬼怒川下流域に達し、關東地方一帶は雷鳴殷々として至り、十八時過東京灣上にて消滅せり。第二十圖に此の雷の一時間毎の雷の始發等時線を示す。又九時頃北海道渡島國西方沖合より北海道に至りたる勢力弱き雷雨あり。北東方に進み、石狩國北西部に達し、十四時過消滅せり。第二十一圖に此の雷の一時間毎の雷の始發等時線を示す。

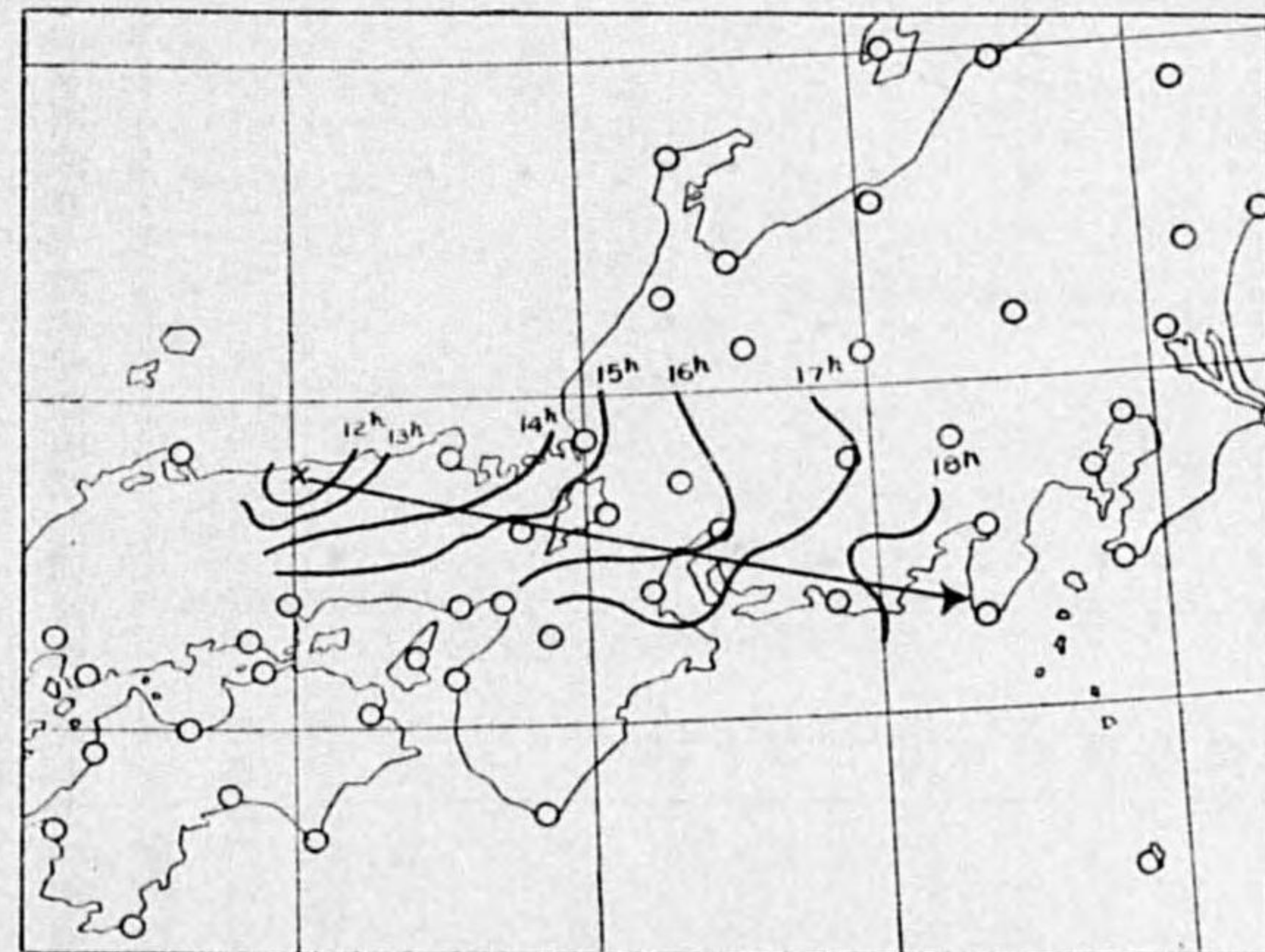
線時等發始の雷 圖一十二第



雨雷るけ於に道海北 日九十二月六

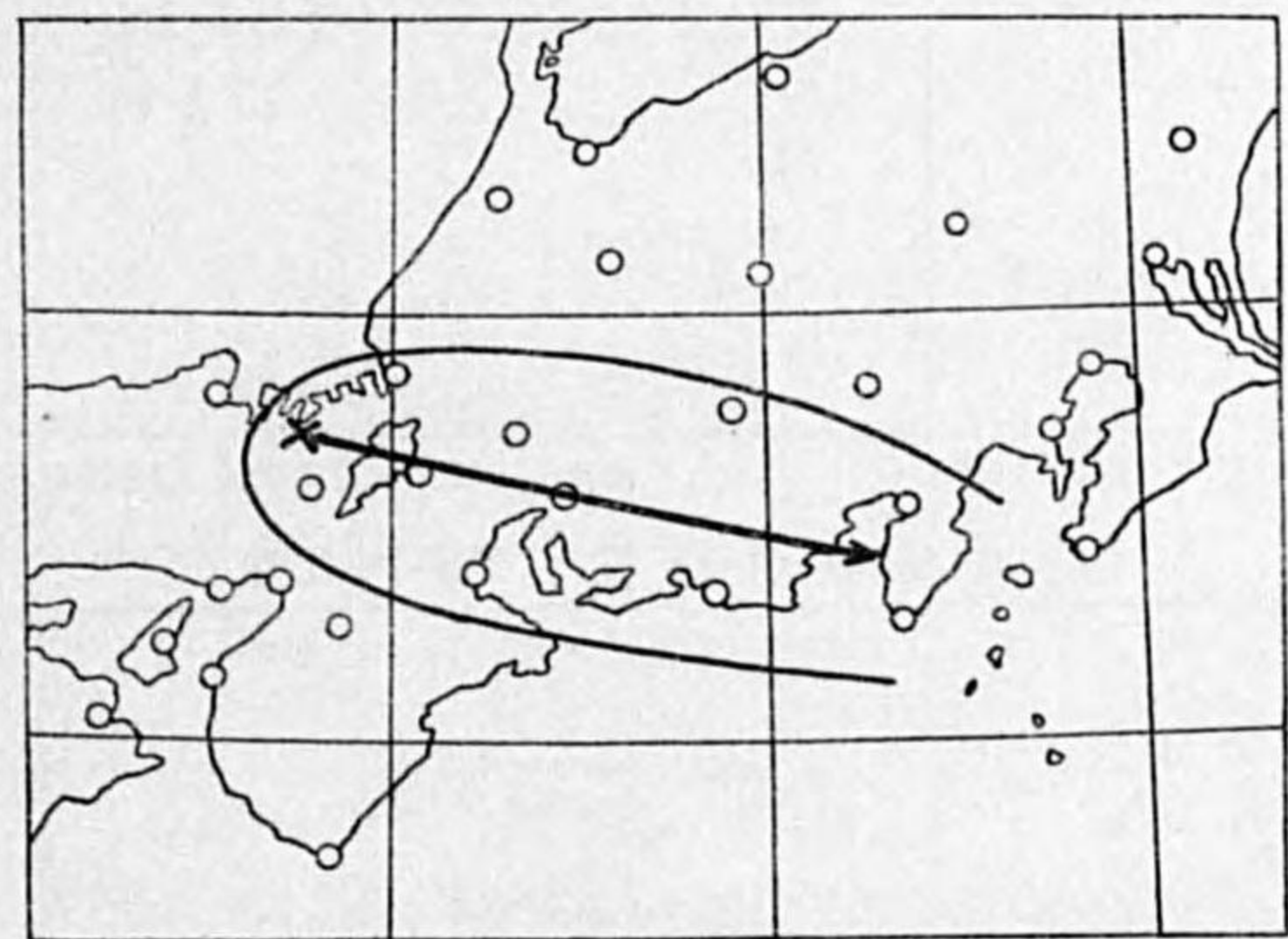
八日の雷雨 本日高気圧は樺太と小笠原諸島東方とに、低気圧は關東附近に、颱風は臺灣南方にあり。本州にては風稍強く降雨中の處多し。此の日十一時半頃因幡、美作兩國境三國山西方に發したる勢力餘り大ならざる雷雨は初め東方に進み、鳥取、岡山兩縣に雷鳴あり、別に十三時頃若狹國西部山地に始發したるものと合して東方に進み、琵琶湖を越え、

線時等發始の雷 圖二十二第



雷雨るけ於に部中州本及西關・畿近・陽山・陰山 日八月七

向方行進及圍範の雷 圖三十二第



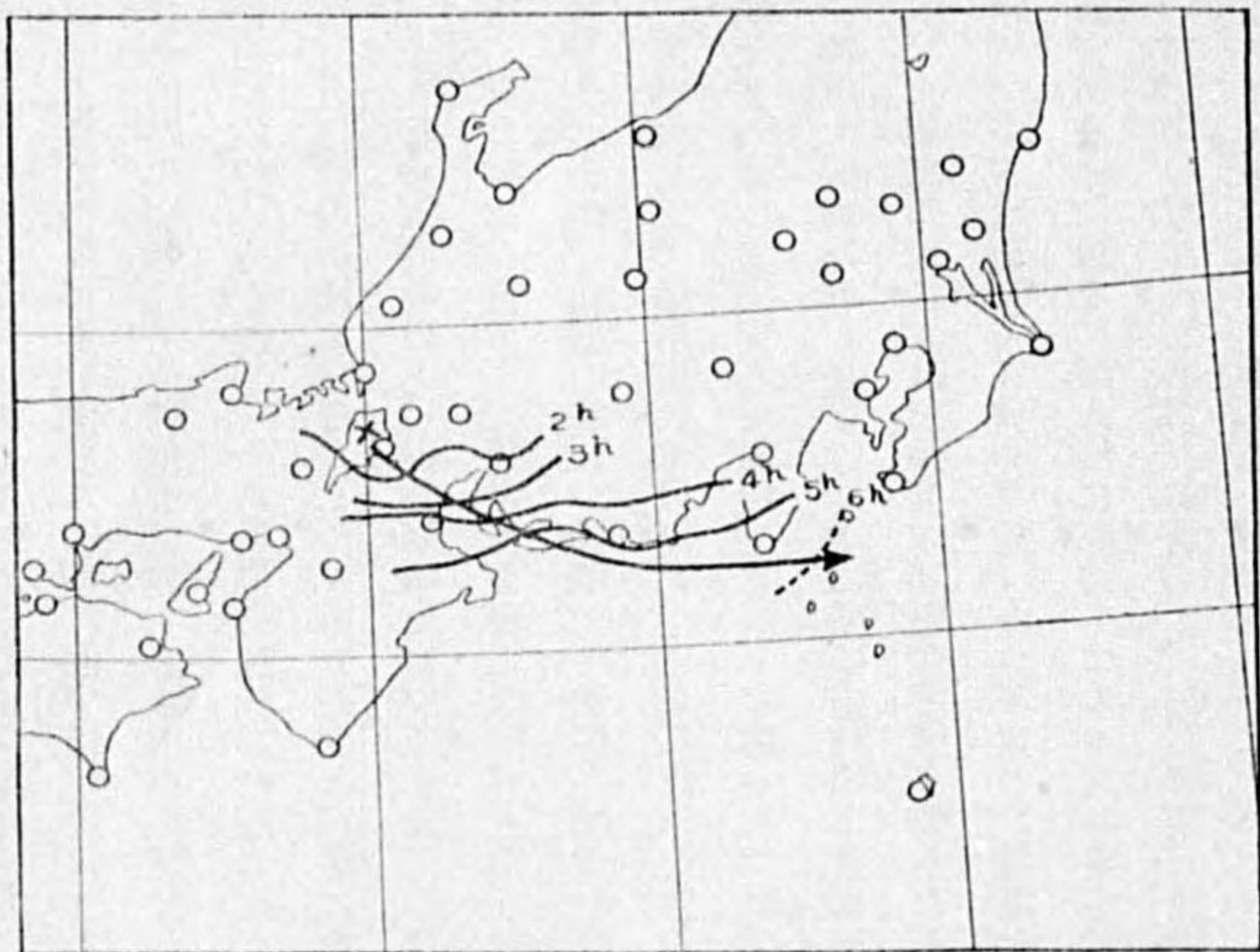
雷雨るけ於に部中州本及西關・畿近・陰山・伊若 日八月七

伊勢灣一帶に及び、靜岡縣一帶に雷鳴ありて、遂に駿河灣に入りて十時過消失したるも、二雷雨合一して進行したるを以て詳細なる事は不明なれども、各地に於ける一時間毎の雷の始發等時線及雷の範圍を作れば夫々第二十二

圖、第二十三圖の如きものと思はる。これ等の雷雨に際して京都市と彦根町附近の琵琶湖畔に落雷各一箇所ありたるも別に被害はなかりき。十二日の雷雨 六時の天氣圖に依れば高気圧は關宮海峡と小笠原諸島とに、低気圧は黃海と奥羽東海上とに、颱風は南洋にありて本州中央部にては風弱く降雨中なり。此の日一時過琵琶湖上に始發したる勢力相當大なる雷雨は東南東に進み、二時頃鈴鹿山脈を越えて二時半頃伊勢灣に入り、五時頃渥美半島附近に至りたる頃進路を東方に變じ、遠江洋を東進し、五時頃伊豆半島に達したるも、その後の消息を知るを得ざりき。第二十四圖には此の雷の各地に於ける一時間毎の雷の始發等時線を示す。

十五日の雷雨 高気圧帯は太平洋より南洋方面に連り、低気圧帯は西比利亞より支那南部まで連り、南地にては風弱く、天氣一般に好く、九州南部に於いてのみ降雨中なり。此の日十三時半頃佐賀縣中部に始發したる勢力大ならざる雷雨は多少勢

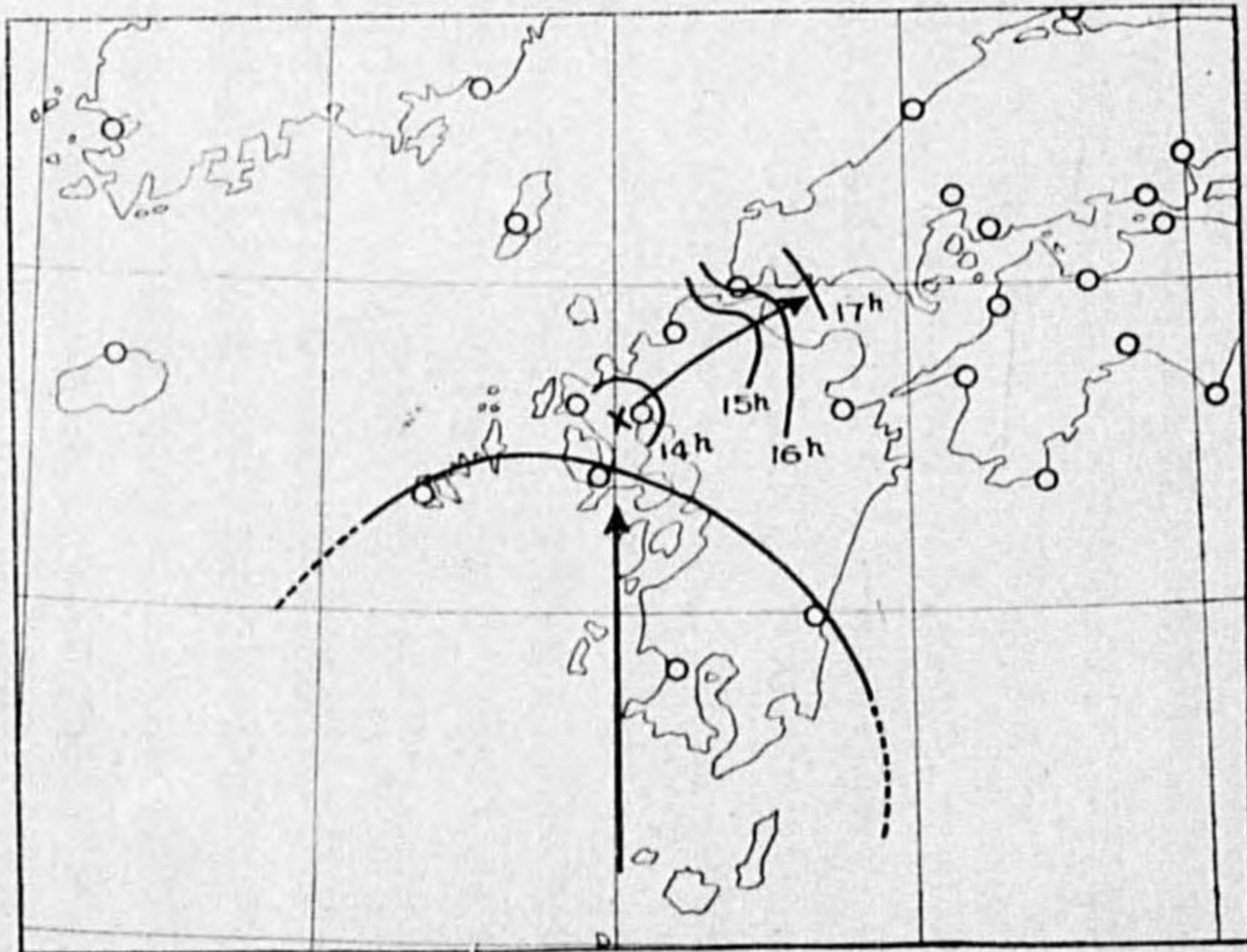
線時等發始の雷 圖四十二第



雷雨るけ於に部中州本及西關・畿近 日二十月七

力を増加しつつ北東に進みて福岡縣に入り向北東に進行し、十六時頃馬關海峡に至り、少しく進行したるも十七時頃山口縣厚狹郡地方に達し、十七時半頃其附近にて消滅せり。又此の日鹿兒島縣屋久島西方海上に始

線時等發始の雷及圍範の雷 圖五十二第



雷雨るけ於に陽山及州九 日五十月七

方にては翌日一時半前、宮崎市附近にては二十三時過消滅せり。第二十五圖にはこれ等の雷の範圍、進行方向及雷の一時間毎の雷の始發等時線を示す。これ等の雷雨の際には別に被害なかりき。

一日の雷雨 本日内地は高気圧の掩ふ所となり、風弱く晴天にして気壓傾度緩慢なり。十八時には關東、關西、瀬戸内海に不連続線を生じ降雨中の所あり。

此の各地に於ける雷雨發現總數は百四回に達し、就中、關東、本州中部、關西に最も多くありたり。主なるものを記すれば次の如し。近畿、關西にては十四時半頃丹波船井郡地方に發して東南東に進行し、十七時二十分頃琵琶湖南岸地方を経て、十八時頃鈴鹿山脈に達したるも其儘前進せずして、近江一帶の地方に強雷しつゝありしとき、更に十九時頃同湖南部と、十九時半頃同北部と、同時刻頃京都府下北桑田郡地方とに強雷發生あり、共に四方に擴大し、前雷も合併して一團となり、琵琶湖を中心として若狹、丹波、山城、近江、美濃、伊勢の各地方一帯は激雷雨となり、三重縣桑名郡、鈴鹿郡にては落雷十六箇所以上を算し、二十二時半頃消滅せり。十九時過明石海峡附近に發して擴大しつゝ北東に進み、二十一時過大阪府附近を過ぎ、二十二時頃山城國に入り前記諸雷と合したるが、大阪灣附近にては翌午前二時過迄雷鳴を聞きたり。十七時頃大和國吉野、高市兩郡地方に發して擴大しつゝ東方に進路を採り、十八時頃伊勢宮川流域に出で、同流域に強雷しつゝ十九時過遠江洋に入りたり。此の雷雨中名賀郡内に落雷三箇所あり。爲に家屋一棟燒失せり。十四時前岐阜縣山縣、揖斐兩郡地方に發して美濃北部一帯に擴大し、十六時過消滅せんとしたるとき、更に十六時過山縣、稻葉兩郡地方に強雷雨發現し、前雷と合して勢力愈強烈となり、美濃、尾張地方に擴大し、同地方一帯は激雷雨臻り、各所に落雷被害あり、二十三時半頃消滅せり。岐阜測候所及愛知縣測候所の落雷被害報告を抄録すれば左の如し。

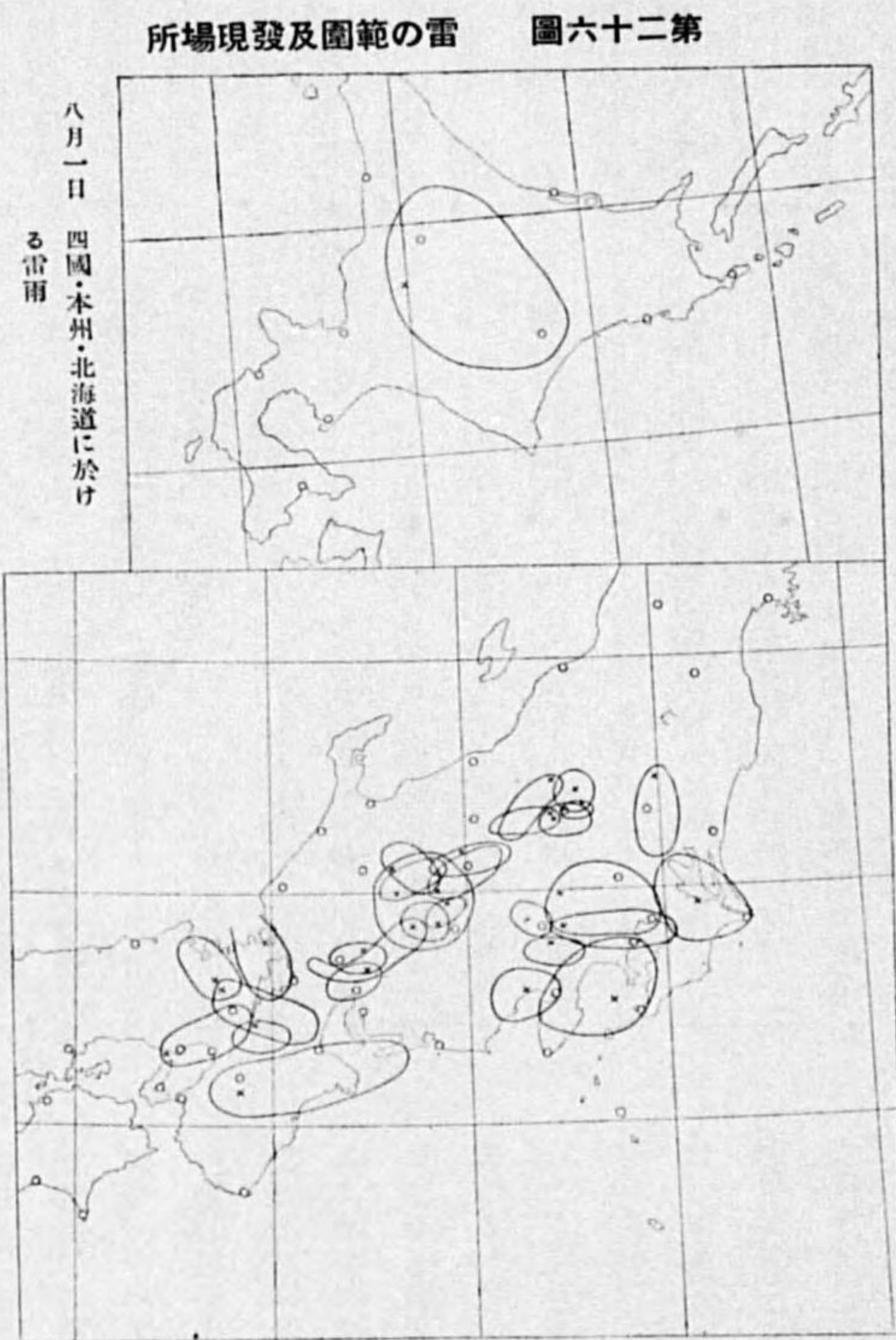
岐阜縣管内にては合原、養老、高日、山縣、八劍、下有知、池田、豐岡、姫路、中津等の各市町村に落雷あり、爲に三名震死し、一名重傷を負ひ、家屋の燒失したるもの五棟あり。羽島郡内にては降雹ありたり。

愛知縣管内にては北設樂郡田口村、水口村、葉栗郡北方村、中島郡起町、一宮市、丹羽郡犬山町、扶桑村、海部郡南陽村、西加茂郡舉母町等に落雷あり、一名感電重傷を負ふ。此の他十四時五十分頃岐阜縣益田郡地方に發し、惠那郡地方にて翌日九時四十分頃終聲したるものと、十六時頃同縣加茂、武儀兩郡境附近に發して初め南西方に進路を取り、岐阜市附近より西方に進路を變じ、二十一時半頃關ヶ原地方にて終聲したるものとありたり。關東にては十時過甲武信岳附近に發して擴大しつゝ、東南東に進行し、十一時頃多摩川流域に出で、十二時過所澤町附近を経て、十二時五十分頃東京附近に達したるとき、更に十三時過西多摩郡地方に發して東方に進路を採り、十三時半頃所澤町附近を経て江戸川下流域に至り、前者と合し十六時過消滅せり。東京市にては十二時五十分より十六時五十分まで雷雨を観測せり。此の雷雨中埼玉縣入間郡名栗村に落雷ありたり。十一時半頃栃木縣芳賀郡地方に發したるものは、栃木縣南部地方及茨城縣中部地方一帯に擴大し、十七時過那珂川にて終聲せり。栃木縣宇都宮市内に二箇所、芳賀郡益子町、今市町、小貝村等に落雷あり、一名震死し、一名重傷を負ふ。又茨城縣眞壁郡下妻町、結城郡總上村、新治郡懸瀨村、山莊村等にも落雷あり。男一名及馬一頭震死せり。此の他十三時頃千葉縣香取、茨城縣稻敷兩郡地方に發して南北に擴大し、十七時過消滅したるものと、七時頃群馬縣山田郡地方に發して少しく四方に擴大したるとき、更に九時頃群馬縣馬郡地方と、赤城山附近と、七時過群馬縣多野、埼玉縣秩父兩郡地方に發して擴大したるものは共に合

併して一團となり、群馬、埼玉兩縣下に強雷あり、群馬縣南部地方にては翌日二時半頃まで雷鳴殷々たり。足利市内及足利郡御厨町に落雷ありたるも被害はなかりき。十時過群馬縣吾妻、利根兩郡地方と、十五時過同縣吾妻郡地方と、二十時頃相模灣に發したるものとありたるも何れも勢力大ならず。本州中部にては十一時前甲府盆地に發して少しく擴大し、十六時過收熄したるものと、十三時頃駿河國中部地方に發して四方

十七時半頃石狩川上流域に發して東方に十勝川流域地方迄擴大して二十時過消滅したるものあり。石狩國上川郡美瑛村、神樂村、東川村等に落雷あり、爲に二名震死し、家屋二棟を燒失せり。以上の雷雨の範圍及び發現場所を圖示すれば第二十六圖の如し。

二日の雷雨 本日は高気壓の高き部分は太平洋に、低き部分は大陸方面にあつて、氣壓傾度緩慢にして、六時には本州にては關東以北は降雨中、他の地方は曇天なれ共風弱く平穩なり。天氣は次第に良くなり、十八時には降雨中の箇所は本州に數箇所あるのみなり。



八月一日 四國、本州、北海道に於ける雷雨

に擴大したるものと、長野縣東筑摩、西筑摩、下伊那郡地方に十三時頃と、十三時半頃と、十四時半頃と、十六時過と、十七時半頃と、二十時過とに發生したる強雷雨ありたるも何れも小區域なりき。北海道にては

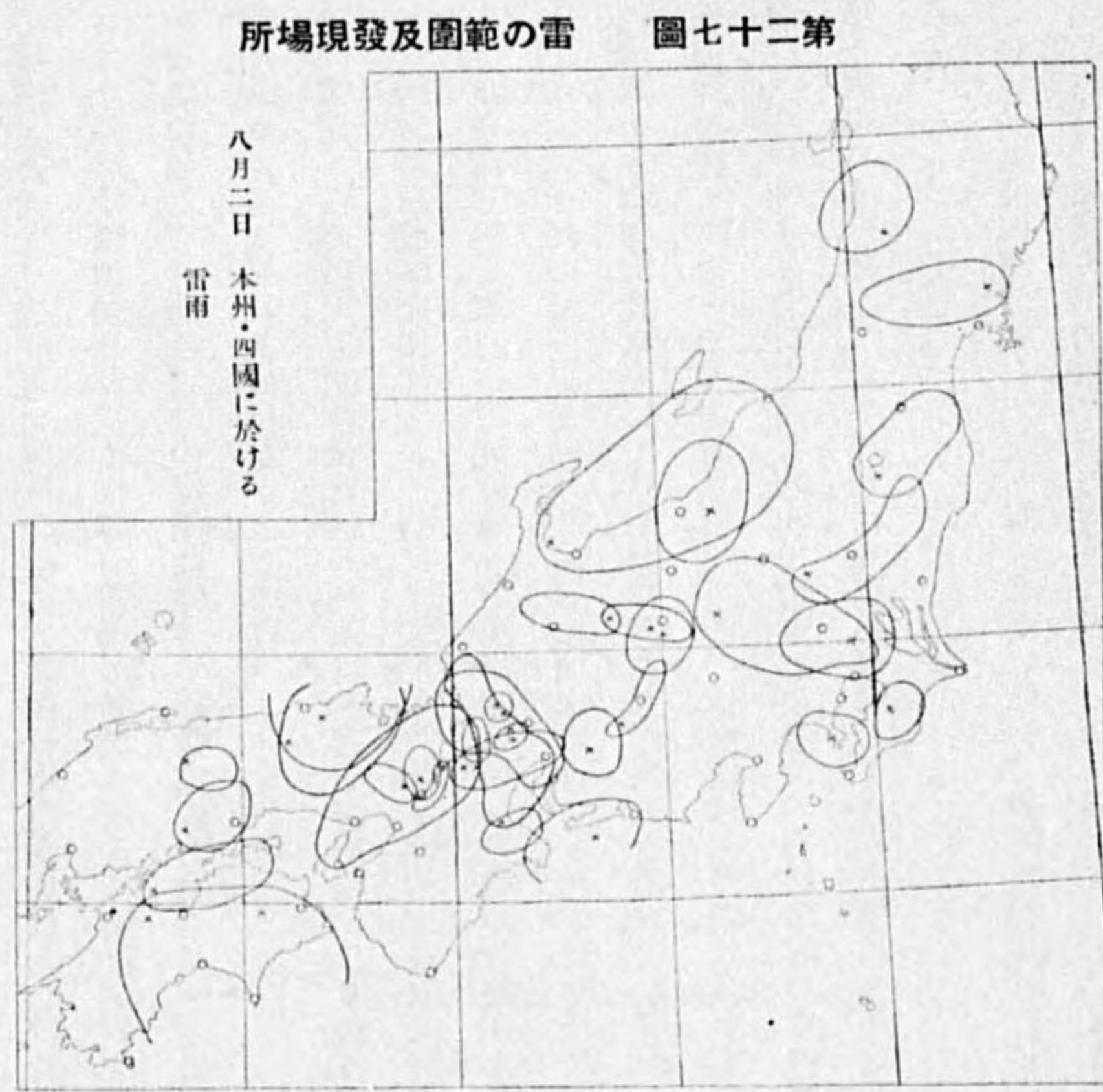
山形附近に至り、同市附近にて二十一時過消滅せり。十時半頃美作、伯耆兩國境附近に發して東南東に進み、十三時頃美作苦田郡地方に至り、七時過終聲せり。十四時半頃備中高梁川中流域に發して東北東に進み、

本日も亦近畿、關西地方に強烈なる雷雨頻發し、落雷箇所多數なりき。今、主なるものを記すれば、十一時過阿波國吉野川中流域と、十二時半頃土佐、伊豫の國境石槌山、手宮山附近に發生したるものは共に南東に進み、前者は那賀川上流域地方に徑入耗大の降雹を齎し、十七時過紀伊水道沖合に去りたり。後者は(長岡、土佐兩郡に掛大の降雹あり、大なるものは周圍十五種、重量約四十五瓦のものもありたり)十六時半頃土佐佐津に入りたり。十七時過濠洲洋に發して北東に進み、十八時二十分頃より香川縣北岸地方に強雷と共に降雹あり。仲多度郡地方數箇所に落雷あり。十九時半頃岡山縣兒島郡地方を経て岡

十六時半頃英田郡地方に達し、十八時半頃消失せり。これ等の雷雨に際し阿哲郡、川上郡、英田郡地方にては梅大の降雹あり、農作物の被害甚しく、葉煙草、稲作皆無に歸したる所ありと云ふ。山陰にては十二時過但馬國養父郡地方に發して東北東に進み、十四時頃大江山附近を過ぎ、十四時半頃若狹灣に入りたるものと、十五時過丹波、但馬兩國境附近に發して四方に擴大し、兵庫縣氷上郡柏原町に二箇所落雷あり。十七時半頃丹波、播磨地方に終聲したるものと、近畿にては十四時前京都府愛宕郡地方に發したるものと、十五時過京都府保津川流域に發したるものと、十六時頃琵琶湖南部に發したるものと共々擴大し合併して一團となり勢力強大となり、琵琶湖西岸及保津川流域一帯地方は強雷激甚を極め、愛宕、綴喜兩郡地方にては徑六耗大の降雹あり、南桑田郡曾我部村、馬路村、綴喜郡八幡町、内淀町、宇治町、京都市内河原町、嵐山、花園、洛北、鹿ヶ谷、二條驛其他市内外に落雷十二箇所あり、十六時頃收聲せんとしたるとき、更に十六時過琵琶湖東岸地方に強雷發現し、擴大しつゝ南西に進行し、同湖南岸地方にて前雷と合して山城、近江一帯の地方は強雷股々として臻り、十八時頃河内に至り、十九時頃大阪灣に出で、二十一時半頃消滅せり。大阪市内にては落雷三十二箇所以上に達したるも幸に人畜には被害はなかりき。又十三時半頃近江國甲賀、蒲生兩郡地方に發して北東方に擴大し、美濃國南部地方に達し、十八時半頃收聲したるものあり。關西にては九時過岐阜縣揖斐川中流域に發して南方伊勢灣西岸地方と、北西方越前國地方とに擴大したるものとあり。然して北西方のものは十二時頃勢力一時衰退せんとしたるとき、更に十一時頃揖斐川上流域地方に強雷發生し、之と合して擴大しつゝ勢力愈々強

大となり、尾張國一帯の地方及近江國北部地方は激雷雨となり、滋賀縣東淺井郡、伊香郡地方に蠶豆大(大なるものは梅實大)の降雹を齎し、農作物に被害あり、岐阜縣海津郡高須町、可兒郡御嵩町等に落雷あり、一名震死せり。愛知縣管内にては名古屋市内に八箇所、海部郡佐織村に二箇所、神守村、富田村、美知村、七寶村(各三箇所)、井口村、知多郡豊濱村、大高町、半田町、大府町、八名郡丹著村、富岡村、愛知郡岩作村(各二箇所)、横須賀町、幡山村、東春日井郡勝川町、篠木村、幡豆郡(西尾町、西加茂郡三好村(各三箇所)、打越村(二箇所)、碧海郡伊佐見村、岡崎市等に落雷あり、爲に家屋三種焼失せり(愛知縣測候所報告抄録)。三重縣桑名郡益生村、長島村、四日市市其他保安林に五十五箇所落雷ありたり。それより雷の北西方に至りたるものは十九時過若狹灣東岸地方にて消失し、南西方、即ち伊勢方面に至りたるものは十九時半頃消滅せり。其他十三時頃岐阜縣揖斐郡地方と、八時過養老郡地方と、二十一時過琵琶湖東岸地方と、七時半頃岐阜縣加茂郡地方と、十一時頃三重縣宮川下流域とに雷雨發生あり。又十三時頃三重縣一志郡地方に發して伊賀、伊勢一帯の地方に擴大し、名賀郡、一志郡地方に強雷降雹あり、二十時頃消失せり。此の雷雨に際し飯南郡内に三十箇所、名賀郡内に三箇所、一志郡内に三箇所、度會郡内に三箇所落雷あり、爲に震死者二名、燒失家屋一棟を出し、且つ飯南郡地方は豪雨出水のため電信、電話不通となれりと云ふ(津測候所報告抄録)。關東にては十三時頃荒川中流域に發して江戸川流域地方に擴大し、十六時頃消失したるものと、十四時頃群馬縣利根川上流域に發して北東に進行し、栃木縣上都賀郡地方を経て十五時半頃岩代國西白河郡地方に達し、十九時過消失したるも

のと、二十時頃相模灣北岸地方と、十時過上總地方に發したる雷雨ありたり。本州中部にては長野縣西筑摩、南安曇、下伊那の三郡地方に十四時半頃と、十時過と、十三時過と、十時過とに南、北兩佐久郡境町附近に發して東南東に進路をとり、南北に擴大しつゝ、江戸川中流域地方に至り、十九時前茨城縣猿島郡地方にて消失したるものとあり。岐阜縣大野

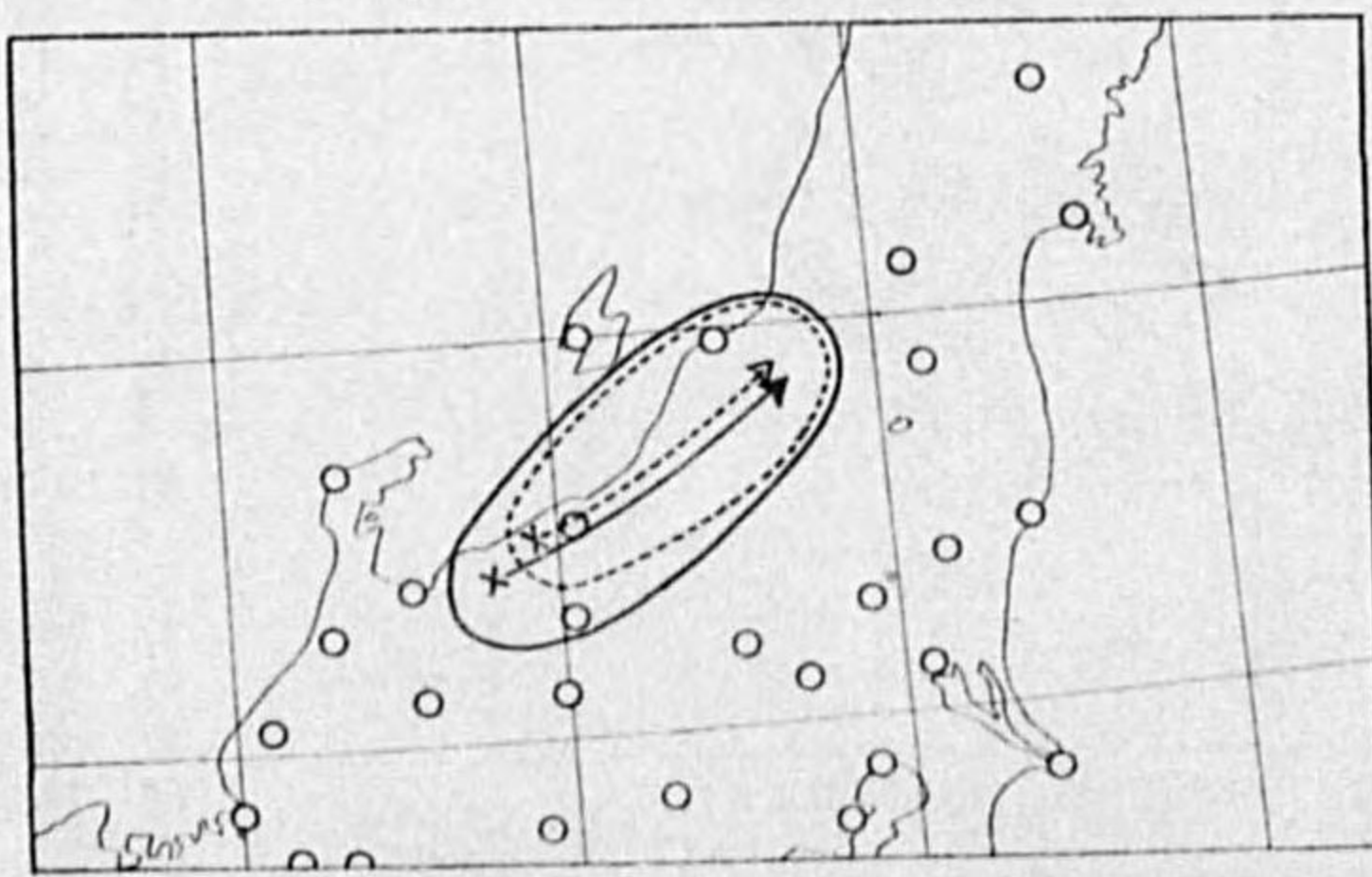


圖七十二第 雷の範圍及發現場所

郡地方に八時二十分頃發して西南西に進路をとり、九頭龍川上流地方にて消失したるものありたれども、何れも小區域なり。北陸東部にては七時過長野縣上水内郡地方に發して北方新潟縣西、中、東三頭城郡地方に

擴大して、十一時頃消失したるものあり。中頭城郡美守村に落雷あり。一名震死す。又八時過越中國射水川流域に發したるものは北東方に進行し、十一時過信濃川下流域に達し擴大して佐渡島にては十一時三十五分頃、岩代國南部地方にては十三時頃、信濃川下流域にては十三時過消失せり。奥羽にては三時半頃、北上川下流域と、十五時前秋田縣御物川流域と、十時過福島縣阿武隈川流域とに發したる強雷雨ありたり。これを此の日の主雷なりとす。以上の雷雨の範圍及び發現場所を第二十七圖に示せり。

圖八十二第 雷の範圍



北陸に於ける雷雨 日四月八

四日の雷雨 十二時の天氣圖に依れば高氣壓は太平洋と滿洲とに、低氣壓は揚子江下流域にあり。本州にては風弱く天氣良好なれども、日本海より佐渡、高山を通り、九州東岸に連る一不連続線ありて、其線附近にては降雨中なり。此の不連続線は東に進み、十八時には奥羽東岸より東京灣に連る線を爲す。此の日雷雨發現割合多く本州にては四十回の發現を見たり。その中顯著と思はるゝは十四時半頃新潟縣西、中兩頭城郡境權現山附近に始發した

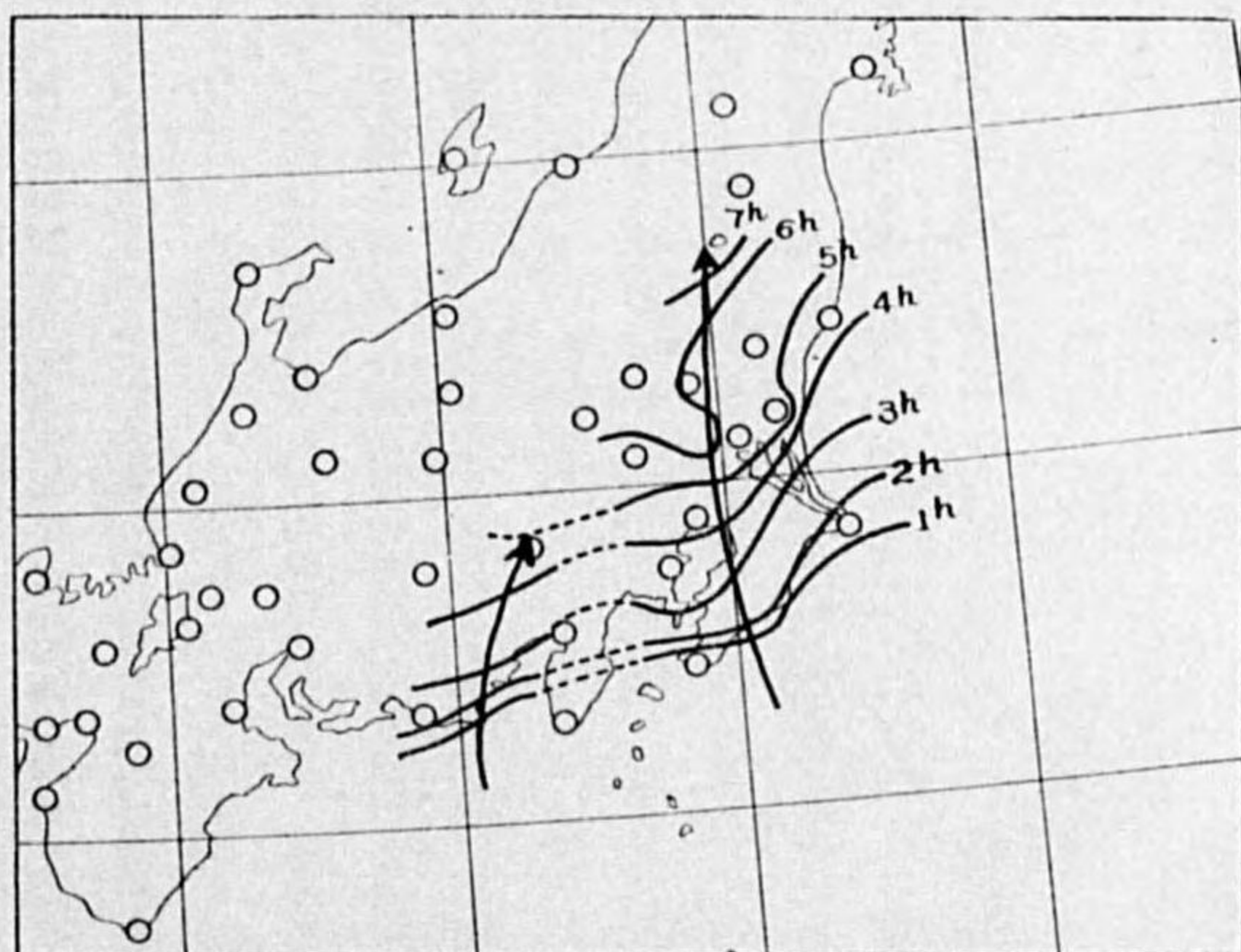
るものと、十七時頃越中、越後兩國境片刈山附近に始發したるものにして何れも相當勢力大なり。前者は北東に進み、越後國と信濃國の北部に雷鳴あり。後者も北東に進み、越後國に雷鳴あり、十九時頃信濃川流域にて前雷と合致し、尙北東に進み、十九時頃阿賀野川流域に達し、其處にて二十一時半頃消滅せり。これ等の雷雨の始發場所と範圍を示せば第二十八圖の如し。又此の二つの雷雨に伴ひて落雷箇所七箇所、降雹箇所一箇所ありたるも別に被害はなかりき。

五日の雷雨 六時の天氣圖に依れば高氣壓は本邦東海岸遙かなる沖合にあり、低氣壓は朝鮮北部にありて北東に進行す。一つの不連續線は伊豆沖より東京灣を経て水戸市附近を過ぎ、東海岸に沿ひ石巻沖を北方に走れり。七百六十耗の等壓線走向は北海道北西部の沖より南方に向ひ同道南西海岸より津輕海峡東方にてS字型に灣曲し、其線の南方は秋田沖より新潟沖を経て高山と福井の間を南に廻り、伊勢灣に出て遠江洋を東方に向ひ、房州沖より急に南曲し八丈島南東方を過ぎ、右に小笠原島の東方洋上に走れり。然して太平洋岸は天氣不良にして日本海岸及九州は晴天なり。

此の日零時遠江洋に發して北々東に進路を取り、静岡縣御前崎に零時半頃上陸し、天龍川下流域と安倍川河口附近を結ぶ線上に至り、四時過富士川下流域地方に出で、甲府盆地にて六時過消失せり。零時前房總半島南方海上に發して北方に進路を取り、零時頃千葉縣夷隅郡南部地方に上陸し、三時過三浦半島及房總半島に強雷しつゝ四時過東京灣に入り、東京市附近を経て五時半頃鬼怒川流域に至り、栃木縣下都賀郡國府村及小山町等に落雷あり、六時半頃茨城縣那珂郡地方に達して八時半過消滅

せり。此の雷は東京灣沿岸及房州地方に大雨を齎し、東京市にては九時十分間に六十一耗の多量を観測し、市内各所に出水あり、浸水家屋多數を出し、日本橋、芝、南千住及府下目黒町、蒲田町、大井町等に落雷十

線時等發始の雷 圖九十二第



雨雷るけ於に部中州本及東關 日五月八

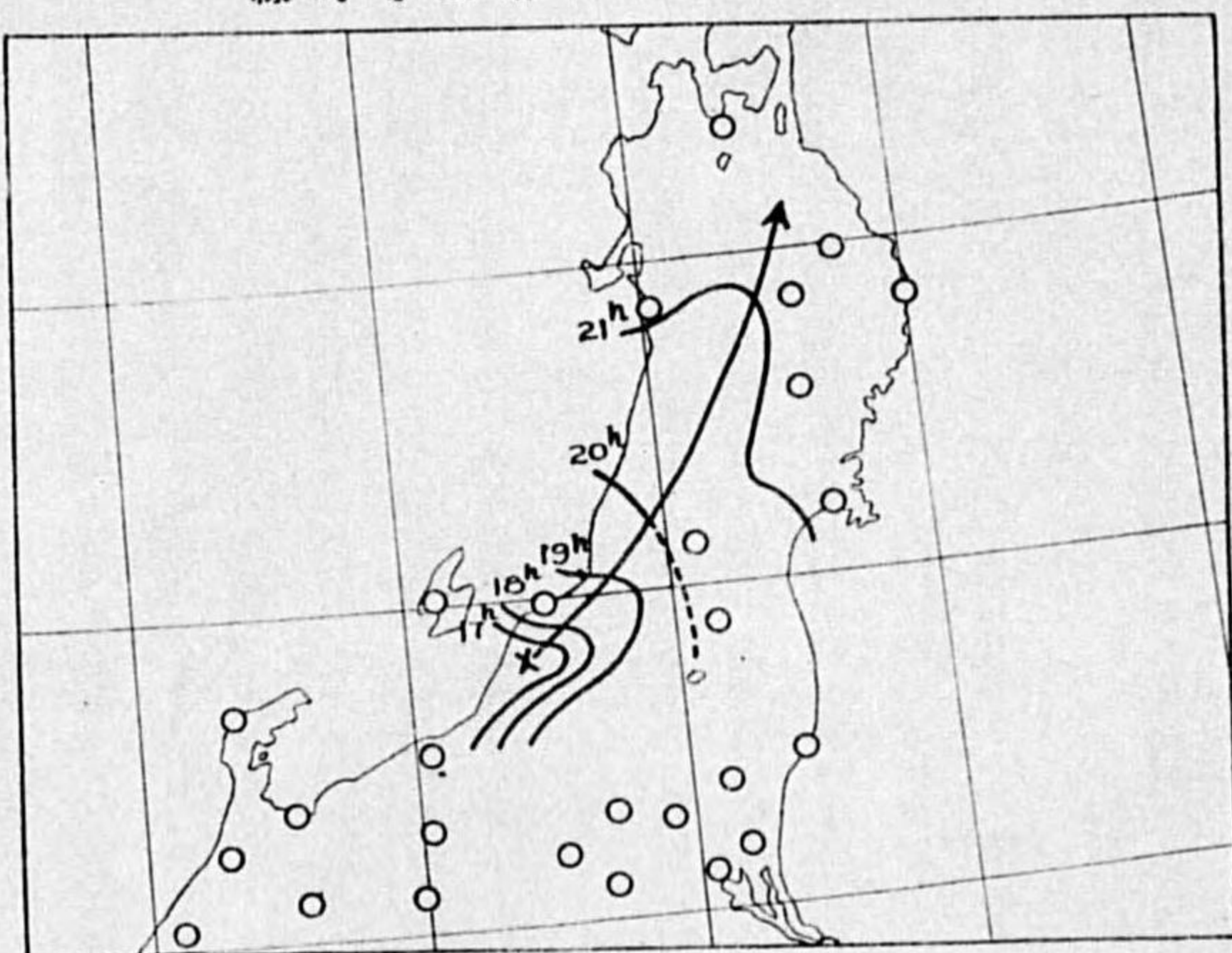
數箇所ありたれども人畜には被害なかりき。第二十九圖に前記二雷の一時間毎の雷の始發等時線を示す。

九日の雷雨 十八時の天氣圖に依れば高氣壓は太平洋にありて、低氣壓は西比利亞より州南諸島方面にあり、小低氣壓は奄美大島東方と、朝鮮北部と北海道東部とに存す。不連續線は伏木町附近より中國山脈附近に

至るものと、奥州中央部を縦斷して關東中部に出づるものと、東京市の北方より四國中央に連るものと三あり。本州にては風弱く概ね曇天にして、降雨中の地方は數箇所のみなり。

此の日十六時頃新潟縣南蒲原郡北部に發したる雷雨は勢力を増しつゝ北

線時等發始の雷 圖十三第



雨雷るけ於に羽奥及部東陸北 日九月八

東に進み、二十時頃山形縣に入りて尙北東に進行を續け、二十一時半頃北方は秋田縣鹿角郡毛馬内町附近迄達し、鶴岡市にては翌朝三時頃まで、盛岡市にては翌日七時半頃迄此の雷鳴を観測したり。此の雷雨に際

しては別に被害はなかりき。各地の一時間毎の雷の始發等時線を示せば第三十圖の如し。

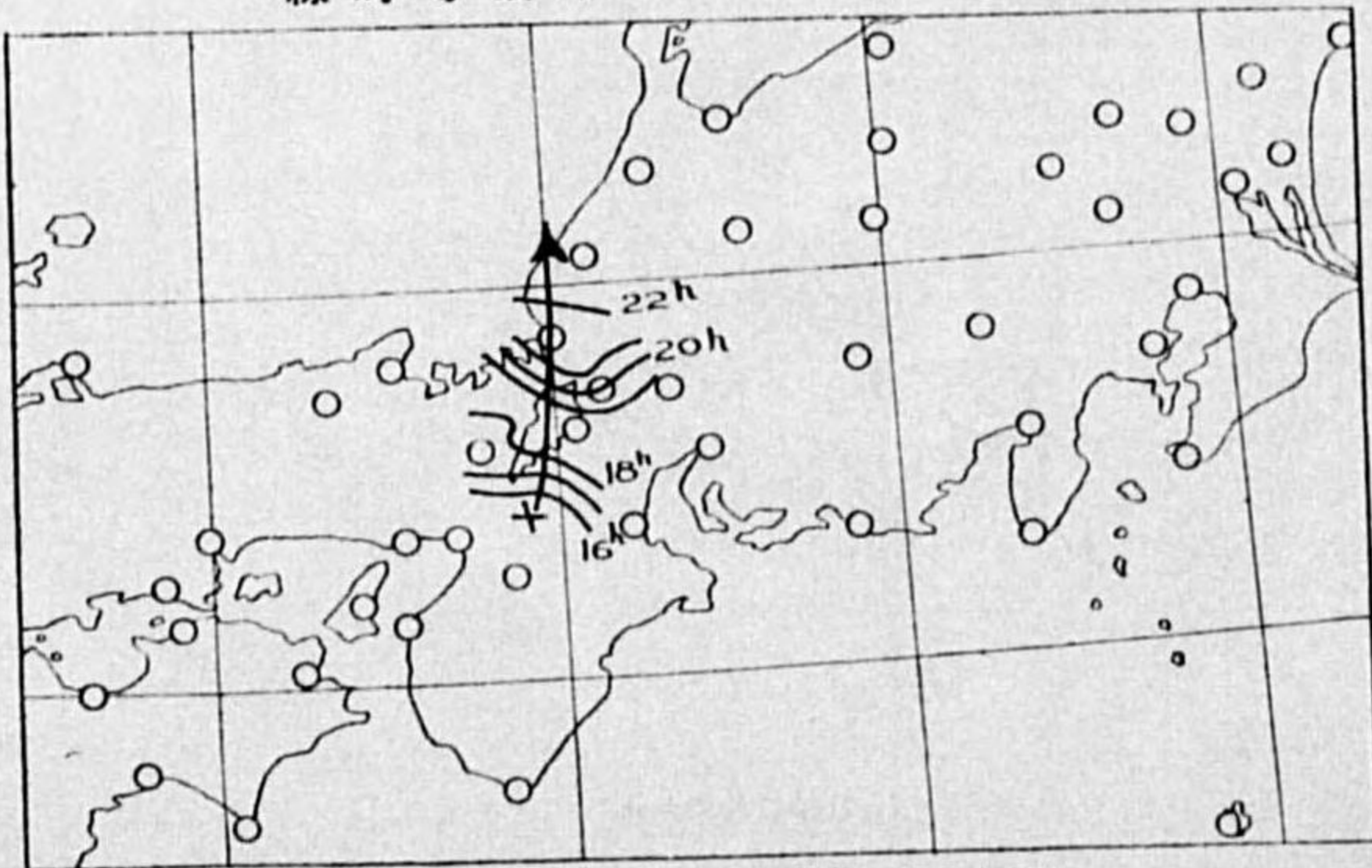
十七日の雷雨 十八時の天氣圖に依れば高氣壓は太平洋に、低氣壓帯は西比利亞より支那南部に迄連り、低氣壓は日本海と朝鮮北部とにあり。本州にては風餘り強からずして、中部以東に於いては降雨中にして他は曇天の所多し。

此の日十六時前山

城國綴喜郡北部に始發したる相當勢力ある雷雨あり。

進路を北方に採り、十九時頃琵琶湖を渡り、その湖畔一帯に雷鳴あり、二十一時頃福井縣に入り、二十二時半頃福井市附近に至りたるも、同市附近にて二十三時前遂に消滅せり。

線時等發始の雷 圖一十三第



雨雷るけ於に陰山及部西陸北・畿近 日七十月八

此の雷に伴ひて別に被害はなく、各地に於ける一時間毎の雷の始發等時線を示せば第三十一圖の如し。

二日の雷雨 本日六時の天気圖に依れば颱風はラサ島南東方に、高氣壓は青島、濟南方面及奥州東方の太平洋上に、低氣壓は西比利亞東部にあり。十二時の天気圖を見るに、颱風はラサ島南東方に、高氣壓は奥州東方の太平洋上及び滿洲より日本海に舌状を爲して存在す。六時には本州西部及び日本海に於いて、正午には日本海及本州全部に於いて氣壓傾度頗る緩漫なり。十八時の天気圖にては颱風はラサ島の南東方に、六時より順次北面に進みたる位置に、高氣壓は日本海西部及奥州東方の太平洋上にあり。十二時の二十五度の等温線は本州に沿ひて南方より突出したる形を爲す。本日の天氣は一般に良好なりき。

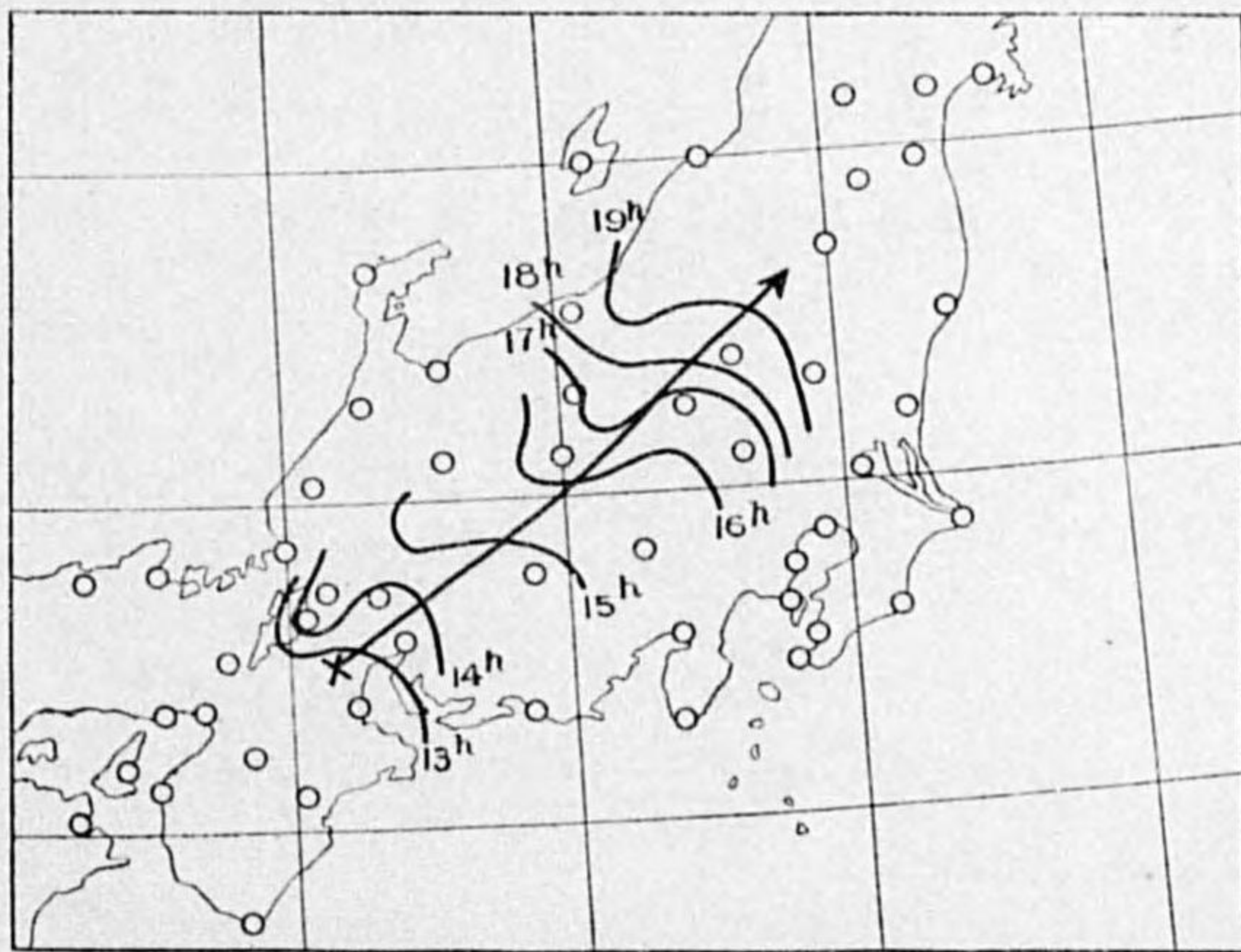
此の日十二時半頃琵琶湖南東方鈴鹿山脈に始發したる雷雨は増大しつゝ、近畿より關西、北陸西部、本州中部を通り、關東及北陸東部に至り、新潟縣中魚沼郡十日町、栃木縣鹽谷郡藤原村を結ぶ線附近にて二十二時頃消滅せり。此の雷は範圍相當大なりしが、雷鳴の殊に強かりしは、群馬縣群馬、碓氷兩郡方面のみにして別に被害はなかりき。第三十二圖には此の雷の一時間毎の雷の始發等時線を示す。

十四日の雷雨 本日六時及正午の天気圖に依れば颱風は臺灣の南々東に、高氣壓は支那北部及本州東方太平洋上に、低氣壓は西比利亞東部にあり。臺灣南々東の颱風は次第に北西に進みつゝあり。六時には二十度の等温線は本州及北海道に沿ひて南方より突出したる形をなす。本日正午までは朝鮮海峽附近を除く外一般に晴天なりき。

此の日五時半頃北海道西方沖合に始發したる雷雨は優勢にして東南東に

進み、北海道西海岸一帯に雷鳴あり、それより尙東南東に進行を續けたるも、中部は十時半頃旭川市に達したる際、山脈に遮られそれ以上進

線時等發始の雷 圖二十三第

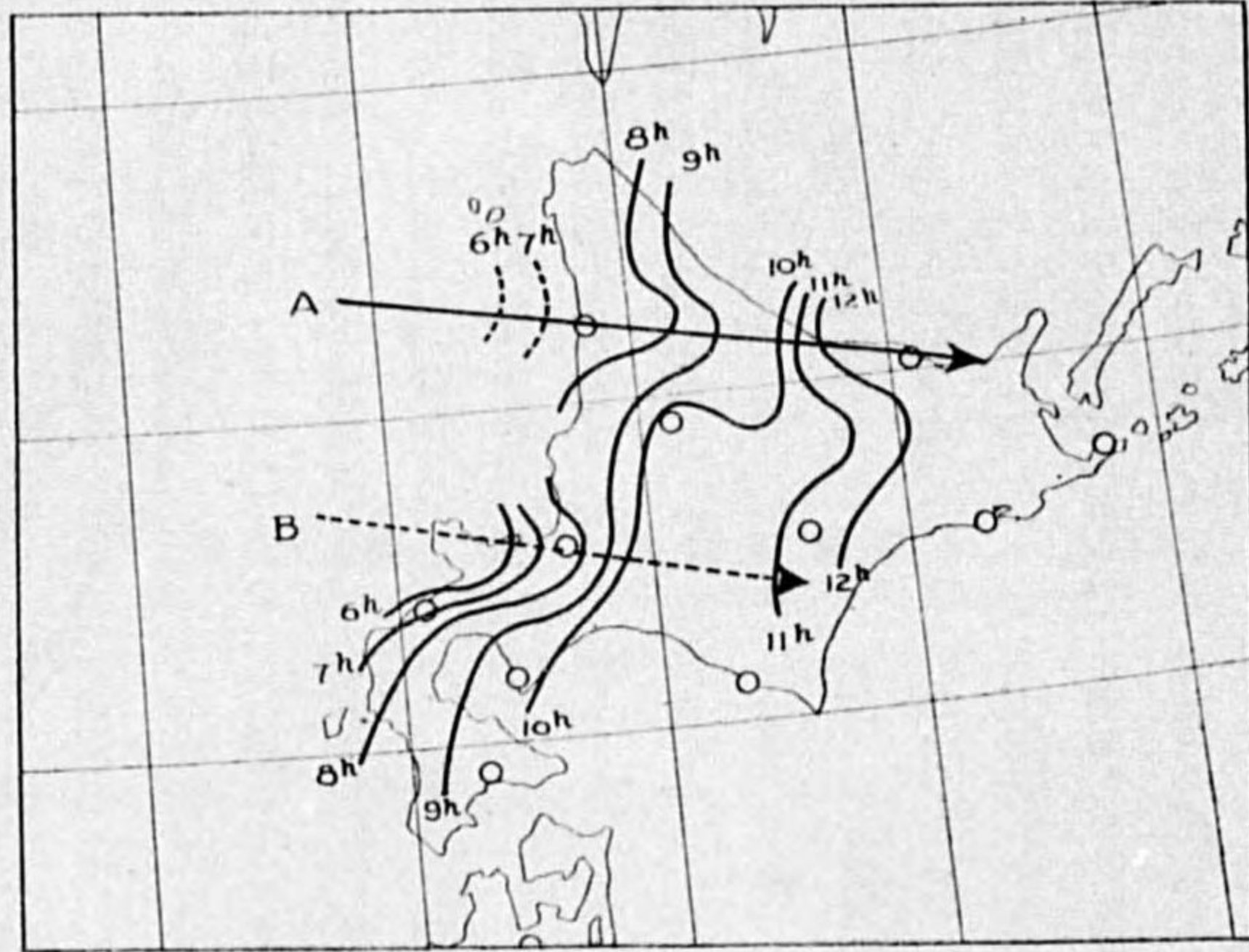


雨雷るけに部中邦本 日二月九

此の日一時半頃高知縣物部川上流域に發現したる勢力相當大なる雷雨は擴大しつゝ東進し、高知縣室戸岬に大風雨あり、十一時間に百十九耗程の雨量ありたるも別に被害はなかりき。此の雷は四時頃紀伊水道に入りて和歌山縣に上陸し、七時頃奈良縣に入りし頃より進路を北東にかへ、勢力次第に衰へ、三重縣に入りたる頃には進行速度も小となり、十時半頃伊勢灣に達したるも、遂に其處にて十一時頃消滅せり。此の雷雨に際して別に被害はなかりき。第三十四圖は此の雷の一時間毎の雷の始發等時線なり。

優勢なりき。札幌測候所よりの報告に依れば、同町より東方四十軒位の岩見澤町に旋風起り家屋十數戸倒壊せりといふ。

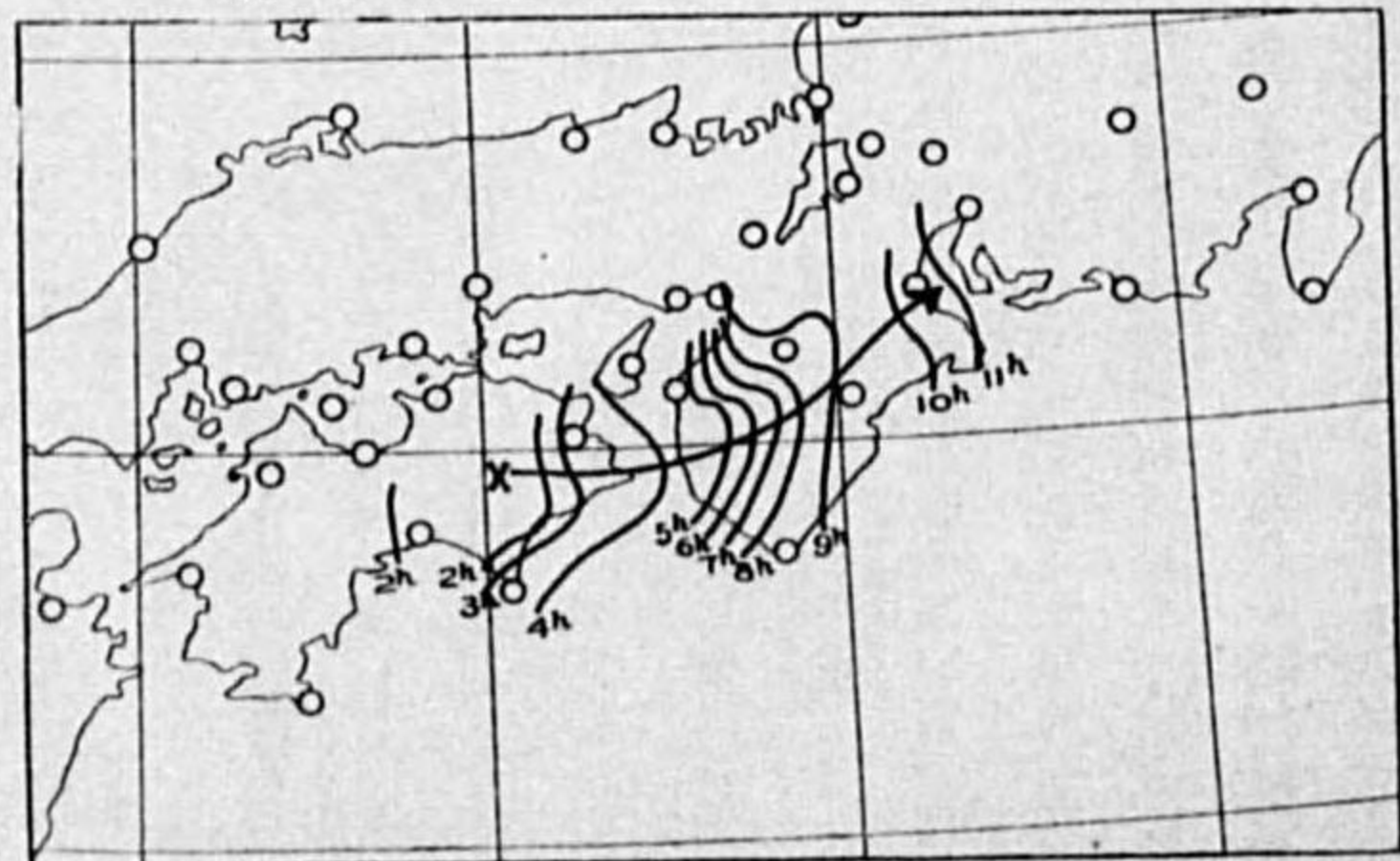
線時等發始の雷 圖三十三第



雨雷るけに道海北 日四十月九

十八日の雷雨 六時には高氣壓は太平洋にありて、低氣壓は關東以西を掩ひ、その中心は若狹國附近にありて、一不連續線は若狹灣より紀伊水道に延ぶ。内地は一般に風弱く降雨中なり。十二時には低氣壓は能登半島と佐渡島の中間まで移動し、前記不連續線は東方に進行し、岐阜縣より三重縣に跨る。

線時等發始の雷 圖四十三第



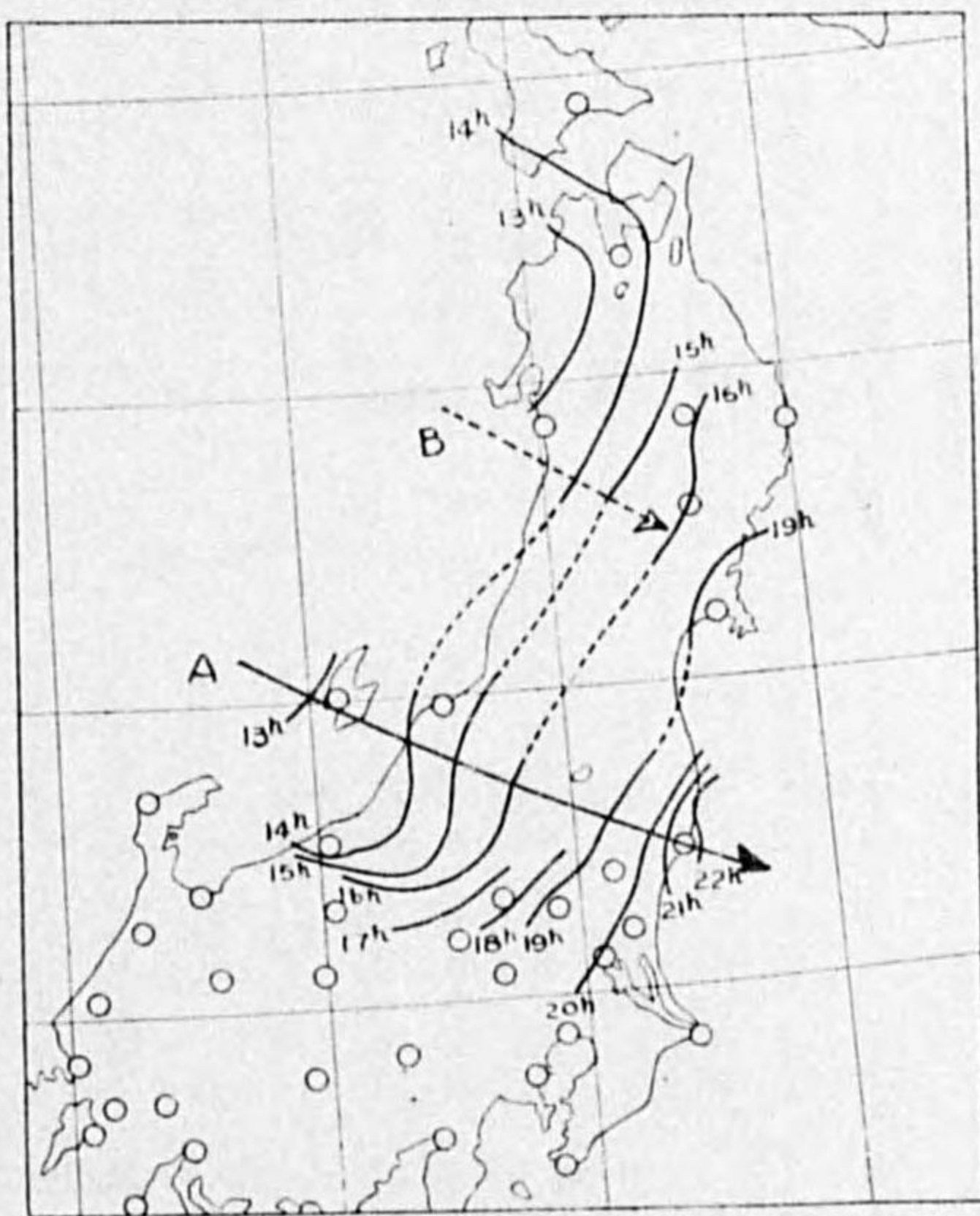
雨雷るけに西關及畿近・國四 日八十月九

二日の雷雨 六時の天気圖を見るに高氣壓は滿洲及ヤップ島東方に、低氣壓は日本海に、颱風は奥羽遙か東方の太平洋上にあり。此の颱風は北東方に進み、十八時の天気圖に依れば北海道の東方に移動せり。低氣壓は東方に進み、正午頃北陸東部より奥羽を通り、十八時には其中心は金華山東方の太平洋に出でたり。他の氣壓配置は六時に於ける狀況

と大差なく、氣壓傾度は近畿以北北海道南部迄緩慢なり。本日の天氣は數本の北東より南西に走る不連続線に沿ひて降雨せる外、一般に良好なりき。

此の日十三時頃日本海より北陸東部及奥羽に襲來したる相當勢力大なる雷雨は東方に進み、關東方面に至りたるは二十時頃野附近にて終止し、奥羽南部に至りたるは二十二時頃太平洋に去り、奥羽北部に至りたるは二十九時半頃盛岡市と宮城縣栗原郡花山村とを結ぶ線附近にて消滅せり。此の雷雨の範圍は廣大にして、其一部は北海道白神岬(渡島國)にも及びたり。角館森林測候所(秋田縣仙北郡)よりの報告に依れば附近の威徳山麓に降雹ありたりとす。此の雷雨の際には別に被害はなかりき。第三十五圖には此の雷雨の各地に於ける一時間毎の雷の始發等時線を示し、「A」と記せるは奥羽南部及び關東方面に至りたる分派にして、「B」と記せるは奥羽中部以北北海道の一部に襲來したる分派なり。此の二分派の中「A」分派の方は優勢なりき。

圖五十三第 雷の始發等時線



日二月十 本邦中部以北に於ける雷雨

には朝鮮の東の日本海上及四國の南にありて、これ等の低氣壓は本州に沿ひて北東に進み、正午には能登半島の北西及紀伊半島の南東に來り、十八時には奥羽に於いて合致せり。六時には本州中部、近畿、關西及北陸に於いて、正午には本州中部、關東、北陸及奥羽に於いて、十八時には本州中部、關東、北陸、奥羽及北海道に於いて概ね降雨中にして、内地の他の地方に於いては曇天の所多かりき。

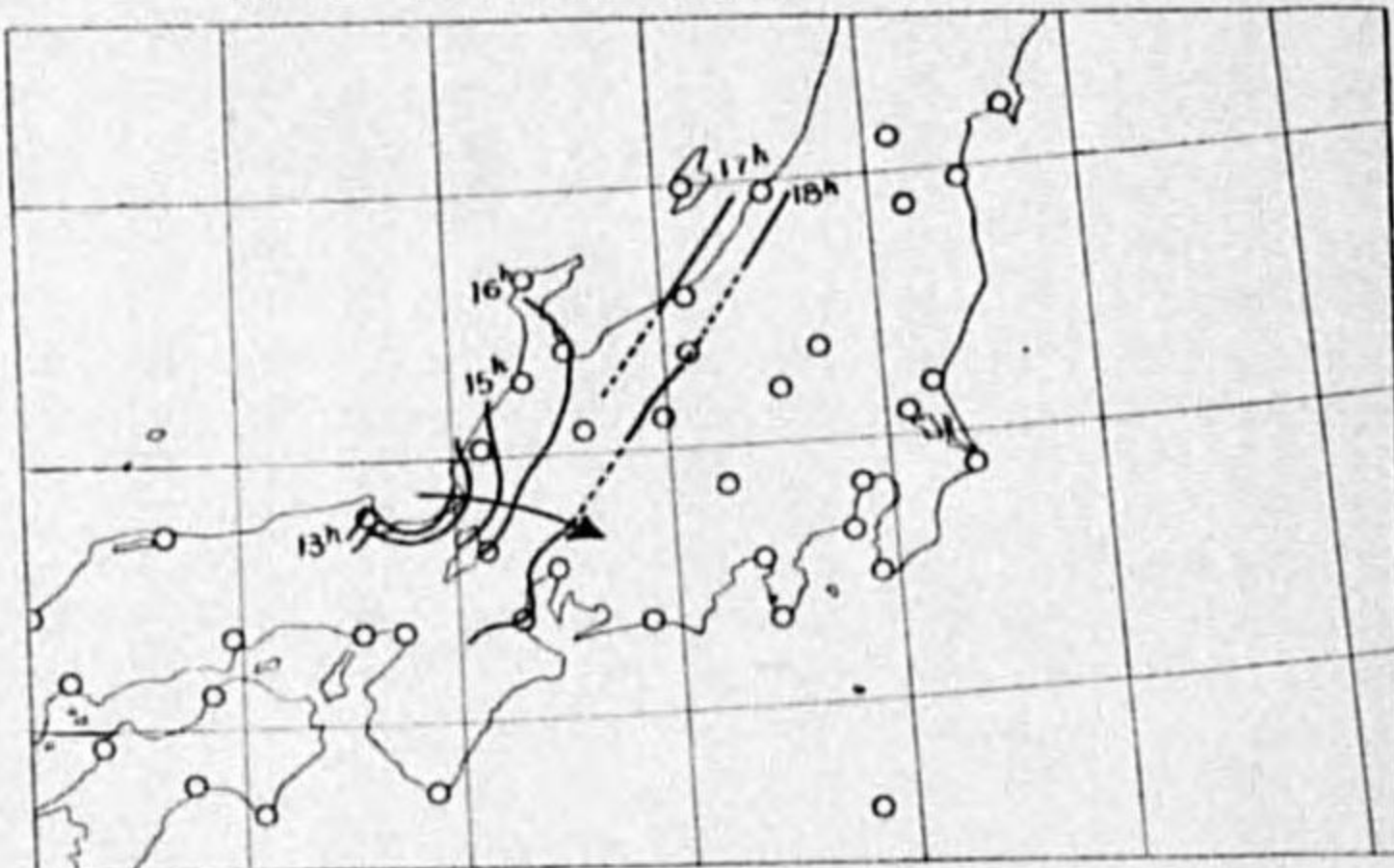
此の日七時半頃若狹灣沖合に始發せる雷雨は勢力を増加しつゝ東方に進行し、十四時頃福井縣に上陸したる頃には最も優勢となり、福井縣足羽郡東郷村に降雹あり、それより向東方に進行し、十六時頃新潟、岐阜兩縣に入る頃には勢力稍衰へ、十七時半頃日本アルプスを越えたる頃は勢力の衰へ方著しく、新潟市には十七時半頃、長岡市には十八時頃、松本市には十九時頃達したるも、それ以上殆んど進むを得ずして、新潟縣東蒲原郡三川村にては二十三時頃、松本市にては十九時頃消失せり。此の雷雨の範圍は山陰の一部、近畿、北陸、本州中部の一部なりしも別に被害はなかりき。第三十六圖には此の雷雨の各地に於ける一時間毎の雷の始發等時線を示す。

十一日の雷雨 本日高氣壓は千島列島及西比利亞にあり、低氣壓は六時

十一月

十三日の雷雨 六時の天氣圖に依れば高氣壓は父島東方、楊子江流域及

圖六十三第 雷の始發等時線



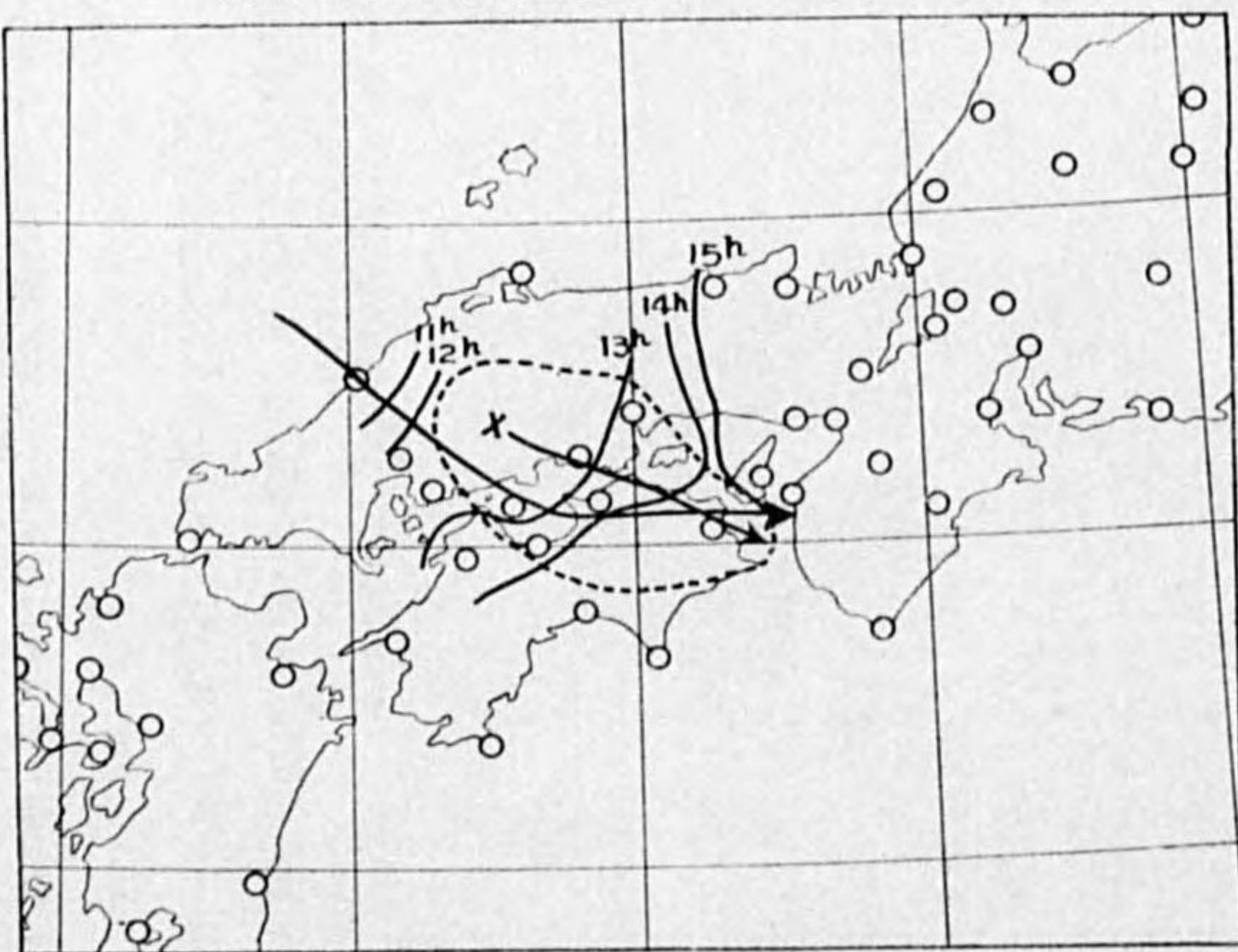
日一月十一 山陰・畿内・西關及部西陸北・部東同に於ける雷雨

間宮海峡に、低氣壓は西比利亞、北海道遙か東方の海上、能登半島の西方及紀伊半島の東方にあり。楊子江流域の高氣壓は次第に東方に進み、十八時には東支那海まで押出し、間宮海峡の高氣壓は北東方に進み、十八時には其中心は樺太の東に移れり。紀伊半島東方の低氣壓は漸次北東方に進み、正午には房總半島の南東方に、十八時には増大して奥羽東方の海上に移動し、能登半島西方の小低氣壓は正午まで此處に停滞し、十八時には秋田市附近に來れり。西比利亞及父島東方の低氣壓は著しき移動を示さず。六時及正午の天氣圖にては本州は概ね降雨中にして、他の地方は曇天の所多し。十八時には關東、北陸及奥羽は降雨中、北海道は曇天にして、他は天氣良好となり。

此の日日本海より十時頃濱田町に至りたる雷雨は初め南東、後東方に進み、其の範圍は山陰、山陽、四國及近畿にして、松山市にては十四時頃、徳島市にては十六時頃、紀伊半島南端にては十五時頃、奥津町(三重縣一志郡)にては十四時半頃、大茅村(鳥取縣岩美郡)にては十五時

半頃終熄せり。此の雷は勢力相當なるものにして、降雹箇所は四箇所なりしも別に被害はなかりき。大阪府泉北郡大津町附近に十四時頃起りたる旋風の際には十數名の負傷者を出し、家屋の破壊せるもの、砂地に引上げ置きたる小船の巻き上げられて位置を變じたるもの、塀の倒れたるもの、屋根の剥がれたるもの、乾燥中の稻の飛散せるもの等ありて、被害も可成ある模様なり。今、大阪測候所よりの報告の一部を掲ぐれば、此の旋風は府下泉北郡大津町の西方海上約四軒の所に發生したるも

圖七十三第 雷及圍範の雷の始發等時線



日三十月一十 中國及四國に於ける雷雨

のらしく、海上にて充分勢力を養ひ上陸したるものなれば、猛烈なる勢

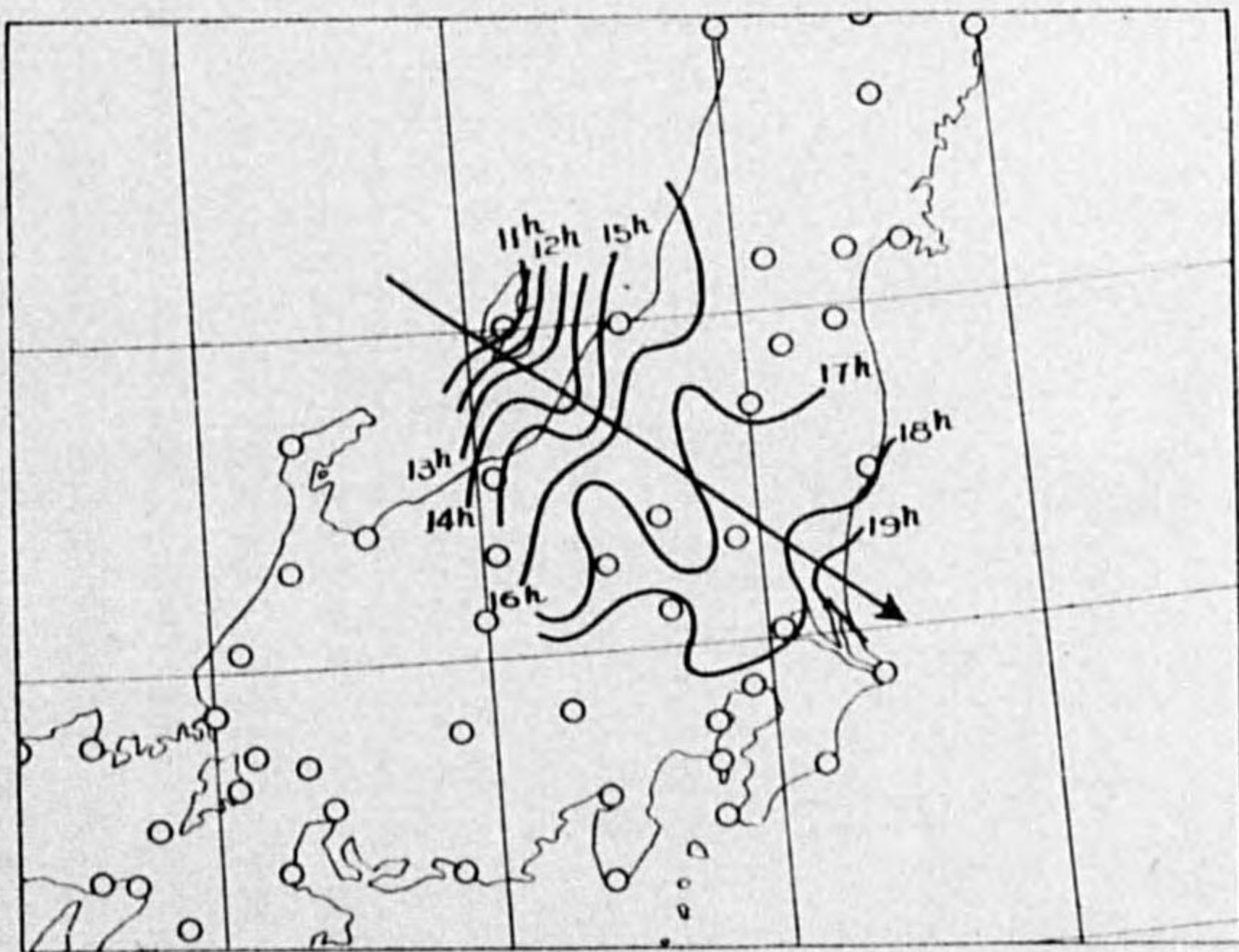
力を以つて通路に被害を與へつゝ東に進み、伯太村地内、即ち大津海岸より約四杆の地點にて方向を南東に變じ、暫くして幾分勢力を失ひたる模様なりしが、郷莊村字阪本を越え、北池田村字池田下の谷合に入り再び勢力を増して屋根を剥ぎ、家を倒し更に東方に轉向して山中に入りたり。被害は不明なりしも東方二十杆程の地、南河内郡富田林及長野地方にも突風雷鳴を伴ひ、雀の卵大の降雹ありて、尙東方なる石川村、中村等にも同様の現象ありて東方に移動せりといへば、或は大和國境に迄達せしものなりしか。而して旋風の被害に直面せる道程は八杆、之に海上の四杆を加へれば十二杆以上となり、餘勢道程十六杆以上に達したるより見るも頗る優勢なるものなり。又時間も區々にして詳細不明なるも最も信頼すべきものに依れば大津町の十三時五十分、富田林町の十四時三十分なれば、其速度略毎時三十二杆となれり、と。又此の日十時頃廣島縣甲奴、神石兩郡境附近に發現したる勢力餘り大ならざる雷雨は東南東に進み、正午頃岡山縣兒島郡南部に小指大の降雹あり、稻、野菜等の農作物に被害可成あり。又同時刻頃小田郡地方にも大豆大の降雹ありて、稻の被害甚大の模様なり。此の雷は尙進行を續け、十一時頃瀬戸内海に入り、十三時半頃紀伊水道に達したるも其處にて十六時頃遂に消滅せり。第三十七圖には前記の雷の一時間毎の雷の始發等時線と、此の雷の範圍、進行方向等を示す。

十二月

五日の雷雨 本日正午には高氣壓は支那中部に、低氣壓は能登半島北西方、房總半島東方及千島列島東方の海上にあり。房總半島東方の低氣壓

は北西方に進み、十八時には其中心は小名濱附近に至れり。他の氣壓配置の状態は著しき變動を示さず。本日本州にては所々降雨中にして、他の地方は晴天の所多かりき。此の日十一時前佐渡島西方に始發したる相當優勢なる雷雨は南東に進み、十三時頃新潟縣に上陸し、十六時頃關東に入り、尙南東に進み、十九時

圖八十三第 雷の始發等時線

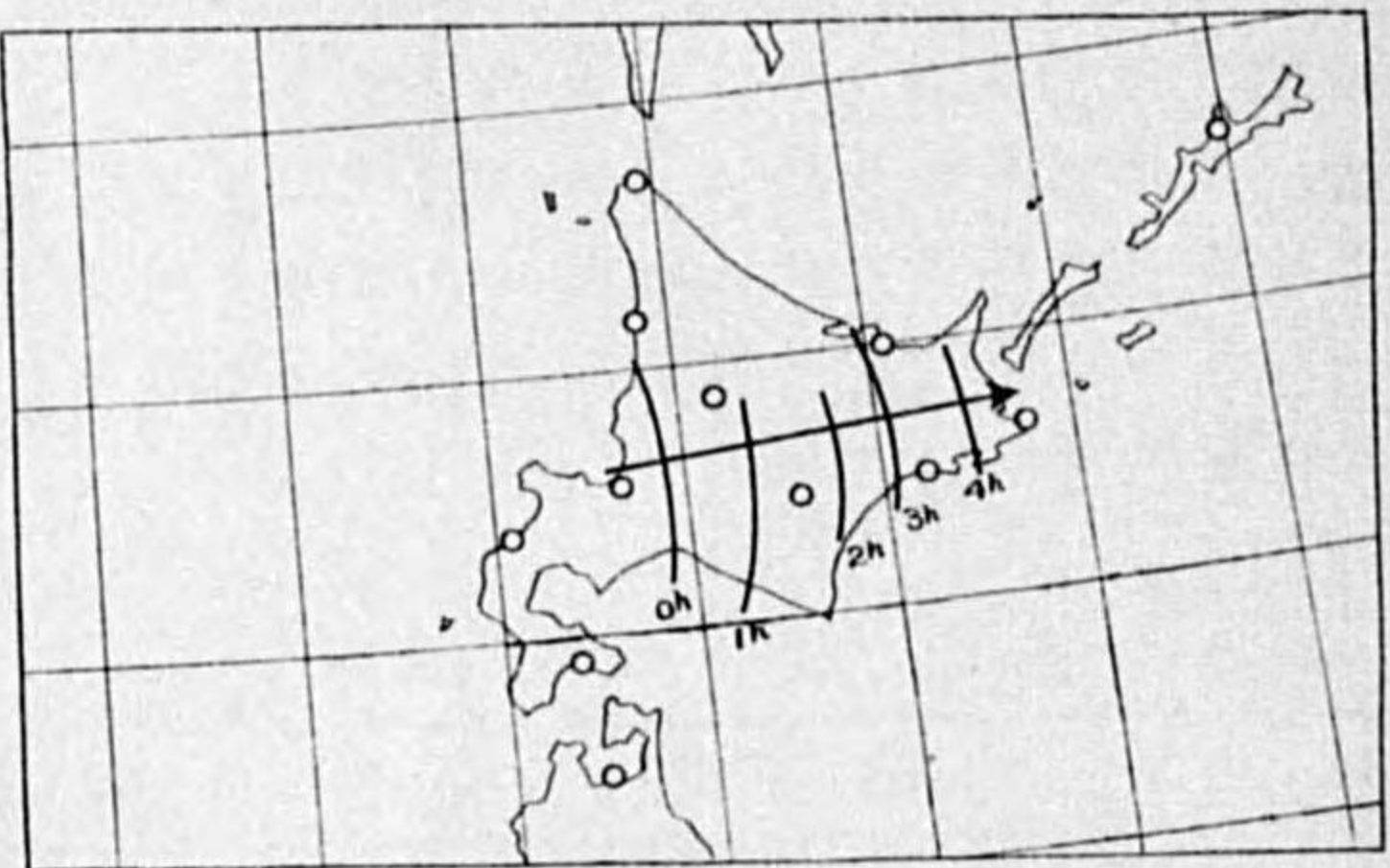


二十日五月日 佐渡西北神よ關東東方力海上にたりる雷雨

半頃鹿島洋に入りて後は消息を知るを得ざりき。此の雷雨に際して、關東に於いて所々に小豆大より大豆大位の降雹ありたるも別に被害はなか

りき。第三十八圖は此の雷の一時間毎の雷の始發等時線なり。

圖九十三第 雷の始發等時線



二十日十一月日 北海に於ける雷雨

十一日の雷雨 本日六時の天氣圖に依れば高氣壓は支那中部より黃海に突出して存在し、低氣壓は滿洲及眞岡の北東にあり。樺太及北海道は降雨又は降雪中にして、他は概ね晴天なりき。此の日北海道西方沖合より北海道に零時頃至りたる雷雨は東方に進み、二時頃十勝國帶廣地方を過ぎ、納紗布崎(釧路國花

第十表 全國二月日別雷雨回数表

日	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北西部	陸東部	奥羽	北海道	計	重複	差引計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	重複	差引計	全國計	
1																											
2																											
3																											
4																											
5								1						1		1											1
6																											
7																											
8																											
9								1						1		1											1
10									1		1			2		2											2
11																											
12															1	1											1
13																											
14																											
15																											
16																											
17																											
18																											
19																											
20																											
21		1				1		1						3		3											3
22						1		1						2		2											2
23													1	1		1											1
24																											
25																											
26																											
27		1						1						2		2											2
28								1						1		1											1
計		2				2		6	1		1	1		13		13							1	1		1	14
重複																											
差引計		2				2		6	1		1	1		13		13							1	1		1	14
降雪回数								2						2		2											2
落雷回数																											
焼失家屋																											
震死者数																											
摘	十とその二日重量は約二互形の雹降りて																										
要																											

第九表 全國一月日別雷雨回数表

日	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北西部	陸東部	奥羽	北海道	計	重複	差引計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	重複	差引計	全國計	
1																											
2																											1
3																											1
4																											
5																		1									2
6																											
7																											
8																											
9																											
10																											
11																											2
12														3	1	2											1
13														1		1											4
14																											4
15	1													2		3		2									3
16																											1
17																											1
18																											
19																											
20																											
21																											4
22																											
23																											
24																											
25																											
26																											1
27																											3
28	1																										4
29																											1
30																											
31																											
計		2																									30
重複																											
差引計		2																									30
降雪回数																											2
落雷回数																											
焼失家屋																											
震死者数																											
摘	十とその二日重量は約二互形の雹降りて																										
要																											

第十二表 全國四月日別雷雨回数表

日	州南諸島	九州	西國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸	陸奥	奥羽	北海道	計	重複	差引計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	重複	差引計	全國計	
1	4													4	4	5							5	5	9		
2	1													1	1	1							1	1	2		
3	1										1			2	2	1							1	1	3		
4	2													2	2	2							2	2	4		
5	1													1	1								1	1	1		
6																											
7																						1	1	1	1	1	
8																						1	1	1	1	1	
9					1			3						4	4										4	4	
10								1						1	1										1	1	
11						1								1	1										1	1	
12																											
13					1	1.1	1.1	2.1	3.1	2.1	1.1	2.2		13	8	5									5	5	
14						1			2					3	3	3									3	3	
15	1							2						3	3	3									3	3	
16	1													1	1	1							1	1	2	2	
17								1						1	1										1	1	
18																											
19																											
20																											
21			1											4	4										4	4	
22	1			4.1	3.2	1.1	1	1	1					10	4	6									6	6	
23																											
24																											
25																											
26	3					1								4	4	3									7	7	
27								1						1	1										1	1	
28								2	1					3	3	3					2			2	5	5	
29		2		1	1.1			1						5	1	4									4	4	
30								1						1	1										1	1	
計	15	2	1	6	6	5	7	11	6	2	2	2		65	13	52	17		2	4		2	25	25	77	77	
重複				1	3	2	1	1	1	1	1	2		13													
差引計	15	2	1	5	3	3	6	10	5	1	1			52		52	17		2	4		2	25	25	77	77	
降雹回数	1	1	1	1		4	9	11+N	1					14	4	10				1			1	1	11	11	
落雷回数	1	1	1	1				1	1					4	1	3									3	3	
燒失家屋								1						1		1									1	1	
震死者數																											
摘	十五日降雹あり、樺太縣に雷に伴は																										
要																											

第十一表 全國三月日別雷雨回数表

日	州南諸島	九州	西國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸	陸奥	奥羽	北海道	計	重複	差引計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	重複	差引計	全國計		
1									1					1		2										2	2	
2									1					1		1										1	1	
3																												
4																1										1	1	
5																												
6																												
7									4	1	1	1		8	1	7										7	7	
8																												
9																												
10																												
11																												
12																												
13																												
14																												
15																												
16																												
17																												
18																												
19																												
20																												
21																												
22																												
23																												
24																												
25																												
26																												
27																												
28																												
29																												
30																												
31																												
計	4	8	2	3	10	5	12	13	7	4	8	3	2	81	15	66	33	2	1	3		7	46	(1)46(1)	111	111		
重複																												
差引計	4	7	1	2	9	4	7	10	5	4	8	3	2	66		66	33	2	1	2		7	46(1)	46(1)	111	111		
降雹回数	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	26	6	17										19	19	
落雷回数																											3	3
燒失家屋																												
震死者數																												
摘																												
要																												

第十四表 全國六月日別雷雨回数表

日	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸	陸奥	北海道	計	重複	差引計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	重複	差引計	全國計
1				1	2	2	2	5				1	17	1	16	2		2			1	5		5	21
2	1			1				8			2	9	23	1	22	4		3	1	1		9		9	31
3	1							3			2	2	14		14	3		3	1			7		7	21
4		2	2					1			1	1	7		7	4		2				6		6	13
5		2	1	2	1			1		1	3	1	12	2	10	5		1	4			10		10	20
6		2	1		1	2	5	3	3		3	2	22	3	19	6		1			1	8		8	27
7		1					1						2		2	4		1				5		5	7
8		2		1									3		3	1						1		1	4
9				1									1		1			1	1			2		2	3
10					1								1		1										1
11				1				1					3		3			3			1	4		4	7
12		1		4	3	6	5	8	4	2	7	4	44	10	34	1		1	2			4	1	3	37
13	1	1		1	1	5	4	4	3			5	25	5	20	3		2	5			10		10	30
14	3			1		1		1					7		7	6					3	9		9	16
15								1					5		5	3			1		1	5		5	10
16													3		3	1			1			2		2	5
17													2		2	3						3		3	5
18						1							1		1	3						3		3	4
19				1	1								2		2	1		2				2		2	3
20			1	3	2	4	2	1	2	3			18	6	12	4			1			5		5	17
21	1						6	7	8				22	3	19	3		1			2	6		6	25
22							1	2					3		3	2		3				5		5	8
23							1						1		1	2			1		1	4		4	5
24		2		1	2	1				1	1		8		7	2			4			6		6	13
25		3		2	1	3		1			2		12	2	10			1	1	3		5		5	15
26						1	1					5	7	2	5	2				1		3		3	8
27		3	1	2	1					2	1	7	17	3	14	2		1	3	2		8		8	22
28		4								3			8		8	2			3			5		5	13
29		5		1			2	7		1	4	2	22	4	18			1		1		2		2	20
30		1								1	1		3	1	2			2		1		3		3	5
計	11	25	6	18	18	24	36	37	49	9	23	32	27	315	45	270	70	2	20	37	8	10	147	146	416
重複				2	6	5	8	10	4	2	3	4	1	45					1			1			
差引計	11	25	6	16	12	19	28	27	45	7	20	28	26	270		270	70	2	20	36	8	10	146	146	416
降雹回数							2	3	9	1	1	3	3	5	19	4	15		1						16
落雷回数				1	1	2	2	3	1	2	1	1	13	2	11										11
焼失家屋													2		2										2
震死者数									1				1		1										1
摘	二又五十錢銀貨大の降雹あり、 一、五錢白銅大の降雹あり																								
要																									

第十三表 全國五月日別雷雨回数表

日	州南諸島	九州	四國	山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸	陸奥	北海道	計	重複	差引計	臺灣	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	重複	差引計	全國計
1																									
2																									
3																									
4		2																							
5				1																					
6		2																							
7			1																						
8			1																						
9		2																							
10																									
11										2	1	1	1	1	1	1						6	4	2	2
12													3		3	3					1	3		3	3
13													1		1	2						1		1	2
14		2	1										3		3	4				1		5		5	8
15		4	1										6		6	1						1		1	7
16		1	1										2		2	1						1		1	3
17		1											1		1	4			1			5		5	6
18		3		2	2								10		6				1	2		3		3	9
19				1		2							2		2				7	5		12		12	14
20		3											6	4	6				1	10		11		11	17
21			1	4	4	7	5	6	9	2	5	4	48	19	29				1	1		4		4	33
22													12	2	10				1			2		2	12
23													4	7	4	3			4			7		7	11
24													28	21	3							3		3	24
25		1											2		2	5						5		5	7
26													1		1	5				2		7		7	8
27													3	1	2				3	1		4		4	6
28													4	1	3				3	4		7		7	10
29		7		2	1								20	3	17	1	1		7			9		9	26
30			3	8	5	3	4	3	5	3	1	8	44	18	26							1		1	26
31				1									10		10	1		2				4		4	14
計	15	18	5	26	18	10	15	29	34	13	14	26	3	226	59	167	60	1	22	39	4	126	126	239	
重複				2	4	6	6	11	5	3	5	5	59												
差引計	15	18	3	14	14	4	9	18	29	10	9	21	3	169		167	60	1	22	39	4	126	126	239	
降雹回数				2	1	3	3	5	1	5	2	1	14	3	11							14		14	44
落雷回数				1	3	2	2	3	1	5	2	1	1	24	9	15						1		1	16
焼失家屋																5									5
震死者数																3									3
摘	三、被雷甚し、樺指大の降雹あり																								
要	二、十一日、氣絶者一名あり 三、十一日、二寸五分大の雹降 十一日、雷に伴はざる雹一																								

第十六表 全國八月日別雷雨回数表

日	州南諸島	九州	四國		山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸		奥羽	北海道	計	重複	差引計	臺	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	重複	差引計	全國計	
			四國	山陽							西部	東部																
1	4	8	3	7.1	4.1	15.7	18.6	25.7	20.1	1	4	12	6	127	23	104	3					2	5	5	109			
2	2	5	9	10.4	6.2	16.4	22.5	17.3	15.2	7.3	10.4	12.2	1	132	29	103	2		2	1			5	5	108			
3		6	11	9.5	10.1	3.2	4	6.4	3	6.2	6.1			64	15	49	2		1			1	4	4	53			
4		6	4	7.2	8.2	6.2	5.2	12.3	5.1	5.1	7.2	2.2		67	17	50	1		1	1			3	3	53			
5		1		1			4	7.1	3		3	1		20	1	19	1						1	1	20			
6		3	3		4.1	5.1	2		7	1		2		27	2	25	3						3	3	28			
7		5		2.1	1	2		7.1	6.1	1.1	5.1		4	33	5	28	7		1		3	2	13	13	41			
8	1	4	1	1	2	1.1		2.1			4	2	1	19	2	17	2				5		7	7	24			
9		7	1	2	5		1	1	8	1.1	4.1	5.2	6	41	4	37	2						2	2	39			
10		4	1	4.2	6.2	1	1	4.1	8	2	4.1	7	3	45	6	39	1		1				2	2	41			
11		1		1.1	1	1		5.1	3		3	2		17	2	15					1		1	1	16			
12							1							3		3			1				1	1	4			
13	2						1							3		3	2					1	3	3	6			
14	1						1	2.1	6		1	1		12	1	11	6				2	1	9	9	20			
15	2	2	1	1.1	2.1	1	4	2	5		1.1	2	2	25	3	22	7			1			8	8	30			
16	1	8.1		3			1	3	4		2		1	23	1	22	4				2	1	7	7	29			
17	4	5		1	3.2	3	2	3		1.1				22	3	19	1				3		4	4	23			
18	1	5		3.1	2.1	1	2	2	1.1					17	3	14	4				2		6	6	20			
19		2					1				1		1	5		5	4				2		6	6	11			
20	1	2	1											4		4	2				2		4	4	8			
21		4	2	1.1	1									8	1	7	1				1		1	1	8			
22	1	1												2		2	1				1		2	2	4			
23				2								2		4		4	3						3	3	7			
24		1												1		1	1			1			2	2	3			
25						1.1					1		1	3	1	2					2		2	2	4			
26										2				2		2	1				1		4	4	6			
27		2								1		1	6	10		10									10			
28		4								2			1	7		7									7			
29		7								1		1		9		9	1						1	1	10			
30													1	1		1	1				2		3	3	4			
31		7	2	7.1	5.2	2	2.1		1	1			2	29	4	25	2						2	2	27			
計	20	100	39	64	60	58	72	98	101	29	53	53	35	782	123	659	65	3	6	30	5	5	114	114	773			
重複		1		20	15	18	14	23	6	9	11	6		123														
差引計	20	99	39	44	45	40	58	75	95	20	42	47	35	659		659	65	3	6	30	5	5	114	114	773			
降雹回数	2	6	3	4.2	8.1	5.1	4	1	4	1	2	1		52+N		35									31			
落雷回数	12	12+N	16	8.3	8	12.3	20	6.1	12	2	8	1.1	1	88		45+N									76			
焼失家屋							2	8	1		2		2	16		16									16			
震死者数	1	2			1		5		5		1		2	16		16									16			
摘	二十九日、重傷者三名あり																											
要	二十三日、重傷者二名あり 三日、氣絶者二名あり 一四日、重傷者二名あり 一四日、二錢銅貨に被害あり 半焼家屋一棟あり 四日、重傷者二名あり																											

第十五表 全國七月日別雷雨回数表

日	州南諸島	九州	四國		山陽	山陰	近畿	關西	本州中部	關東	北陸		奥羽	北海道	計	重複	差引計	臺	支那中部	支那北部	朝鮮	樺太	南洋	計	重複	差引計	全國計	
			四國	山陽							西部	東部																
1	1	1												3		3	1				3			4	4	7		
2					1	3	2.1		2	3		1	1	13	1	12	3				8			11	11	23		
3		2							6.1	9.3			6	27	4	23	2						1	3	3	26		
4													1	1		1							2	2	2	3		
5		2												2		2	1				1		1	3	3	5		
6			1											1		1				2	1		3	3	4			
7		2			1	1	1			1		1		7		7	1				1		2	2	9			
8		10	4	10.2	2.1	4.4	3.2	6.3	5	3.2				47	14	33	1		1	3			5	5	38			
9	2	10	7	7.2		1	2.1							29	3	26	4						4	4	30			
10		3	4	7.1	3.3	5.1	1.1							23	6	17	6				1	2	2	11	11	28		
11	1	1	1	2	12	6.2	7.2			1				32	4	28	3						1	4	4	32		
12		2	2	3	1	3.1	5.1	3.1						19	3	16										16		
13																												
14		1									2			3		3										3		
15	1	7			1.1									9	1	8	2				3		5	5	13			
16		12	4.1	5.3	3									24	4	20	2				4		6	6	26			
17		2								4			1	7		7	2				1		3	3	10			
18		2								3	1	1	1.1	8	1	7	3						3	3	10			
19		7	4	1	1	1				1			1	16	16	2							2	2	18			
20		3	3	2						1				10	10	3					2		5	5	15			
21	1	5								1				7	7	1	1	3				1	6	6	13			
22	2	5												7		7	1				1		2	2	9			
23		2.1			2	3.1	4.3	6.1	3.2	4	3.2		1	29	10	19									19			
24		1	1.1	4	2	1.1			4.2	2	3	4.1	1	25	5	20									20			
25	1								1	4.1	8.2	14.2	1.1	38	6	32									32			
26	1				2	1	2.1	3.1	6					15	2	13	1	1					2	2	15			
27	1	1	2						1	1				7		7	3				2		5	5	12			
28		2												2		2	2			1	2		1	6	8			
29	1													3		3	3			2			5	5	8			
30										1.1	5.4	13	6.1	29	6	23	2						4	6	29			
31	5	1			2	1		5.4	10.1	12.2		1.1	2	39	8	31	4			2			6	6	37			
計	21	81	32	50	34	37	43	70	59	13	9	24	9	482	78	404	53	2	11	33	2	13	114	114	518			
重複		1	2	9	5	15	18	12	8	5	3			78														
差引計	21	80	30	41	29	22	25	58	51	8	6	24	9	404		404	53	2	11	33	2	13	114	114	518			
降雹回数									1	1				8		7+N										7+N		
落雷回数			1	23	5+N	14+N	5.3	6+N	1.1	6.1			5	23		41+N										41+N		
焼失家屋										1				1		1										1		
震死者数														6		6										6		
摘	十一日、重傷者一名あり																											
要	三日、雷降れり 三日、栃木縣下に二錢銅貨																											

第四十二表 顯著及稍顯著雷雨一覽表

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	強弱	性質	降所	落所	記
		なし								
三		なし								
月										
二		なし								
月										
一		なし								
月										
内	十二日	〇・三五 響瀨西方沖沖ノ島附近 山口縣豐浦郡角島村	東、長門に上陸し、二時頃より九州北端、山口、廣島、鳥根、三縣下に雷鳴甚しく、瀬戸内海を渡りて、四國中部以東の地方に鳴動し、岡山縣南部を掠りて、紀伊水道を越え、和歌山縣下に入りしとき勢力衰へたるも、大和の國に發現したる雷と六時過より合致し、山城國愛宕山附近に達したる強雷とも合致して勢力急に強大となり尙東進して關東南部地方を通過りて鹿島洋に去りたり	一〇・一五	鹿島洋 利根川河口	強	進	39. N	6. N	雷は主に大豆大なれ共、和歌山縣日高川上流中山路村附近にては鶏卵大のものありたり、香川縣下にては落雷の爲三棟焼失したり、降雷に依る被害は各地不明なれども、農作物の被害は僅少なりしもの、如し
内地	十二日	一・二〇 和歌山縣東・西兩半並和歌山縣西半並栗栗河川	東、この雷の三重縣下に入りし頃は急に北方に擴大し、琵琶湖東方地方に至り、天龍川流域地方より、幅員を狭めて、前雷と合したり		駿河灣	強	進	6. N		
内地	十二日	四・三〇 紀伊川上流山地 和歌山縣伊都郡富貴	東、この雷は鈴鹿山脈を越え、三重縣に入り、伊勢灣を横斷して三河國に到たる頃「a雷」と合致せり		三河國	強	進	2	1	

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	強弱	性質	降所	落所	記
		なし								
四		なし								
月										
二十日		八・三八 臺北州淡水流域地方	範圍は臺灣島、北部地方一帯	一三・〇〇 臺北州基隆郡彭佳嶼	美濃國	弱	擴			雨量 89.4 (彭佳嶼)
二十日		一八・二〇 高雄州屏東郡蕃地地方 臺東廳臺東街	範圍は臺灣島、南部地方一帯	一一・二〇 花蓮港廳花蓮港街 一一・四〇 新竹州新竹郡新竹街		弱	擴			
二十日		五・三〇 新竹州淡水流域と大安溪中流を結ぶ線上 新竹郡大溪郡龍潭庄 臺中市中		二二・三〇 高雄州恒春郡恒春庄 二〇・一〇 臺南州新化郡新化街 二二・四九 臺東廳臺東街		弱	擴			
二十日		五・五〇 新竹州淡水流域と大安溪中流を結ぶ線上 新竹郡大溪郡龍潭庄 臺中市中		八・三二 臺南州平六郡地方 七・〇〇 臺北州羅東郡蕃地 九・三〇 山附近		弱	擴			
二日		一・五八 神戶縣宮古郡島宮古島 南西海上	北々東	一三・〇〇 同上國頭郡		強	進			この雷に伴ひし神戶島各地の雨量左の如し 雨量 56.1 (那覇市) 65.0 (尖原) 18.06 (北谷村) 11.40 (不明) 7.50 (北谷村) 15.00 (不明) 92.5 (國頭村) 60.0 (本部村) 11.00 (不明)
二日		一七・〇六 那覇市西方海上 神戶縣中頭郡北谷村	北東	二〇・三〇 神戶縣北東部海上 神戶縣國頭郡國頭村		弱	進			

日次	發現時刻	發現場所	進行方向	經過筋	範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	降雹	落雷	記事
十三日	八・二〇	豊岐國北方海上	「南東」初め南東後北東、豊岐國北方海上に始發したるこの雷は、南東に進み、岐阜縣中部地方より方向を北東に轉ず、美濃平野及飛騨國一帯に鳴動して、長野縣境附近にて勢力衰へたるも利根、六合の兩川上流より勢力をとり返し、關東一帯に雷鳴あり、然して、栃木縣男體山附近に發したる雷と合致し、福島縣南部を通り太平洋に入る	東	東	二二・〇〇	伊豆半島東方海上	強	進	2	1	「a雷」と十七時頃より合一せり
十五日	一・四四	甲府盆地と大井川中流を結ぶ線上	範圍は大井・富士兩川流域地方一帯に及ぶ	東	東	二〇・三五	太平洋	強	進	5	2	靜岡縣安倍郡井山村に於ける電は徑五・〇耗、長さ五・〇耗、重量〇・七匁、志田郡德山村に於ける電は跨豆大
二十一日	一三・〇五	鹿兒島灣口	東南東、この雷は北陸地方一帯に雷鳴強く、東南東に進路をとり、福島縣を通り磐城沖に去る	北東	北東	一六・二〇	宮崎縣大丸川上流地方	強	進	1	12	落雷及降雹に依る被害なし、電は豆跨大
二十一日	二・三五	能登半島西方海上	東南東、この雷は北陸地方一帯に雷鳴強く、東南東に進路をとり、福島縣を通り磐城沖に去る	北東	北東	七〇・三〇	磐城國沖合	強	進	2	1	十一日より十二日に亘る雷にして、七尾灣燈臺を去る西方十二、三町の杉に落雷し、損害は杉一本約三、四十圓

日次	發現時刻	發現場所	進行方向	經過筋	範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	降雹	落雷	記事
十二日	三・五五	北海道渡島半島南西海上	北東	北東	不明	不明	釧路灣上	中	進	2	1	雷は小豆大、この雷を函館にては八時三十六分頃まで聞きたり
十四日	一〇・一〇	薩摩國萬瀬川下流域	北東	北東	一五・四〇	日向市	宮崎縣	強	進	1	1	大淀川上流地方にてはこの雷を十八時頃まで聞きたる所あり
十八日	一六・二〇	島根縣西方海上	南東、範圍は島根、廣島、岡山三縣下二帯	南東	南東	二二・三〇	岡山縣川邊川下流	強	擴	1	1	雨量 74.0 (札幌) 112.0 (宮崎) 11.25 (札幌) 26.22 (宮崎) 131.0 (福島)
二十一日	二・〇〇	高知縣高岡郡窪川村	東北東、この雷は進路を東北東にとり、近畿に入りたる頃幅員を擴め、近畿、關西に強雷して富士川上流地方にて消失せり	東北東	東北東	一一・三八	甲府盆地	強	進	1	1	雨量 70.0 (伊吹山)
二十一日	七・〇〇	熊野川上流伯母子山附近	初め北東後東北東、この雷は初め北東に進路をとり、大和、伊勢、伊賀の各國に雷鳴して、伊勢灣に入る、知多半島に上陸せる頃より進路を東北東にかへ、遠江を過ぎ、駿河灣を渡り、伊豆半島にいたる	北東	北東	一一・四五	沼津市北方	強	進	3	1	「a雷」と伊賀、大和地方より合一せる模様なり
二十一日	三・三〇	大阪灣南隅	北東	北東	七・四五	琵琶湖東部沿岸	彦根市	強	進	1	1	此の雷を石巻測候所にては二十一時過まで観測せり
二十一日	四・五〇	但馬國沖合	南東	南東	六・二三	丹後國南部地方	京都府加佐郡舞鶴町	強	進	1	1	
二十一日	一一・五〇	京都府府田・船井兩郡	初め東南東後北東、この雷は最初東南東に進路をとり、琵琶湖南部地方より北東に進路を變へ、同湖東部沿岸地方に雷鳴あり、それより岐阜縣に入る	南東	南東	一五・〇五	伊吹山北方	中	進	3	1	
二十一日	一五・三〇	岩代國那須山	北々東	北々東	不明	岩手縣南部地方	宮城縣栗原郡北部地方	強	進	1	1	

日次	發現時刻	發現場所	通行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	筒降電	筒落雷	記
二十四日	一三・〇八	新潟縣阿賀野川流域	北東	二二・二〇	岩手縣南部地方 宮城縣登米郡登米町	強	進	1+N		この雷は終雷近く、他の雷(その中には「a雷」を含む)と合致せる模様なり
	一四・〇〇	長野縣八ヶ岳附近 〔長野縣諏訪、山梨縣北巨摩兩郡境〕	南東、北西、甲府盆地に入り伊豆、相模兩國を経て相模灘に入る	一九・〇〇	伊豆國大島附近	強	進	1+N		
	一三・〇〇	〔長野縣南佐久、群馬縣多野郡新羽村〕	東北東		利根川上流地方	強	進			
	一四・二〇	群馬縣利根・群馬兩郡境附近	南々東	一九・〇五	安房國沖合	強	進	2+N		
	一二・四九	茨城縣西茨城郡中部	西南西	一九・一〇	茨城縣猿島郡地町	強	進	2	4	この雷は消失近くなり、他雷(その中には「c雷」を含む)と合致せる故、消失時刻不明なり
	一二・四五	久慈川中流久慈郡地方 茨城縣久慈郡大字町	南々西、久慈川流域にて「c雷」と合し下流、上流、東京灣沿岸地方に雷鳴ありて安房沖に入る	不明	房總半島南方海上	強	進	4+N	1	電は小豆大
三十日	二・三四	石川県西方沖合 島根縣濱田町	南東、鏡川流域に雷鳴ありて、中國山脈を越え、瀬戸内海に入りたり	一七・四〇	備後洋	強	進	4+N		岡山縣阿賀野郡地方に落雷二箇所あり、爲に住宅及納屋を焼失す、又縣下各所に降雷の爲、桑葉、麥作其他の農作物に被害甚大の模様なり、上房郡地方には指折大の雹約二十分間も降り、麥作は約二割減の見込
	九・三〇	石川県西方海上 島根縣鏡川郡鹽冶村	南東、この雷は進路を南東にとり、中國山脈を越え、備後、備中地方に強雷あり、内海に入りてより急に勢力衰へ、讃岐、阿波地方を過ぎ、紀伊に入り、紀伊山脈附近にて消滅せり	一七・四〇	紀伊山脈 和歌山縣西牟婁郡地方	強	進	5+N	2	此の雷は路筋を(A)(B)(C)(D)に分けて記載せり、兵庫縣多紀郡北村に即死者一名、焼失家屋一棟あり、富山縣伏木町にては倉庫一棟焼失、同縣上新井郡針原村にては
	二・四〇	隱岐國南海上 隱岐國西郷村	南東	二二・〇三	熊野灘東方 三重縣志摩郡南部地方	強	進	1+N	2	三重縣鈴鹿郡開町宇木崎中野方鎌倉に落雷、雞二羽即死
	九・一八	若狭海西方沖合 福井市	東、(A)越前、加賀地方に強雷あり、飛騨國に入り、乗鞍岳附近に於いて「北東」(A)、「南東」(A)分れ、(A)は信州を過ぎ關東地方に入り、鹿島灘に去り、(A)は信州川に沿ひて北東に進	一七・三二 一六・四一 一三・一〇 一六・五〇	鹿島灘沖合 信濃川下流域地方 沼津市 濱松市 熊野川流域地方	強	進	29+N	12+N	

日次	發現時刻	發現場所	通行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	筒降電	筒落雷	記
四日	一一・一〇	〔花蓮港廳、臺東廳、高雄州三國境附近〕 臺東廳サクラ	範圍は臺北州南部、花蓮港廳、臺東廳、臺南州西部、臺中州西部	一五・一五 一七・四〇 一六・〇八 不明	〔臺北州蘇澳郡蕃地ゴ1コツ〕 臺中州西螺溪上流蕃地 臺東廳南部地方 臺南州嘉義郡地方	中	擴	1		雨量 61.7 (花蓮港街)
十四日	一三・〇〇	臺北州文山郡地方 臺北市	南々西	一六・〇〇頃	臺東廳北部地方	弱	進			雨量 76.0 (臺南市) 92.4 (臺南州新豐郡關廟庄龜洞) 73.1 (高雄州旗山郡旗山街) 11.40 (高雄州潮州郡蕃地内藤頭) 7.00 (潮州郡枋山庄)
十七日	七・五〇	臺南州西部沿岸 臺南州新豐郡鹽水街	南東、範圍は臺灣島中部以南及澎湖諸島	九・三〇 八・三五 一五・三五	臺南州十六郡山地 澎湖諸島近海 臺灣島南端	弱	擴			雨量 108.4 (臺南市) 13.40 (臺南州新化郡新化街) 154.3 (臺南州新化郡南化庄)
二十五日	一八・〇〇頃 一九・五三	臺南州南部西方近海 澎湖島	南東	(一四・四五) (二六・日)	臺灣島南端	弱	進			雨量 53.0 (英城縣眞壁郡下館) 栃木縣芳賀郡小井村積谷地方に五錢白銅大の降雷ありて麥作・葉煙草等に被害あり 十三時頃鹽谷郡船生村に落雷、男一名殺死せり

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	強弱	性質	箇所	雷落	記
十七日	一一・二一	福島縣阿武隈川下流域 地方 福島縣安達郡川俣町	北々東	一七・一六	北上川上流域地方 盛岡市北東山地	強	擴			雷の大きは概一分五厘
十七日	八・二二	北海道石狩國空知川下 流域 石狩國空知郡別所西方	東北東	一三・五八	斜里 網走南東方	強	進	1		この雷に伴ひて大雨あり、和歌山市内にては溝渠下水汎濫して床下に侵入したる所多からず、十六時頃京都府愛宕郡雲ヶ畑宇大曲の麻道約一丁降雨の爲に崩壊し、又電柱倒れ、電線切斷さる、各地の雨量(10.0)和歌山市) 8.29 (大阪府南河内郡長野) 5.9 (泉南郡上郷) 5.6 (大阪市)
二十日	七・五五	岡山縣中部西大川中流 一城山地 岡山市地方	東、播磨、丹波、攝津、河内、大和の北部、山城、近江、伊賀、伊勢の國を東方に進みて伊勢河に入る	一一・二〇 一五・〇〇	伊勢 三重縣四日市附近 京都府相樂郡大河原村(北方)	強	進			雨量 5.6 (靜岡縣小笠原郡河村) 雨量 15.4 (靜岡縣小笠原郡河村)
二十七日	一〇・四五	琵琶湖上	東南東、琵琶湖東岸地方に雷鳴ありて伊賀地方に及び、尾根を通り、遠江の南東方に向ふ	一八・〇〇	遠江 靜岡縣小笠原郡河村西方	中	進			十四時頃栃木縣下各所に降雷あり、殊に鹽谷郡地方甚にして、約十分間五十錢銀貨大の降雷あり、郡より派したる觀察者の調査に依れば積雪多きは一尺餘、少きは五六寸内外に達し、被害區域
二十七日	一〇・三二	安藝海 松山市	北東	一四・三〇	丹波、丹波兩國境附近 丹波國宮津附近	中	進			雨量 50.6 (阿武隈川流域白石)
二十八日	一九・〇〇	越後國西方海上 新潟縣西蒲原郡卷町	東、信濃川下流域に雷鳴ありて岩代國に入る	二二・一〇	阿武隈川上流地方 福島縣田村郡三春附近	中	進			雨量 1.0 (阿武隈川流域白石)
二十八日	一六・三〇	武藏國武甲山東方 埼玉縣所澤北西方	北東	二〇・五五	久慈川流域 茨城縣久慈郡譽田村附近	強	進			は片岡、喜連川、大字玉生及矢板町の一部分にして總面積一千町歩に涉り被害として斯くも擴大なる區域に互るは未曾有の山、被害の五割以上に達するものは水稲六百三十町歩の内七十町歩、大小豆五十町歩の内十四町歩、陸稻五十町歩の内二十四町歩、其他蔬菜、果樹類三十町歩の内十三町歩等にて其慘狀は目も當らぬ状態なりし山、尙同日片岡村に降雷あり、家屋一棟燃失、足利市附近にては感電人事不省になりし者一名を出したり、又同縣下島山地方にも十三時頃大雨雨と共に北西風猛烈になり、降雷もあり、七合村字下淺見にては煙草耕作地十五町歩に亘り被害三割方出し、芳賀郡七井村にては人家に落雷、焼失家屋一棟を出したり
二十九日	七・三〇	越後國西方海上 新潟縣西蒲原郡卷町	南、越後國に上陸して東南東に進み磐城、岩代兩國境附近より南に方向を變へ、下野、常陸、武藏、下總、相模の各國に雷鳴ありて東京灣に入る	一八・四〇	東京灣 横須賀市北東方	強	進	7	3	

臺	日	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	強弱	性質	箇所	雷落	記
四	a	一一・一〇	新竹州淡水溪上流域境 附近 新竹州大溪郡龍潭庄	範圍は臺北州、臺中州、新竹州一帶及臺南州北部、花蓮港廳中部以北	一九・一〇 一九・一〇 一七・〇〇頃	臺北州北部沿岸地方 花蓮港附近 臺南州北部地方	弱	擴			
	b	九・一〇	富山縣神通川中流域 富山縣上新井郡上瀧	北東 (東) (西) (北東)	一四・四五 一一・三〇 一四・〇五	越後國西方海上 長野縣更級郡藤井附近 富山縣西礪波郡地方 富山縣下新川郡北部地方	強	擴			
	a	一三・二五	鹿兒島縣枕崎西方 同	北東、鹿兒島縣南部地方一帶に雷鳴ありて北上す	一八・二五	宮崎縣石堂山附近 宮崎市附近	強	進	1		雨量 91.9 (鹿兒島中) 114.7 (枕崎) 18.12 (指宿) 20.08 (霧島) 24.0 (指宿) 77.0 (宮崎) 55.00 (指宿) 18.30 (宮崎) 112.9 (宮崎縣島町) 30.00 (宮崎縣島町)
	e	九・一五	北海道渡島國西海上 北海道渡志志國瀨棚郡利別	北東	一四・一五	石狩國樺戸郡浦臼附近	強	進			
	b	一一・〇〇	仙臺市北方山地 宮城縣黒川郡粕川村	北々東	一七・二〇	岩手縣宮古附近	強	進	1		

日次	發現時刻	發現場所	進行方向、經過道筋、範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	降電	落雷	記
七日	一三・〇〇	臺中州大肚溪上流地方 臺南州斗六郡林內庄	北東	一八・一〇	臺北州濁水溪流城	強	進			雨量 60.9 (新竹州大溪郡龍潭庄)、 112.0 (同上李山東山)、69.1 67.0 (同上李山東山)、5.05 (臺中 市)、83.0 (臺南州斗六郡林內庄) 臺北市にては十六時二十六分頃ま で、花蓮港街にては二十二時四十 分頃まで雷鳴ありたり

七月

内地		日次	發現時刻	發現場所	進行方向、經過道筋、範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	降電	落雷	記
二日	a	二日	一五・三〇	上野國榛名山南方 群馬縣北甘樂郡富岡町	範圍は上野國一帯 (東) (西)	一八・〇七 一六・二〇	群馬縣多摩郡鼻毛石東方 群馬縣吾妻郡大前南方	弱	擴			
三日	a	三日	一一・〇〇	下野國中部地方 千葉縣長生郡茂原町	範圍は下總東方沿岸地方 (東北東) (南)	一一・四七 一一・二六	利根川河口銚子町 千葉縣夷隅郡勝浦町附近	弱	擴			
八日	a	八日	一一・三〇	福岡縣英彦山附近 福岡縣京都郡唐原村	南東、大分縣下一帯に雷鳴ありて、 宮崎縣北部地方に入り日向洋に去る	一七・〇〇	日向洋 (宮崎縣五箇瀬川河口延 岡町)	強	進			この雷は宮崎縣北部地方にて、他 の雷と合一す 落雷に伴ふ被害なし
十日	e	十日	一四・〇〇	京都府比叡山附近 滋賀縣高島郡市場	南東、琵琶湖沿岸一帯に雷鳴あり て南東に通む	一九・一三	沼津市	強	擴			この雷は他の雷と琵琶湖西岸にて 合して東進せり 滋賀縣野洲郡玉澤小學校及同郡役 所に落雷あり、又栗田郡金勝村字
	b		一一・二〇	岡山縣比婆郡奥津村 岡山附近	東、鳥取、岡山縣東部地方に雷鳴あり て十三時過若狭國に發現したる雷 と合一し琵琶湖を越えて尾張に入り 伊勢灣一帯に及び、尙東進して河 内、遠江を縱斷して駿河灣に消失せ り	一九・一三	沼津市	強	進			
	b		一三・〇五	若狭國西部山地 京都府下北桑田郡知井村	東	一九・一三	沼津市	強	近			
	a	十一日	一三・五〇	若狭國中部地方 福井縣三方郡八村字三方	東、範圍は琵琶湖沿岸一帯と丹波國 北部地方に及び、美濃、尾張國境附 近に至る (東北東) (南東) (南) (西)	一四・三五 一七・五〇 一六・三九 二二・二〇	伊吹山 滋賀縣蒲生郡日野町 京都府 大阪府豊能郡東郷村	強	擴			上砥山村に落雷、一名感電即死す 京都府乙訓郡羽來師村字出ノ川に 落雷、麥四十束焼失、同時に同村鴨 川小学井上にも落雷せり 雨量 20.1 (日向町) 雨量 36.1 (京都府北桑田郡大野村)、 50.1 (京都府) 綾部町内數ヶ所及中筋村に落雷あ りしし人畜に被害なし
	b		一五・〇〇	琵琶湖上南方 滋賀縣滋賀郡坊	南東、琵琶湖東岸及西岸一帯に雷 鳴ありて鈴鹿山脈を越えて、尾張、 伊勢に入り三河を過ぎて遠江洋に入 る	一九・二〇	遠江洋	強	進			落雷の爲四日市西端東部電力發電 所の窓硝子破損、同市江田町静岡 カフエン株式会社事務所、屋根瓦 及軒下破壊、同市電柱破損、海蔵 村に於いては一名感電せるも應急 手當の結果蘇生せり 雨量 30.0 (三重縣三重郡海蔵村) 雨量 1.00 (三重縣三重郡海蔵村)
	a	十五日	二〇・三三	鹿兒島縣屋久島西方海上 鹿兒島市	北、鹿兒島、熊本兩縣境附近と宮崎 縣南部沿岸及長崎縣南端地方に及ぶ (北々東) (北東) (北西)	二二・二〇 二二・一〇 二二・一〇	長崎市 熊本縣球磨郡藍田村矢嶽 北方 宮崎市西方	強	擴			
	b		一三・四五	佐賀縣中部地方 佐賀縣杵島郡武雄町	北東、佐賀縣を北東に福岡縣に入り 馬關海峡附近に至る	一七・三〇	周防洋	強	進			
	a	二十三日	一三・三〇	滋賀、三重、岐阜三縣境 山地	北東、美濃、尾張國境附近に雷鳴あ りて三重と合致して北東に通む	一八・一五	岐阜縣本巣郡北方	強	進			「b雷」と美濃地方にて合一す
	b		一六・〇〇	伊吹山南部地方 岐阜縣養老郡多良村	西北西、琵琶湖北部沿岸を若狭國に 入り、西進して丹波、丹波に至る	一七・五八	丹後國中部地方 京都府與謝郡宮津町	強	進			

八月

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	降雷	落雷	記
二十四日	一四・〇〇	掛斐川上流域地方 岐阜縣本巣郡北方町	北東、擴大しつゝ、北東に進む、範圍は美濃、越前、飛騨、信濃に及ぶ	一七・〇二	長野縣南安曇郡地方 松本市	中	進	1		美濃國北部より「a」雷と合して越前國に入る
	一六・一五	木曾川中流山地 岐阜縣武儀郡金山町	北西、飛騨、信濃の國境附近を北西に進み、九頭流木曾川流域地方に雷鳴ありて日本海に入りたる模様なり	一九・二七	福井市	強	進			「e」雷と美濃國北部地方にて合して越前國に入る
	一二・三〇	加賀國手取川上流山地 石川縣能美郡別宮	東南東、南西に擴りて越前國に入りたるものなれど、主軸は飛騨國に入り、高山附近にて約三十分位遅れて發生したる雷と合して信濃に入る、又この雷は高山附近にて、南方に分散して掛斐川上流に至りたるものあり	一六・四〇	信濃地方 松本市	強	進			雨量 27.5 (古川町)
	一九・二〇	明石海峡 淡路國北部岩屋町	東北東、大阪灣沿岸地方に雷鳴ありて山城、大和に入る	三三・二〇(二日)	大和國西部地方 奈良縣八木町	強	進			
	一六・五五	紀ノ川上流域地方 奈良縣八木町	東、大和、伊勢、志摩に雷鳴ありて伊勢灣を渡り三河に至る	二二・一〇	知多半島南端 愛知縣深美郡野田村	強	進			三重縣名賀郡依那古村にては落雷の爲一棟焼失せり
	一四・三〇	丹後國船井郡地方 京都府何鹿郡綾部町	東南東、琵琶湖南岸地方を経て鈴鹿山脈に達す	二二・四〇	鈴鹿山脈附近 滋賀縣蒲生郡日野東方	強	進			e, d, f の諸雷は合して一團となり琵琶湖を中心として若狭、丹波、山城、近江、美濃、伊勢地方一帯に激烈なる雷鳴を聞く
	一九・二〇	京都府相樂郡大河原村 〔北方〕	不明	一九・五九	三重縣阿山郡西方地方 三重山脈附近	強	進	1		岐阜縣不破郡合原村にては落雷の爲稻田に打火
	一九・二五	琵琶湖北郡縣境附近 福井縣敦賀町	南々東	二二・一〇	鈴鹿山脈附近 滋賀縣大上郡佐日	強	進			岐阜縣羽島郡八幡村にては一名感電即死、焼失家屋一棟、武儀郡下有知村にては一棟焼失、可兒郡池田村にては二棟焼失、惠那郡中津町にては一棟焼失す
	一九・〇〇	掛斐川中流美濃郡地方 岐阜縣津市郡高須町	東南東、最初は南進して伊勢國に入り三河國に上陸して尙東南東に進み濱名湖附近に至る	二四・〇〇 一〇(二日)	愛知縣豊橋市 伊吹山附近	強	進	19+N		岐阜縣山縣村にては一名感電し人事不省となる
	一三・四五	美濃國中部地方	西美濃の國北部地方一帯に擴大す	二三・三〇	琵琶湖北東沿岸	強	擴	1		岐阜縣丹羽郡大山町神社境内に落雷したるとき豪石割る、他に電球の破損及電線の切斷等あれども人畜には被害なし
	一六・三〇	〔美濃國武儀、山縣兩郡境附近〕 岐阜縣本巣郡北方町	範圍は美濃、尾張、近江の北部地方に及ぶ	二二・五二 〇(二日)	名古屋市南方 滋賀縣坂田郡地方	強	擴	8+N		愛知縣丹羽郡六山町神社境内に落雷したるとき豪石割る、他に電球の破損及電線の切斷等あれども人畜には被害なし
	一六・〇〇	〔岐阜縣加茂、儀兩郡境附近〕 岐阜縣可兒郡御嵩町	初め南西後西、木曾川流域地方を南西に進みたるも岐阜市附近にて西方に道路を轉す	二二・二七	掛斐川上流大瀧山附近 關ヶ原南部	強	進	7+N		
	一四・五〇	〔岐阜縣益田郡益田川流域地方〕 長野縣西筑摩郡中部地方	〔北〕	一八・二五 一八・三五	岐阜縣惠那郡北部地方 長野縣南安曇郡南部地方	強	停	1		八時頃富士川町に落雷、八棟焼失、一棟半焼となりたるも人畜には被害なし、この雷は翌二日に渡り、富士山にては二日七時頃雷鳴全く止みたるも寒氣加はり三十四度に降下し七時頃より八時頃まで約一時間に亘り八合目以下は降雹あり
	一七・一〇	長野縣下伊那郡清内路村	〔西〕	一八・四二	松本市	強	局			
	一三・三二	長野縣西筑摩郡北部	不明	一七・二五 一七(二日) 二三・四五	沼津市北西方 〔静岡縣富士郡北部縣境附近〕 同上志田郡地方	強	擴	11+N		
	一三・〇〇	駿河國中部地方 静岡縣富士郡吉原町	範圍は駿河國一帯			強	擴			

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	降雷	落雷	記
八月	一九・二〇	〔京都府相樂郡大河原村〕 〔北方〕	不明	一九・五九	三重縣阿山郡西方地方 三重山脈附近	強	進	1		岐阜縣不破郡合原村にては落雷の爲稻田に打火
	一九・二五	琵琶湖北郡縣境附近 福井縣敦賀町	南々東	二二・一〇	鈴鹿山脈附近 滋賀縣大上郡佐日	強	進			岐阜縣羽島郡八幡村にては一名感電即死、焼失家屋一棟、武儀郡下有知村にては一棟焼失、可兒郡池田村にては二棟焼失、惠那郡中津町にては一棟焼失す
	一九・〇〇	掛斐川中流美濃郡地方 岐阜縣津市郡高須町	東南東、最初は南進して伊勢國に入り三河國に上陸して尙東南東に進み濱名湖附近に至る	二四・〇〇 一〇(二日)	愛知縣豊橋市 伊吹山附近	強	進	19+N		岐阜縣山縣村にては一名感電し人事不省となる
	一三・四五	美濃國中部地方	西美濃の國北部地方一帯に擴大す	二三・三〇	琵琶湖北東沿岸	強	擴	1		岐阜縣丹羽郡大山町神社境内に落雷したるとき豪石割る、他に電球の破損及電線の切斷等あれども人畜には被害なし
	一六・三〇	〔美濃國武儀、山縣兩郡境附近〕 岐阜縣本巣郡北方町	範圍は美濃、尾張、近江の北部地方に及ぶ	二二・五二 〇(二日)	名古屋市南方 滋賀縣坂田郡地方	強	擴	8+N		愛知縣丹羽郡六山町神社境内に落雷したるとき豪石割る、他に電球の破損及電線の切斷等あれども人畜には被害なし
	一六・〇〇	〔岐阜縣加茂、儀兩郡境附近〕 岐阜縣可兒郡御嵩町	初め南西後西、木曾川流域地方を南西に進みたるも岐阜市附近にて西方に道路を轉す	二二・二七	掛斐川上流大瀧山附近 關ヶ原南部	強	進	7+N		
	一四・五〇	〔岐阜縣益田郡益田川流域地方〕 長野縣西筑摩郡中部地方	〔北〕	一八・二五 一八・三五	岐阜縣惠那郡北部地方 長野縣南安曇郡南部地方	強	停	1		八時頃富士川町に落雷、八棟焼失、一棟半焼となりたるも人畜には被害なし、この雷は翌二日に渡り、富士山にては二日七時頃雷鳴全く止みたるも寒氣加はり三十四度に降下し七時頃より八時頃まで約一時間に亘り八合目以下は降雹あり
	一七・一〇	長野縣下伊那郡清内路村	〔西〕	一八・四二	松本市	強	局			
	一三・三二	長野縣西筑摩郡北部	不明	一七・二五 一七(二日) 二三・四五	沼津市北西方 〔静岡縣富士郡北部縣境附近〕 同上志田郡地方	強	擴	11+N		
	一三・〇〇	駿河國中部地方 静岡縣富士郡吉原町	範圍は駿河國一帯			強	擴			

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	箇所	箇所	記
二日	一七・三〇	石狩國空知郡地方 石狩國空知郡別地方	南東及北東、空知郡に起りたる後一は南東、一は北東に進む (北東) (南東)	二一・四〇 一九・五〇	天鹽川上流域地方 十勝川中流域帯廣地方	強	進	3	5	雨量 50.0 (愛別) 高知縣長岡郡西豐永村にては重量十一匁、周圍五寸の降雷ありたり
	一一・二五	A、吉野川中流域 徳島縣三好郡芝生 B、石植山附近	南東、南西に擴りつゝ南東に進む 南東、東南東に擴りつゝ、土佐灣に入る	一七・三五 一七・一〇	紀伊水道 徳島縣海部郡吹東地方 土佐灣 高知縣高岡郡標原	強	進	1+N	3	香川縣仲多度郡善通寺町に降雷、震死者一名、綾歌郡飯野村家屋に降雷、一名震死他に綾歌郡内降雷箇所四箇所以上、九龜市内四箇所以上、陶器に損害三百圓、仲多度津郡、香川郡にも降雷ありたり、この雷雨中九龜及宇多津に雷雨あり、宇多津にては雨量七十一粒に及べり
	一七・二二	愛媛縣周桑郡壬生川 播磨附近	北東、備後洋を越えて香川縣北部地方を鳴動して播磨灘に至る	二〇・五五	播磨灘 岡山市北東方	強	進	1+N	12+N	岡山縣阿曾郡地方に降雷あり、葉烟草その他の農作物に被害ある模様なり
	一〇・四〇	鳥取縣日野郡根雨西方	東南東	一八・一三	岡山縣勝田郡地方	強	進	1	1	岡山縣英田郡林野地方に掛指大の降雷あり、桑園その他の農作物に被害あるものゝ如し、又上川郡内にては碁石大の降雷ありて、一部の地方には被害甚しく、葉烟草、稲作皆無に歸したるものありといふ
	一四・四七	備中國中部地方 岡山縣北西方	東北東	一八・三五	岡山縣東北部 岡山縣勝田郡地方	強	進	2+N	3	岡山縣阿曾郡地方に降雷あり、葉烟草その他の農作物に被害ある模様なり
	一五・一〇	但馬國 但馬國豐岡町	(南南東) (東北東) (北西)	一七・〇〇 一七・五〇 一六・五〇	兵庫縣加古川上流域 丹後國 鳥取縣岩美郡地方	強	進	1	3	岡山縣阿曾郡地方に降雷あり、葉烟草その他の農作物に被害あるものゝ如し、又上川郡内にては碁石大の降雷ありて、一部の地方には被害甚しく、葉烟草、稲作皆無に歸したるものありといふ
	一二・〇五	(但馬、因幡、播磨三國境附近) 但馬國發父郡地方	東北東、兵庫縣北部地方及丹波、丹後一帯	二〇・〇〇	京都府下綾部町北方	強	進	1	41+N	落雷多かりし人畜に被害なし、三重縣多賀郡比奈知村にては降雷の爲農作物に被害ある見込なり
	一六・一四	近江國阿蘇山附近 彦根町	南西、近畿地方中部一帯及若狭、丹波地方 (北西)	二一・三〇	淡路島附近	強	進	1	41+N	落雷多かりし人畜に被害なし、三重縣多賀郡比奈知村にては降雷の爲農作物に被害ある見込なり

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	箇所	箇所	記
	一〇・四〇	山梨縣中部地方	範圍は甲斐國一帯に及ぶ (東) (北西)	一五・五〇 二三・〇〇	山梨縣上都留郡東部 山梨縣北巨摩郡北西部	強	擴			り、八合目以上は吹雪となり土用に於いて山頂細ヶ峰附近は大雪景を呈し、頂上登山者は寒氣に襲はれしも別に被害なかりき、斯く土用に大雪となりたるは近年稀なる現象なりといふ
	一九・三八	相模灣上 安房國館山町	西、範圍は伊豆、相模、安房に及ぶ (西) (南) (北東)	一六・二〇 二三・〇五 二二・二〇	沼津市附近 伊豆大島南方 長野縣北安曇郡北部	強	擴			
	一〇・〇五	〔雲取山北西及南東縣境附近〕 武藏國武甲山附近	東南東、多摩川流域に出で所澤附近を経て東京に入る	一六・〇五	東京灣上 東京市	強	進	48+N		熊ヶ谷地方に降雷六箇所あり、又秩父地方に四箇所其他三十六箇所以上も降雷あり、人畜に被害ある模様なり
	一三・三〇	〔東京府西多摩郡西方縣境附近〕 東京府西多摩郡青栴町	東	一五・三〇	東京灣上 千葉市附近	強	進	N		埼玉縣北足立郡與野町附近に降雷七箇所男一、名女二名、感電即死、其他重傷者一名、全焼家屋二棟、破壊されし家屋二棟を出したり
	一四・二〇	埼玉縣北足立郡地方 埼玉縣南埼玉郡菫浦町	範圍は武藏國中部一帯 (東) (南西) (北西)	一七・三〇 一五・四〇 二〇・二二	千葉縣一帯 埼玉縣所澤町附近 埼玉縣秩父郡地方	強	擴	7+N		栃木縣芳賀郡今市町にて婦人一名感電即死、茨城縣新治郡懸瀨村にて馬一頭震死す
	一一・三〇	〔茨城、栃木兩縣境難足山附近〕 宇都宮市	範圍は栃木縣南部地方及茨城縣中部地方一帯 (東南東) (南西) (北西)	一七・〇〇 一八・〇〇 一七・五〇	水戸市 茨城縣結城郡地方 宇都宮市東方	強	擴	13+N		
	一一・二〇	下野國鹽谷郡中部 日光町	南々東	一六・三〇	茨城縣結城郡地方 栃木縣下都賀郡武井南方	強	進	1		

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	箇降雷	箇落雷	記
一〇・一五	長野縣南安曇、西筑摩郡境附近	不明	(東北東)	一四・四八	松本市	強	擴	2	2	
一三・〇〇	茨城縣猿島、埼玉縣足立郡中野を連ねる線上	不明	西、範圍は武蔵國一帶にして、常陸の國西部にも及ぶ	一六・二〇	茨城縣館野附近	強	擴			
一四・〇〇	樺名山南東方	不明	北東、下總國を横斷して磐城國南部地方に至る	一九・二〇	阿武隈川上流域地方	強	進			
一四・〇〇	群馬縣碓氷郡	不明	北東、下總國を横斷して磐城國南部地方に至る	一九・二〇	福島縣西白川郡須賀山	強	進			
一六・〇〇	長野縣上、下水内郡境附近	不明	(北東)	一六・三五	新潟縣十日町北西	強	擴			
一六・〇〇	上水内郡内部地方	不明	(北)	二〇・〇五	高田市東北	強	擴			
七・一五	長野縣上、下水内郡境附近	不明	(北東)	一〇・四五	新潟縣直江津市附近	強	擴			
七・一五	長野縣上、下水内郡境附近	不明	(北東)	一一・三〇	新潟縣刈羽郡柏崎南東方	強	擴			
七・一五	長野縣上、下水内郡境附近	不明	(北東)	一二・二八	同縣南魚沼郡湯津北東方	強	擴			
一〇・〇五	岩代國白河郡白河町	不明	北東	一三・三〇	福島縣伊達郡地方	強	進			
一〇・〇五	福島縣西白河郡白河町	不明	北東	一三・三〇	同縣桑折町北方	強	進			
三・二〇	陸前國北部	不明	南西	六・三〇	羽前國中部	強	進			
三・二〇	宮城縣栗原郡松倉	不明	南西	六・三〇	山形縣東置賜郡宮内	強	進			
一四・五三	秋田縣仙北郡縣境附近	不明	不明	一八・五〇	秋田市北方	強	局			
一三・〇五	長崎縣北高來郡地方	不明	北東		福岡縣北部地方	強	進			
一三・〇五	長崎縣温泉郡附近	不明	北東		福岡縣北部地方	強	進			
一七・一〇	石鎚山南西	不明	北東、北西及南東に擴大しつゝ、北東に進み、水島洋を越えて備前國に上陸せり	〇・五〇(日)	備前國	強	進			
一七・一〇	愛媛縣越智郡櫻井	不明	北東、北西及南東に擴大しつゝ、北東に進み、水島洋を越えて備前國に上陸せり	〇・五〇(日)	同山市北東方	強	進			
一三・四〇	伯耆、因幡兩國境附近	不明	南西、東西に擴大しつゝ、南西に進む	二二・〇〇	岡山縣西大川上流域地方	強	進			
一三・四〇	鳥取縣氣高郡加露南西方	不明	南西、東西に擴大しつゝ、南西に進む	二二・〇〇	岡山縣真庭郡久世北西方	強	進			

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	箇降雷	箇落雷	記
一五・〇二	京都府南桑田郡地方	不明	不明	二〇・〇〇	京都府下船井郡地方	強	局	1+N	2	篠山町附近、城南村に豆大の降雷ありて、農作物に被害ありし由
一三・三五	愛宕山附近	不明	不明	一五・〇〇	滋賀縣滋賀郡北部	強	停	1	13+N	
一六・〇〇	琵琶湖南方	不明	南西	一八・四〇	京都府綾賀郡地方	強	進	1	3	
一二・五〇	三重縣宮川下流域	不明	範圍は伊勢國南部	一九・四五	三重縣多氣郡地方	強	停		38+N	三重縣飯南郡内に降雷多かりしも被害はなかりし様子なるも豪雨の爲出水し電信、電話不通となれり
八・四九	遠江灘	不明	範圍は三重縣の海岸地方一帯	一八・三〇	三河國南部	強	擴		6+N	度會郡御園村にては降雷の爲二千圓の損害を被りし由
九・三〇	愛知縣北西方縣境附近	不明	この雷は、一は北西方越前地方に擴大し、二は南方伊勢灣方面に擴大せり	一四・二三	越前國北部地方	強	擴	2	3+N	岐阜縣にては數十年來なき強雷にして所々に降雷あり、御嵩町にては震死者一名を出したり、
一一・〇四	掛妻川上流山地	不明	發現地より北西、南東に分岐して擴大せり、北西方に至りたるものは福井縣南部地方に入り南北に稍擴大しつゝ、若狭灣に入る	一四・二三	伊勢灣	強	進	1	22+N	雨量計(滋賀縣谷口C(春照)雨量計)は震害下で降雷多し震死者一名、重傷者一名、焼失家屋一棟を出したり、名古屋市及郡部に電柱、電線桿等に落雷の被害ありたり
一四・二五	岐阜縣惠那郡上村	不明	北東	一四・四五	松本市附近	強	進			
一三・〇〇	乘鞍岳附近	不明	(西)	一四・四五	松本市附近	強	進			

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	電鳴	性質	降雷	落雷	記
四日	一四・〇二	〔和歌山、奈良兩縣境高野山附近〕	西、範圍は大阪府下一帯及紀伊、淡路に及ぶ (北々東) (北西) (西) (南)	二一・五〇 一八・五五 一六・三一 一六・二〇	奈良縣八木町北西方 神戸市東方 淡路國洲本町北方 〔和歌山縣西平妻郡橋川附近〕	強	擴	3	3	
	一七・〇〇	丹波國中部地方 京都府船井郡檜山村	北々西	二・三〇(四日)	日本海 京都府與野郡野間村地方	強	進	5	5	
	一五・四四	大阪灣上 淡路國洲本町	北東、大阪灣に發雷し、和泉國北部に上陸し、三河、山城の國を経て琵琶湖沿岸まで北進す	二一・四〇	越前國南部地方 福井縣敦賀町	強	進	1	1	
	一三・〇〇	琵琶湖南端 滋賀縣蒲生郡八幡	北東	一六・四四	岐阜縣本巣郡地方 同郡揖斐川上流域	強	進	1	1	
	一四・三〇	〔加賀國白山と大日山とを結ぶ線上〕 加賀國手取川上流域女原	北々東	一九・四〇	富山縣 能登國鹿島郡地方	強	進	1	1	
	一六・〇〇	〔木曾川上流飛騨、美濃兩國境附近〕	東北東、範圍は飛騨川流域一帯 (北西) (北)	二〇・〇〇 二二・一〇 二四・〇〇	長野縣西筑摩郡木祖村 岐阜縣郡上郡地方 岐阜縣益田郡地方	強	進	6+N	6+N	
	一三・〇〇	乘鞍鞍岳 岐阜縣吉城郡平湯	北々東、東西に擴大しつゝ北々東に進み、信濃川流域及越中國下、中兩新川郡地方に雷鳴ありて日本海に入る	一七・一〇	日本海 富山縣下新井郡入膳	強	擴	1	1	

長野縣下の降雷被害面積は若槻村字去王桑園三十町歩、果樹園及蔬菜十五町歩、田三十一町歩、中郷村字平川にて桑園八町歩、田五町歩、果樹園十五町歩なり、若槻村のみにては、山仙等、藤澤、宇洲美澤の被害總計二百町歩に及び、その被害高五、六萬圓、中郷村の被害反別は五十二町歩にして、損害高二萬圓、鳥居村にては

岐阜縣武儀郡にては五名感電、中一名死亡す

石川縣石川郡郷村及飯田村に落雷多く、小兒二名負傷す、富山縣東礪波郡下にては二棟全焼、石川縣小杉町變電所に落雷、配電盤二枚を焼く

日次	發現時刻	發現場所	進行方向・經過道筋・範圍	消失時刻	消失場所	電鳴	性質	降雷	落雷	記
五日	一七・〇〇	〔越中、越後兩國境片刈山附近〕 新潟縣西頸城郡青海町	北東、越後國一帯に鳴動して加治川上流域に至る	二二・三四	〔越後國胎内川上流飯豊山附近〕 新潟縣胎内川上流飯豊山附近	強	進	1	1	
	一四・二五	高田 〔新潟縣西、中兩頸城郡〕 〔磐前山附近〕	北東、越後國一帯に雷鳴ありて、雷と十九時頃信濃川流域にて合して加治川流域に至る	一六・〇四 一六・〇〇 一六・〇〇	甲府市盆地方 甲府市南東方 立科山附近 松本市北西方 飯田町北西方	強	擴	6	6	
	一四・四五	長野縣西筑摩郡木曾谷 同郡木祖村	(北々東) (南東) (東)	七・二〇(六日)	山梨縣北巨摩郡地方	強	進	12+N	12+N	
	〇・〇〇	房總半島南端沖合 千葉縣夷隅郡勝浦町	北、太平洋上に始發して零時頃北々西に通過をとり、房總半島に上陸し東西に擴大しつゝ、東京灣に入り、東京灣北岸地方より上陸したる頃は進路を北方に向け武蔵、下總、常陸の諸國に雷鳴あつて阿架川上流に去る	一〇・〇〇	下總國鹽谷郡地方 同郡大原北方	強	進	2	2	
九日	一五・一〇	佐賀縣三養基郡縣境附近	不明	一六・〇〇	福岡縣筑紫郡地方	中	局	2	2	
	一六・一〇	越後國中、南、西蒲原郡 新潟縣中蒲原郡五泉町	北東、越後國西部に雷鳴ありて北上し十九時頃最上川流域に至りたる頃より奥羽全土に強雷をもちし翌十日に至りて終雷せり	二三・五〇	能代川上流域 秋田縣鹿角郡毛馬内町東方	強	進	4+N	4+N	
十日	一四・〇三	宮城縣黒川郡 石巻町西方	南		福島縣石城郡地方	弱	進			
	〇・三〇	宮城縣玉造郡鬼頭北西方	南東	九・〇〇	佐渡國澁木崎附近	強	進			

此の雷に際して、東京府各河川汎濫し爲に各所に浸水家屋多數を出したり、府下にて床上浸水四三六戸、床下五〇〇八戸あり、芝浦入口は路上二尺浸水せり、又東京市内に三箇所落雷ありたるも被害なかりき、電車の運轉の止りたる所もありたり、横濱市にても數百戸の浸水ありたり

雨量 103.0 (勝浦) 72.2 (横濱) 61.4 (東京) 91.0 (東京)

佐賀縣三養基郡基山村にて住家一〇棟落雷の爲焼失せり

翌十日に亘りたる雷雨にして盛岡市にては翌日七時三十分頃消滅す雨量 65.0 (毛馬内) 82.2 (盛岡)

終雷近く他雷と合したる爲、終雷時刻不明なり

この雷は佐渡島西部相川町にては五時過終雷せり

雨量 114.0 (佐渡島船崎)

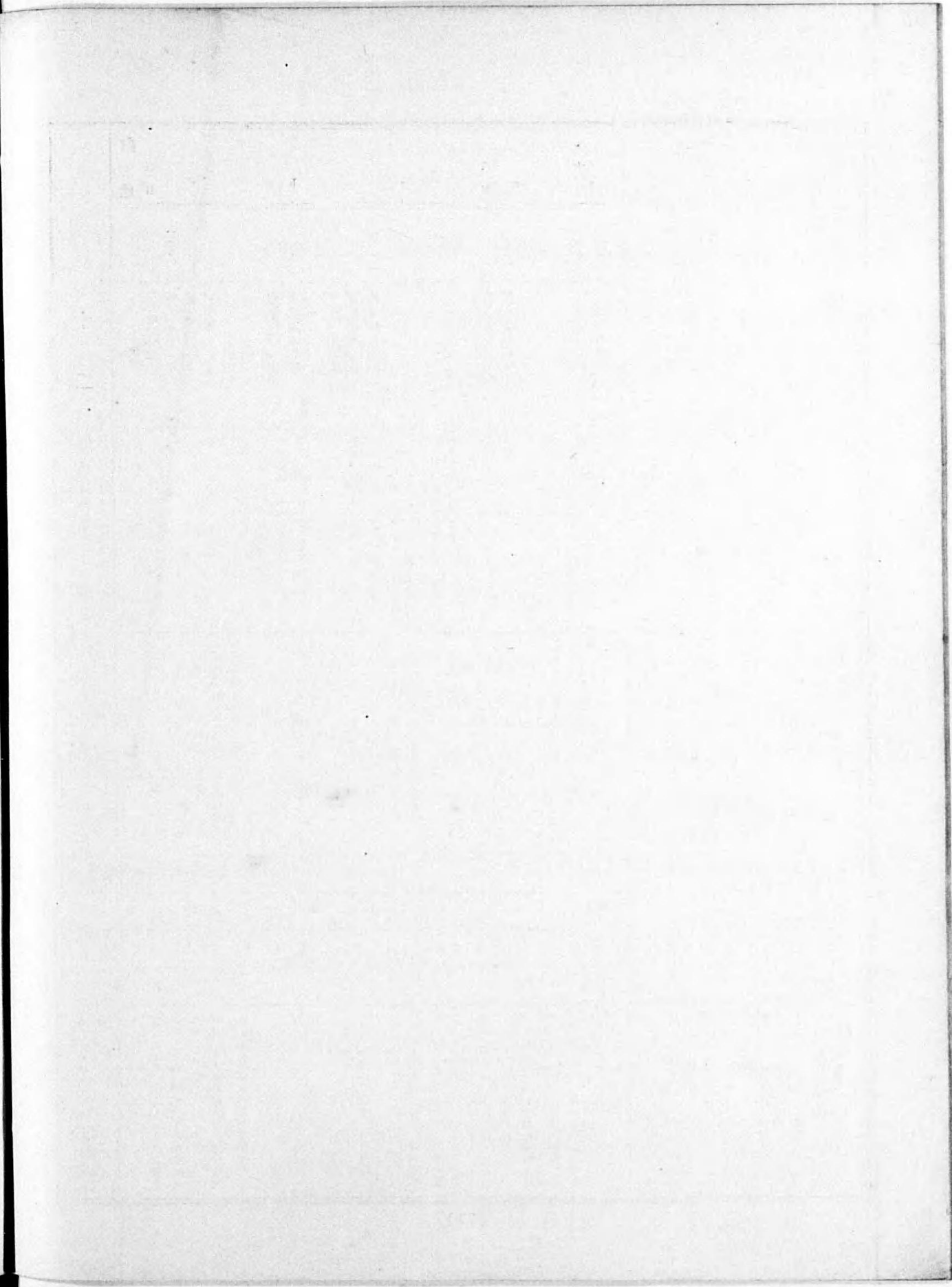
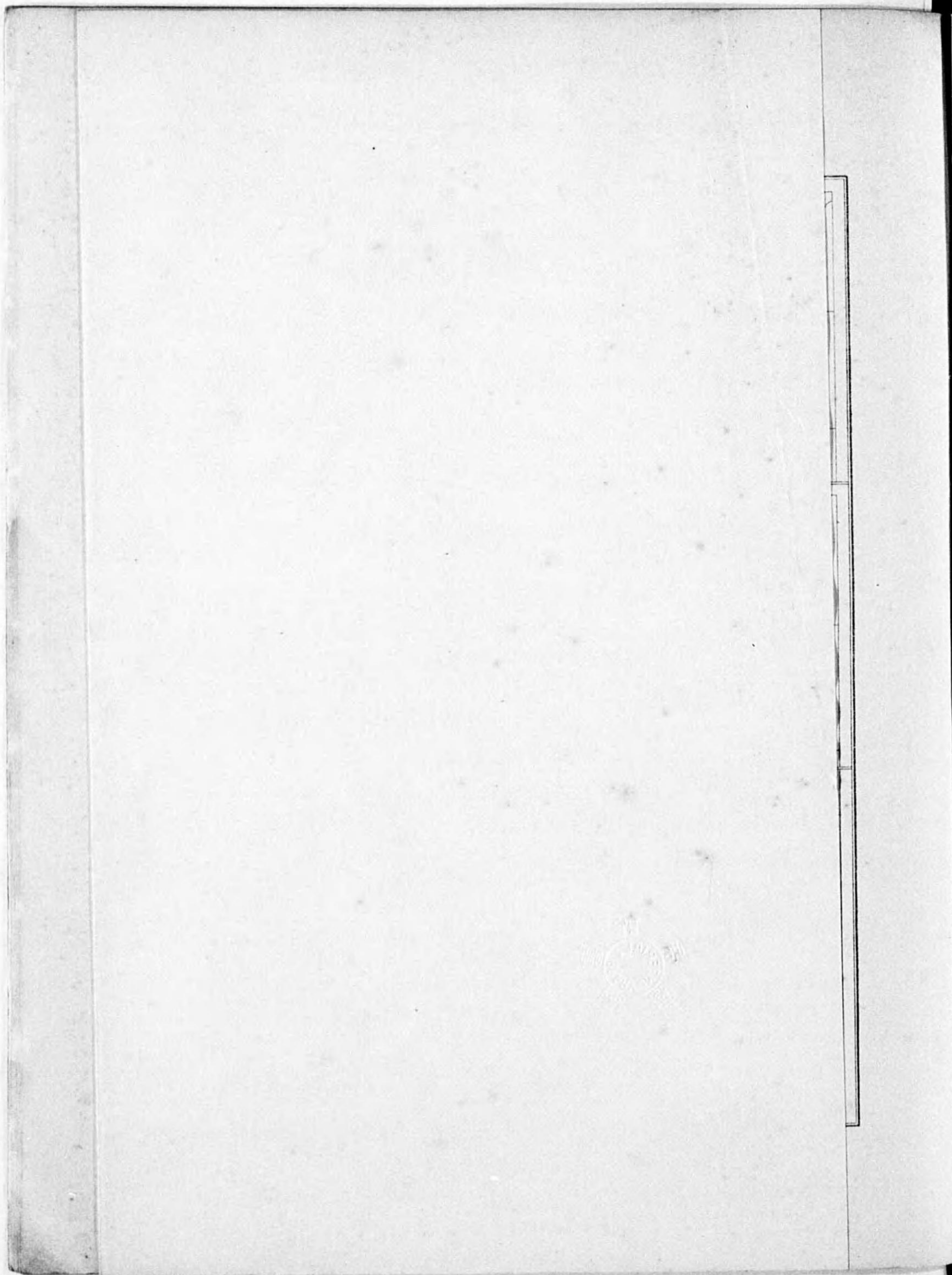
日次	發現時刻	發現場所	進行方向、經過道筋、範圍	消失時刻	消失時刻	雷鳴	性質	降雹	落雷	記事
十四日	二二・〇〇	志摩半島東方海上 愛知縣瀧美郡老津村	東、北方尾張、三河地方まで擴大し、遠江沿海に雷鳴ありて、主なる部分は遠江洋を東進して伊豆半島に至りたり	二三・四八	伊豆半島東方海上 静岡縣田方郡伊東町	強	進			雨量 100.5 (名古屋市) 5.7 (愛知縣瀧美郡老津村)
十四日	一四・二〇	大阪 澁口 和歌山縣友ヶ島	北、大阪灣に始發して淡路國より播磨、攝津に入り、北上して丹波、丹後、但馬を経て日本海に入る	一九・〇四	日本海 兵庫縣美作郡濱阪町	強	進			雨量 4.30 (京都府下愛宕郡雲ヶ畑村) 22.0 (滋賀縣高島郡市場村) 2.25 (岐阜縣高島郡市場村)
十七日	一五・五四	山城國綴喜郡地方 京都府宇治郡宇治村	北、琵琶湖附近の各地方に雷鳴ありて、琵琶湖北部を経て福井縣に入る	二二・五五	福井縣丹生郡地方 福井市	中	進			玄界津島帽子燈臺にては十八時二十分頃まで観測せり
十八日	一四・二三	大村 澁 長崎縣東彼杵郡波佐見村	北、九州西北部一帯に雷鳴ありて、對馬海峽に入る	一七・五四	對馬國東方沖合 對馬國嚴原町	中	進			
二日	一三・三九	阿蘇山附近 熊本 市	北西、九州北部一帯	一六・五三 一八・一三	福岡市 佐賀市西方	中	進	3		大平田市及銀水村に落雷、銀水村にては婦人一名震死せり
二日	一二・三二	鈴鹿山脈 津 市	北東、美濃平野に雷鳴ありて、木曾川上流域地方に出で、信濃川上流域地方より關東及北陸東部地方に入る	二〇・二〇	福島縣南會津郡地方 栃木縣鹽谷郡北部	弱	進	3		新潟縣十日町附近にては二十時二十分頃まで雷鳴残り
十二日	一八・一六	廣島縣太田川上流 島根縣濱田町	北東	二三・二〇	美保 澁 鳥取縣境町	弱	進	6		廣島市に落雷六箇所なりしも損害極めて少し、女子(〇歳)一人恐怖の爲亂心し、そのまゝ、投擲せし山
十四日	五三・五 七〇・九	北海道西方沖合 後志國横手郡神威岬 天鹽國苫前郡羽幌町	東南東、北海道全土に亘る雷にして北部地方にては斜見灣に入り、南西地方にては十勝川下流域に至りたり	二三・三二 二二・〇八	北見國網走町東方海上 十勝國十勝川流域帶廣町	強	進			高知縣安藝郡津呂村に三時半頃強風ありたるも被害はなかりき 雨量 26.4 (高知市) 20.4 (徳島市) 1.26 (高知市) 21.35 (徳島市)
十八日	一三・〇	高知縣物部川上流縣境 一附近 徳島縣那賀郡坂本村	初め東後北東、高知縣中部以東に雷鳴ありて、徳島縣を過ぎ紀伊水道を渡り、和歌山縣及大阪府に入る、熊野川上流地方より進行方向を北東に	一八・一五 一八・五〇	伊勢 澁 四日市市附近 利根川河口鏡子町	強 中	進 進			

日次	發現時刻	發現場所	進行方向、經過道筋、範圍	消失時刻	消失時刻	雷鳴	性質	降雹	落雷	記事
二十六日	一三・四〇	群馬縣勢多郡南部利根川流域 群馬縣勢多郡鼻毛石村	變へ鈴鹿山脈を越えて、三重縣に至る	一八・二三	東京灣 澁 横須賀 市	中	進			「b雷」二十四時頃より利根川流域地方にて合致す
二十六日	一一・二〇	那珂川上流那須郡地方 栃木縣上都賀郡板橋	南々東、上總、常陸に雷鳴ありて下總に入り九十九里濱に去る	一八・五〇	太 平 澁 利根川河口鏡子町	中	進			
二日	一三・〇七 一四・〇〇	日本海 佐渡國佐渡郡相川町 北海道渡島國積丹郡神威岬	南東、範圍は北陸東部、關東、奥羽、北海道、渡島國	二〇・〇七 二二・四三 二〇・一五 一七・二一 一七・一〇	太平洋 茨城縣筑波郡小野川村 福島縣石城郡鹽屋崎 北上川河口石巻町 盛岡 市 青森 市	中	進	1		
六日	一三・〇六	近江國雜賀郡水口町 滋賀縣甲賀郡水口町	北東、南方に擴大しつゝ、北西に進み、木曾川上流域地方に去る	一七・三五	長野縣西筑摩郡木祖村	中	進			雷の大きさは大豆大
二十日	一一・二〇	廣 島 澁 函 館 市	範圍は渡島半島、膽振國、後志國	七・四〇 六・〇〇	後志國岩内郡岩内村 渡島國松前郡白神村	中	進	1		
四日	一七・四九	能登半島北方沖合 能登半島七浦村皆月	南、範圍は北陸東部及西部、近畿の北部、山陰に及ぶ	二〇・四五 二一・〇〇 二〇・一〇 二二・二〇	滋賀縣高島郡北部 新潟縣中頸城郡南部 鳥取縣夜見濱附近 新潟縣荒川流域	中	進	3		雷の大きさは主として小豆大、富山縣下新川郡地方にては翌五日、六時三十分頃まで雷鳴ありたり 雷は小豆大
五日	一六・一五	石川縣西方沖合 福井 市	東	二二・〇〇	阿賀野川上流域	弱	進	1		富山縣射水郡田村に落雷し一名震死、一名氣絶、一名重傷、この雷は「a雷」と新潟縣西部で合し、
五日	一八・二四	福井 市	東、北陸及福島縣阿賀野川流域一帯	二三・〇〇	阿賀野川上流域	中	進	1		

日次	發現時刻	發現場所	進行方向經過筋範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	箇所電	箇所雷	記	事
十一日	七・三五 一四・三〇 一五・二〇	隱岐國北方海上 隱岐國八田村 福井市 能登半島七浦村皆月	東、但馬國より北陸西部地方に入り、紀ノ川上流と新潟縣中部とを結ぶ線上に出で、關西にては伊勢灣に入り、北陸東部にては阿賀野川中流域に至る	一八・五七 一九・一九 不明 二二・一五	津市 松本市 阿賀野川中流域 新潟市	中	進	1		又同縣中部にては十五時半前能登半島西方海上にて發現したる雷と合したる模様なり	
十三日	一〇・一八	石見國北西方沖合 島根縣濱田町	初め南東後東、石見國より廣島縣下に入り、同縣東部及岡山縣西部地方に雷鳴ありて、備後洋に出で、方向を東に轉じ、吉野川を下つて由良海峽に入る	一六・〇五 一五・三七	由良海峽 和歌山縣友ヶ島 因幡、但馬兩國境附近	中	進	4		雷は蠶豆大、大豆大、「ト」雷と吉野川下流域にて合したる模様なり、大阪府泉北郡大津町に旋風起り十數名の負傷者を出し、被害甚大なり	
十五日	七・〇〇	石川縣西方海上 能登國鹿島郡地方	東北東、九州を横斷して豊後海峽より四國に入り紀州沖に去る	一五・三〇	新潟縣信濃川上流域	弱	進	1		雷の大きさは小豆大	
十八日	一三・一三 一六・一〇	五島列島東方海上 佐世保市 志摩半島	初め東南東、後南、九頭龍川を上つて岐阜縣に入り、木曾谷を越えて甲府盆地に出で同盆地にて方向を南に轉じ、駿河灣に入る	二二・二四 二二・〇八 一九・四八	紀州沖 和歌山縣潮岬 沼津市 長野縣下伊那郡北部地方	中 強	進 進	1 1		雷は小豆大、 降は小豆大 雨量100(三重縣志摩郡鳥羽町)	
二十日	一四・〇五	大阪灣口 淡路國津名郡岩屋町	東北東、九州を横斷して豊後海峽より四國に入り紀州沖に去る	一五・三六	紀州沖 和歌山縣潮岬	強	進	5		雷は蠶豆大、小豆大	
二十五日	一三・三七	福井縣足羽、丹生兩郡境 福井市	初め東南東、後南、九頭龍川を上つて岐阜縣に入り、木曾谷を越えて甲府盆地に出で同盆地にて方向を南に轉じ、駿河灣に入る	一九・四四	駿河灣北部沿岸	強	進	1		雷は蠶豆大、小豆大	

日次	發現時刻	發現場所	進行方向經過筋範圍	消失時刻	消失場所	雷鳴	性質	箇所電	箇所雷	記	事
十一日	〇・二八	天鹽國苫前郡四方海上 苫前郡羽幌町	南東	一三・二〇	旭川市 天鹽國留萌郡沿岸	強	進	1			
八日	一四・二五	北海道釧路東部 釧路國勇拂郡苦小牧	北	一四・三八	札幌市	強	進	1		釧路國勇拂郡苦小牧に十三時半頃旋風起り、被害甚大の模様なり、千歲郡地方に於いては十五時四十分頃雷鳴ありたり	
五日	二〇・〇七	石川縣西方海上 福井市	東北東、九州を横斷して豊後海峽より四國に入り紀州沖に去る	二〇・三〇 不明 六・〇〇(六日) 八・三〇(六日) 二・四〇(六日)	富山縣伏木町 岐阜縣本巢郡地方 丹後國沿岸地方 石川縣手取川中流域 滋賀縣北部地方	中	擴	1		雷は小豆大、福井市附近に三箇所降雷し電柱及電燈器を破損せるも人畜に被害なし 雨量100(福井縣大野郡勝山町) 08.1(石川縣能美郡別宮町) 15.10	
五日	五・二四	佐渡國南方海上 佐渡國相川町	南東、佐渡島西部沿岸地方より上陸し、同島全土はこの雷の襲ふところとなり、尙南東に進み、新潟縣に入り同縣一帯に雷鳴ありて、利根川上流より、關東に至り上野、下野、武藏、常陸を過ぎて鹿島洋に入る	六・一二 不明 六・三〇	富山縣伏木町 能登半島七浦村 佐渡島西部沿岸	中	擴			雷は小豆大	
五日	一〇・五一	佐渡島西方海上 佐渡島相川町	南東、佐渡島西部沿岸地方より上陸し、同島全土はこの雷の襲ふところとなり、尙南東に進み、新潟縣に入り同縣一帯に雷鳴ありて、利根川上流より、關東に至り上野、下野、武藏、常陸を過ぎて鹿島洋に入る	二二・三〇 一九・五五 二〇・四〇	鹿島洋 久慈川下流域 埼玉縣入間郡地方 福島縣石城郡地方	強	進	8, N		雷は小豆大	

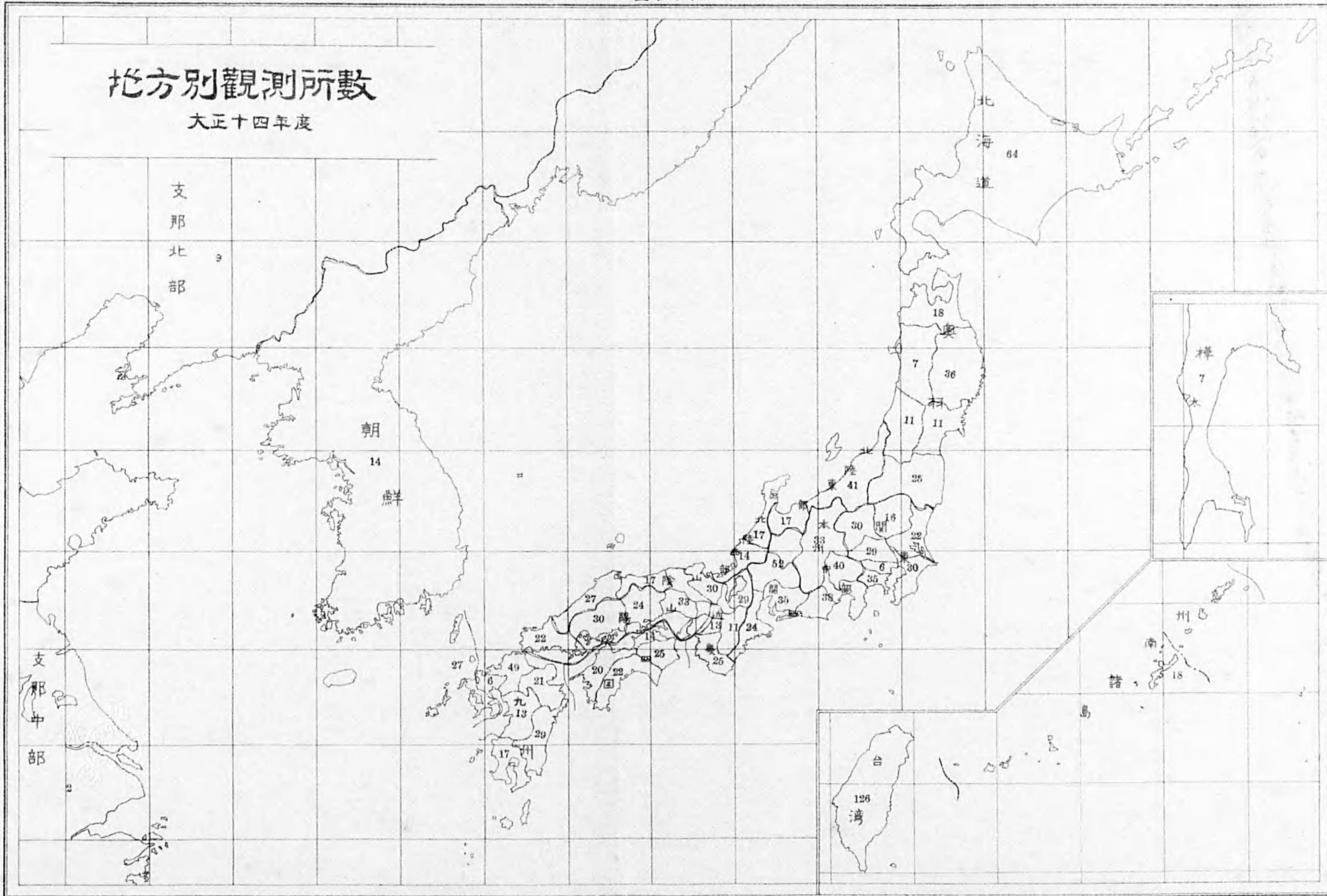
十二月



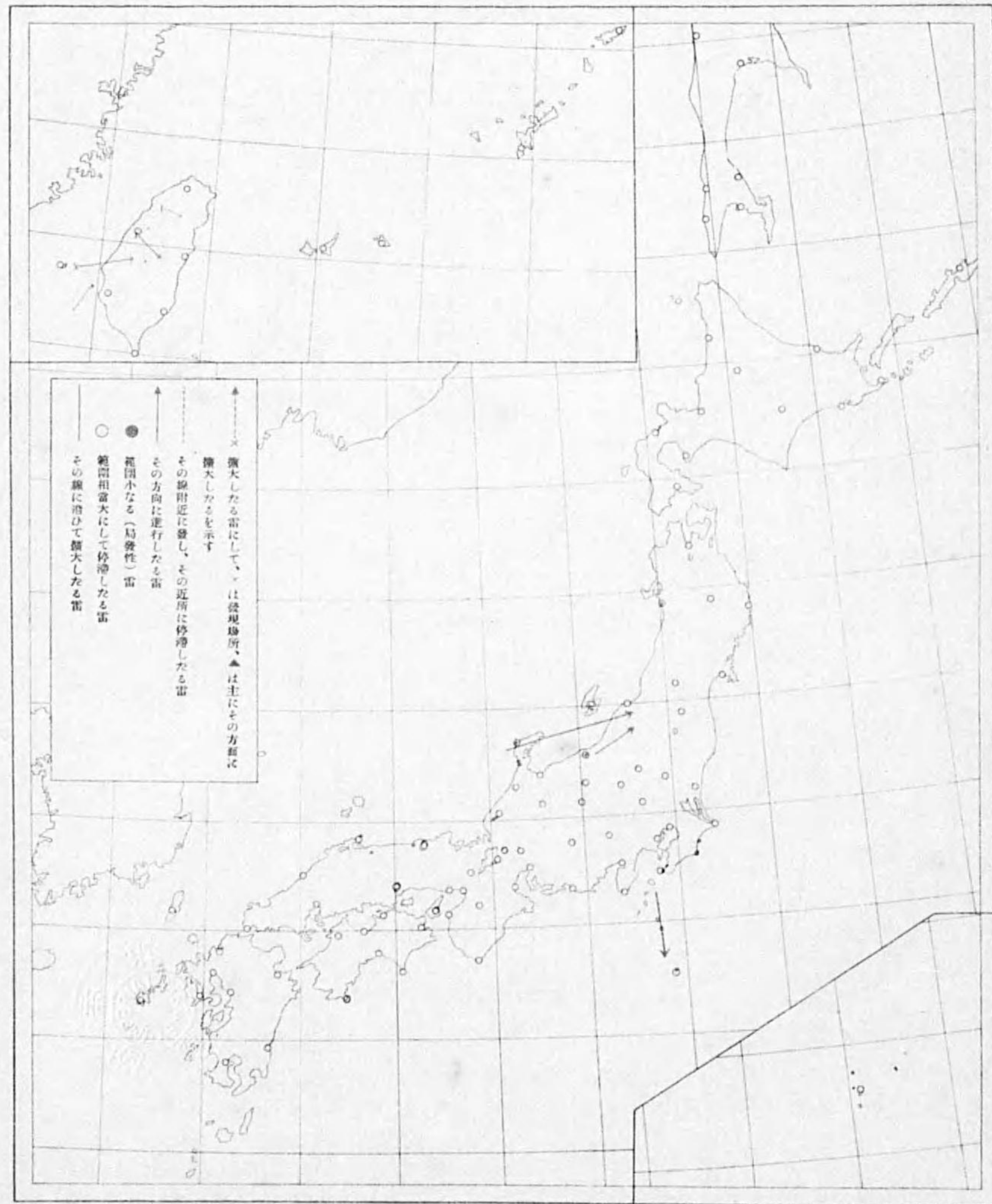
圖版第一

地方別觀測所數

大正十四年度

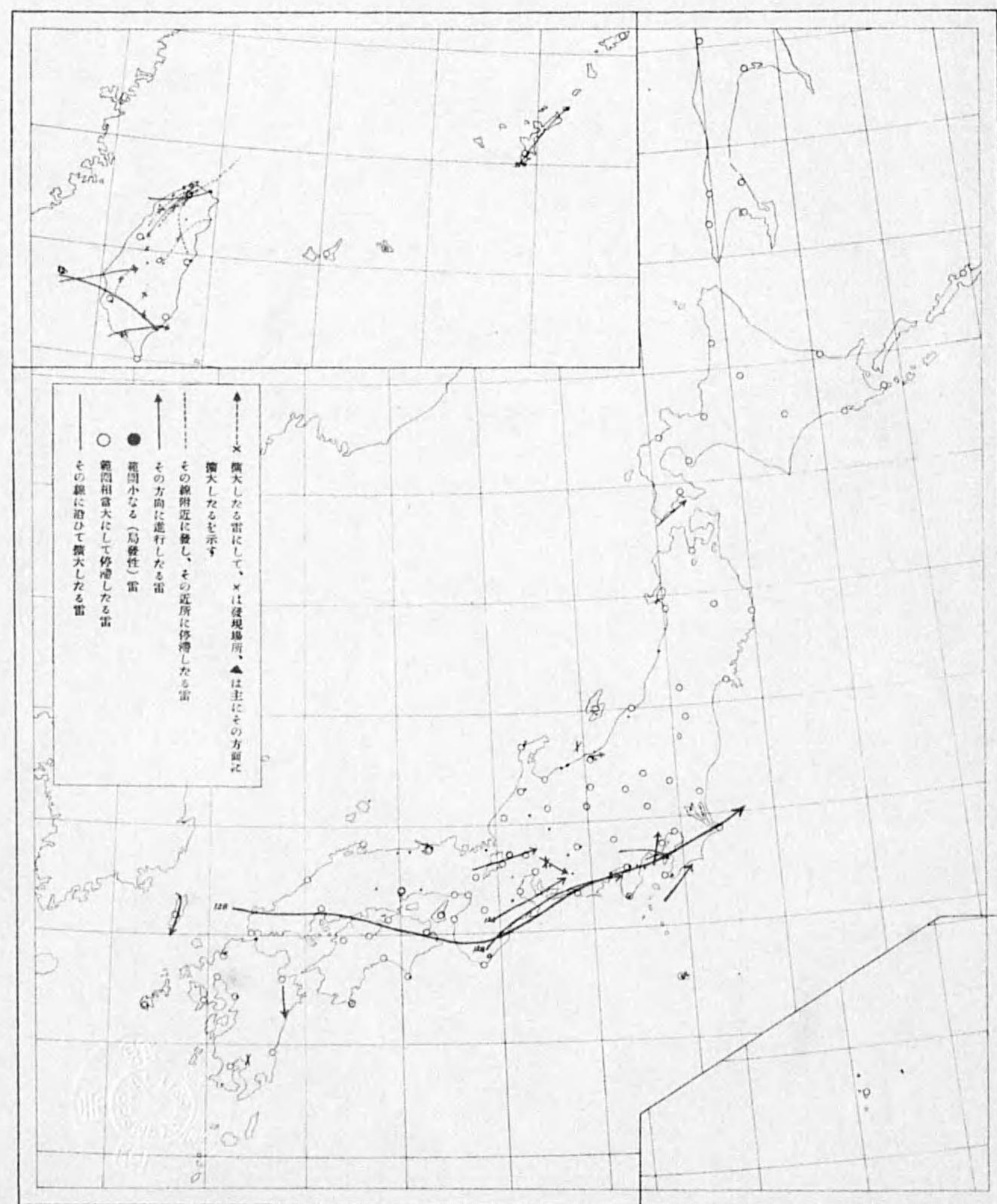


圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月一 二第版圖



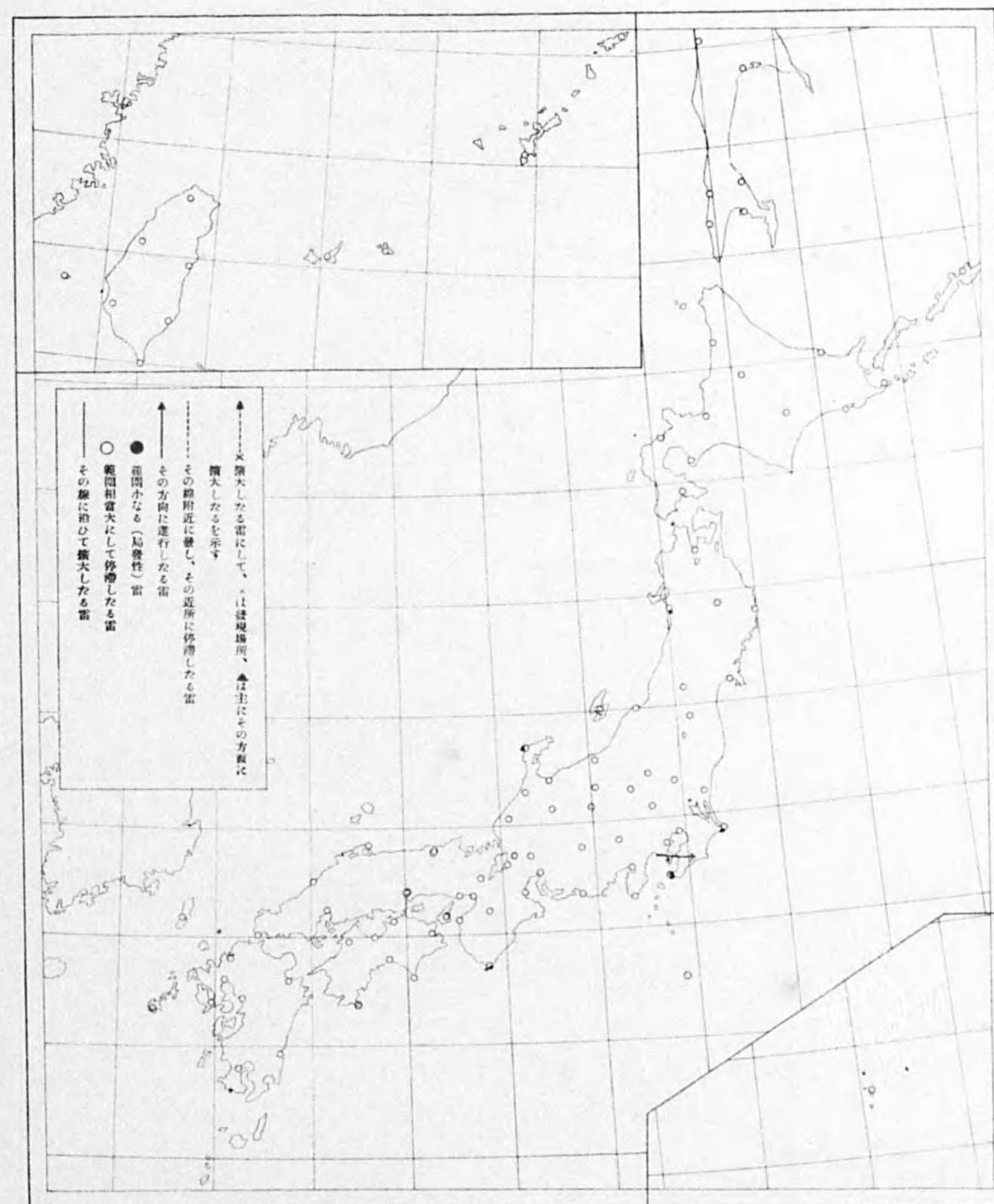
圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月三

四第版圖



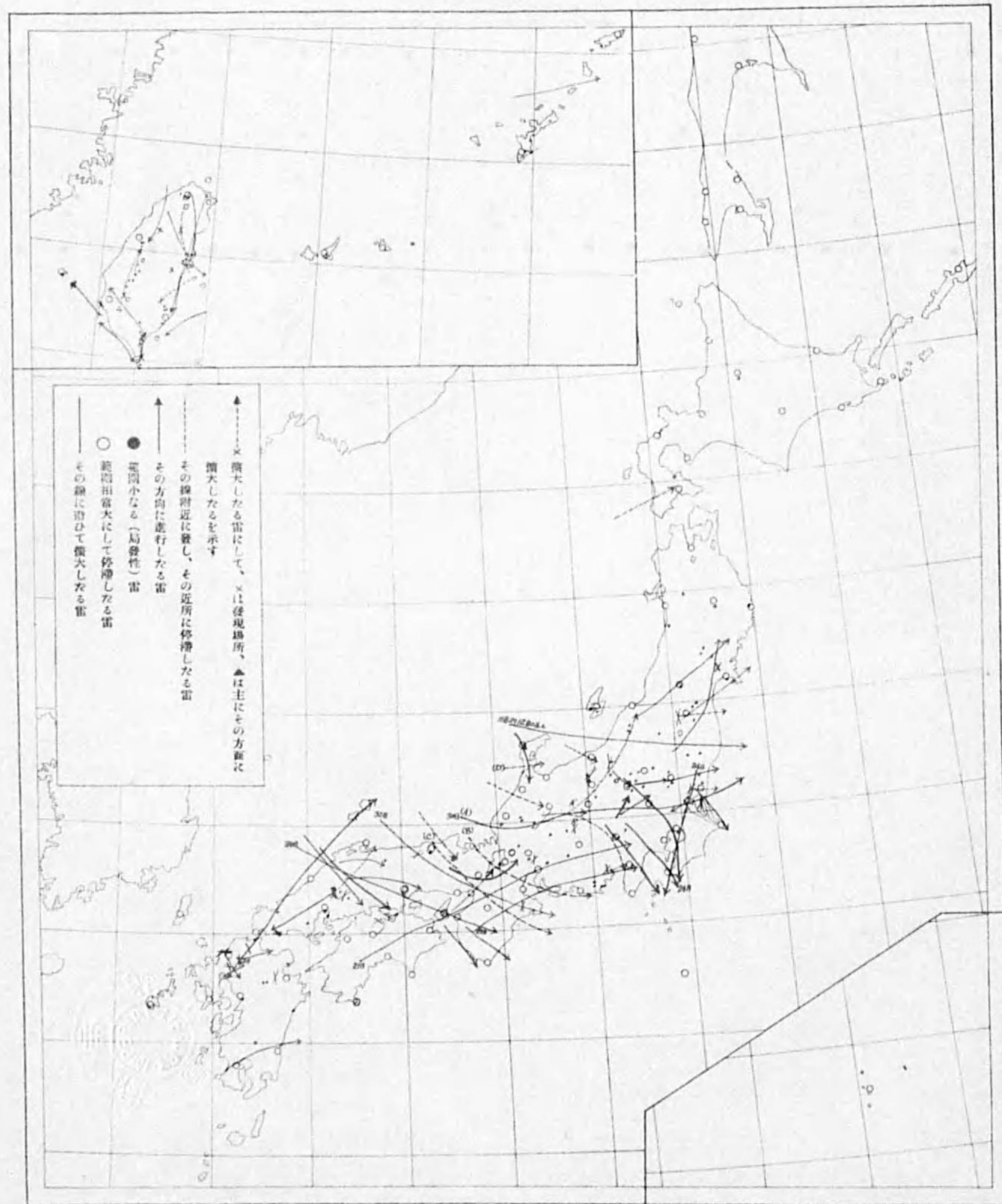
圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月二

三第版圖



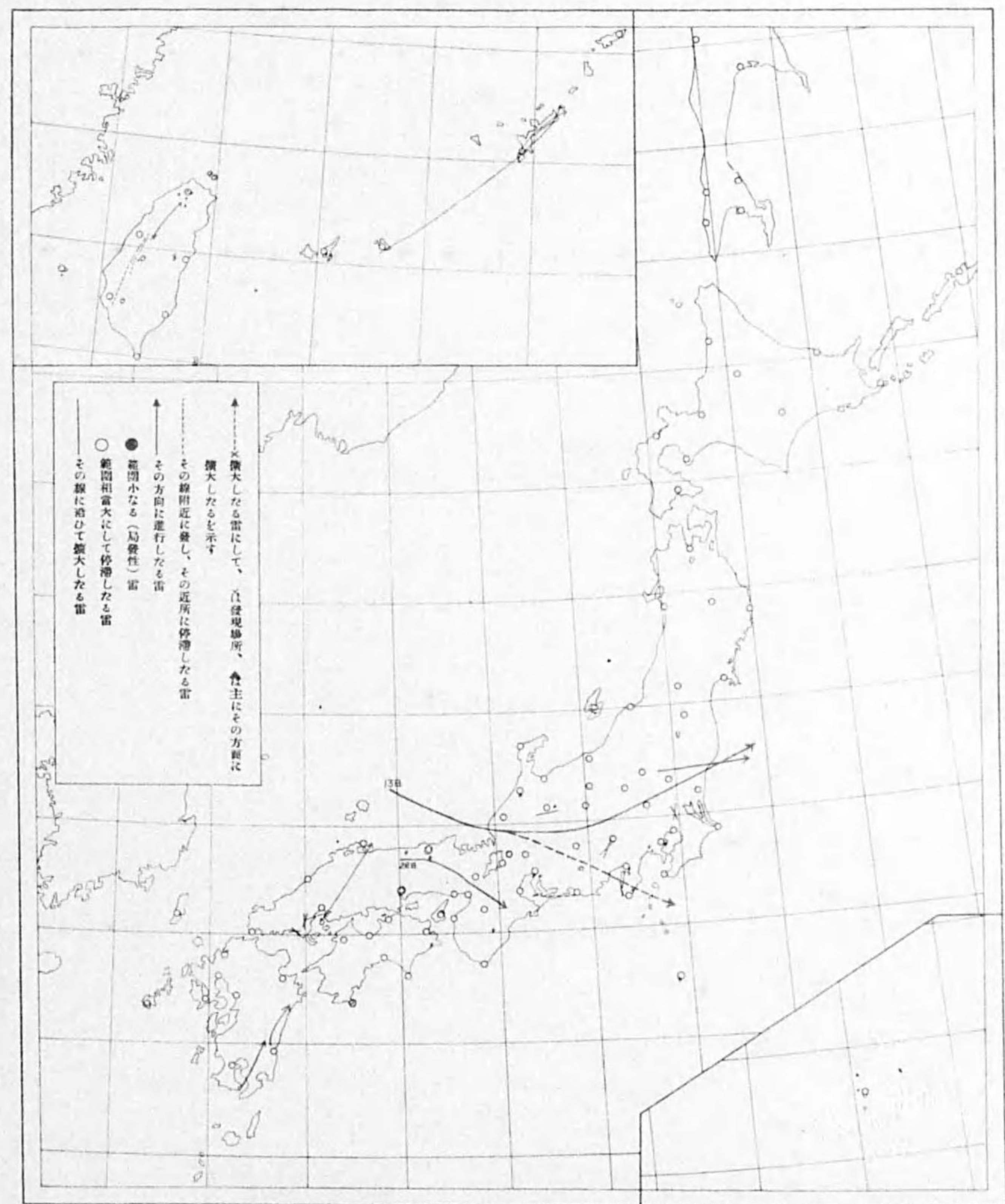
五月の雨雷現地地方に進行雨雷の方向圖

圖版第六



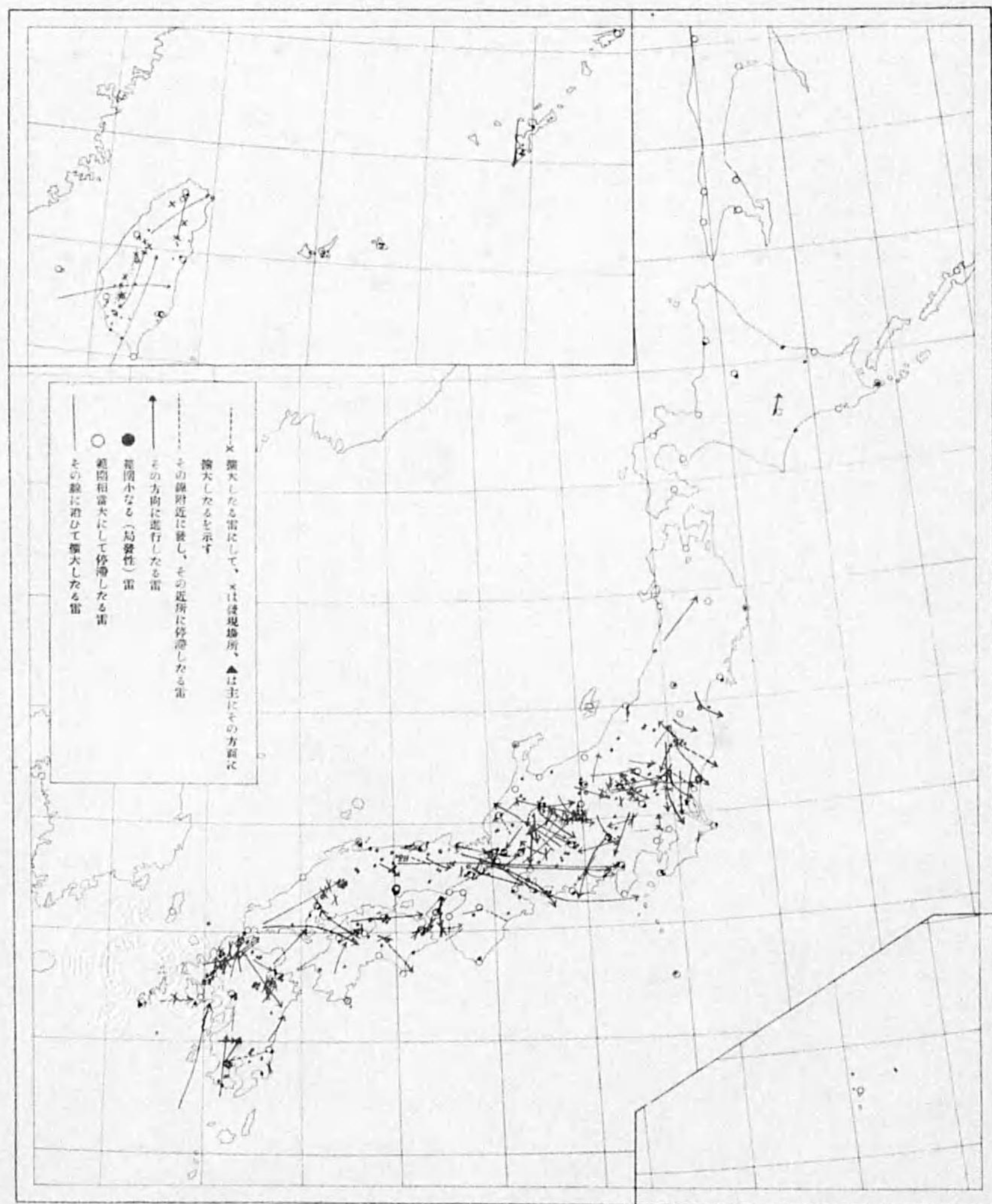
四月の雨雷現地地方に進行雨雷の方向圖

圖版第五



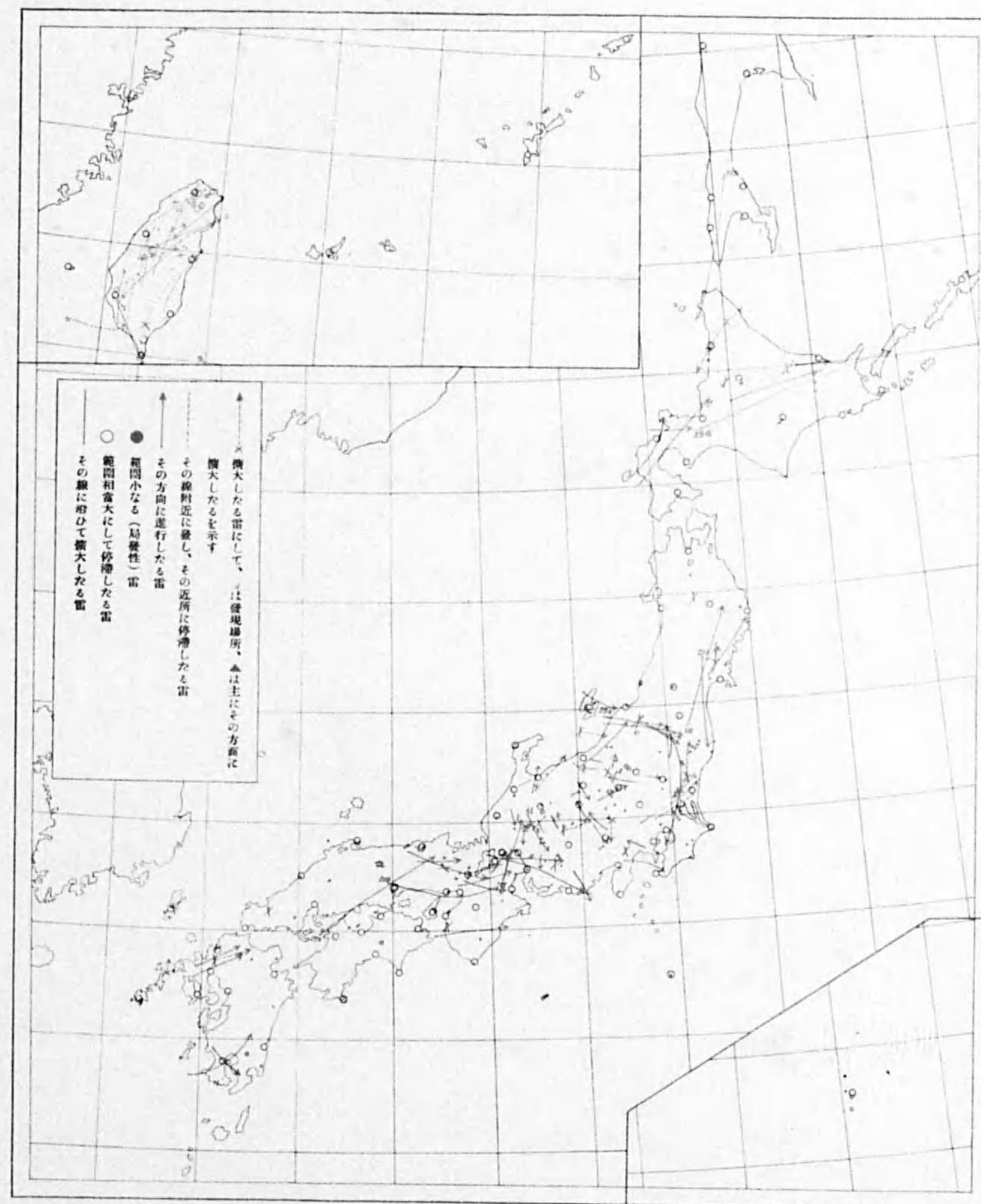
圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月七

八第版圖

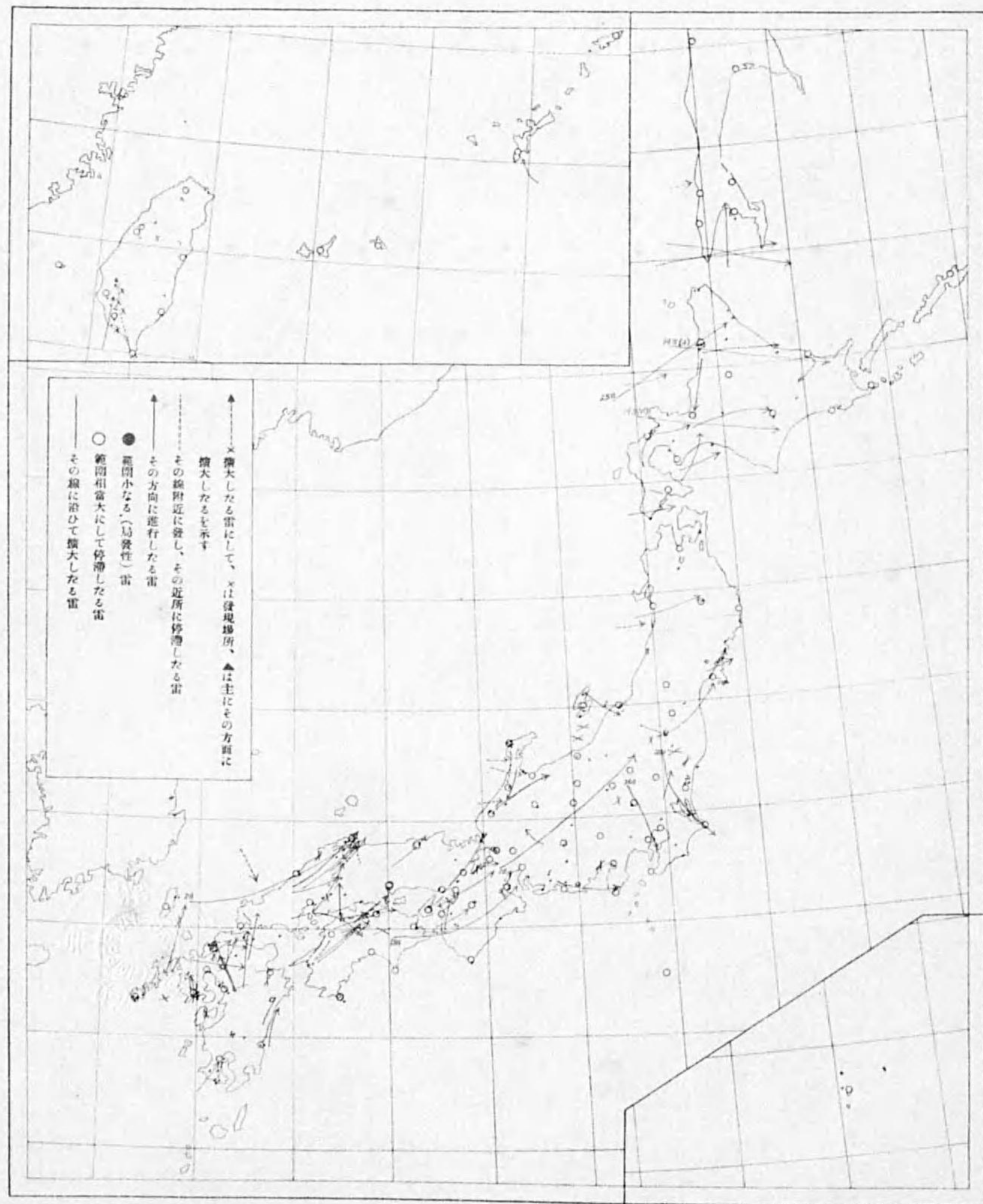


圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月六

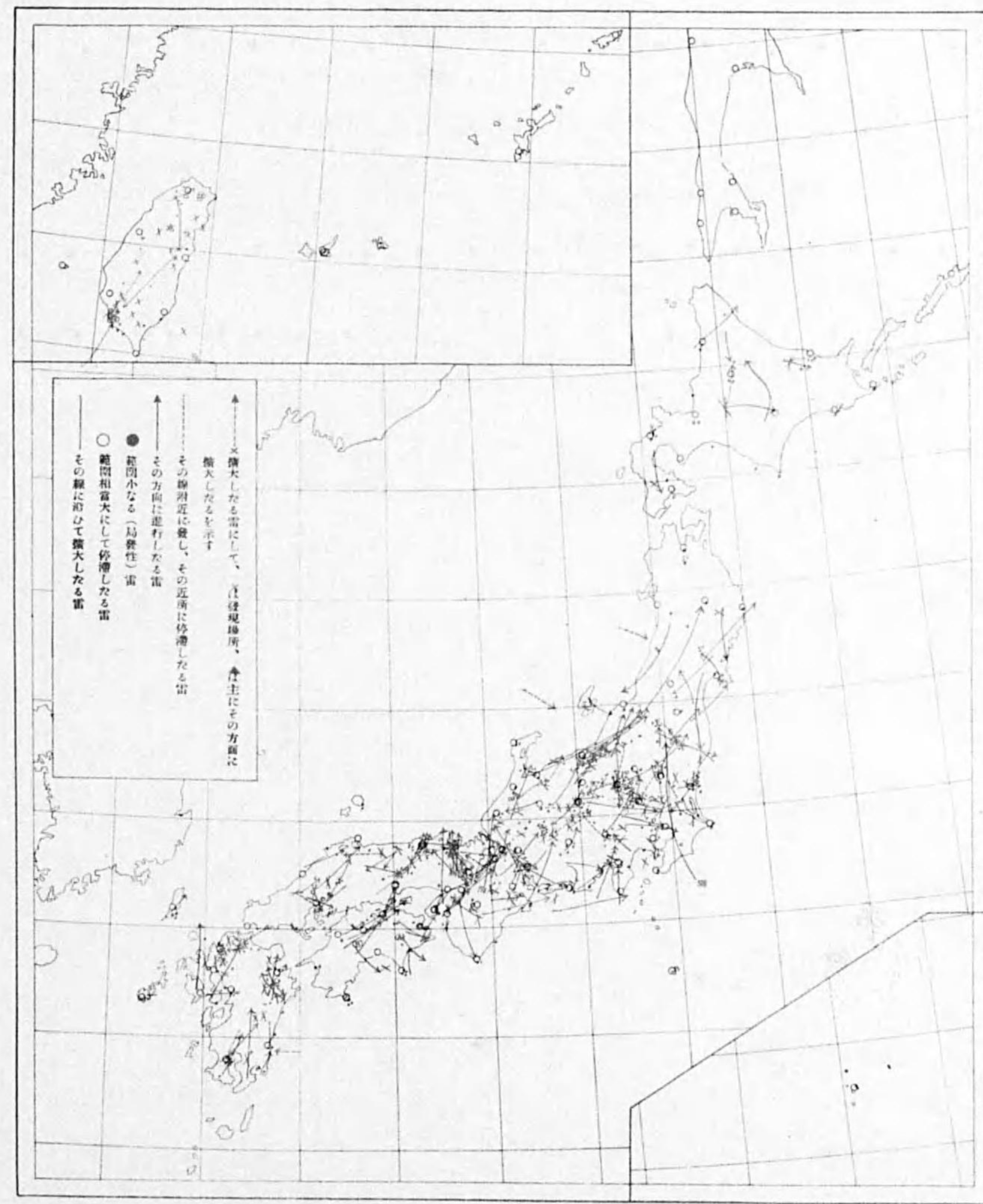
七第版圖



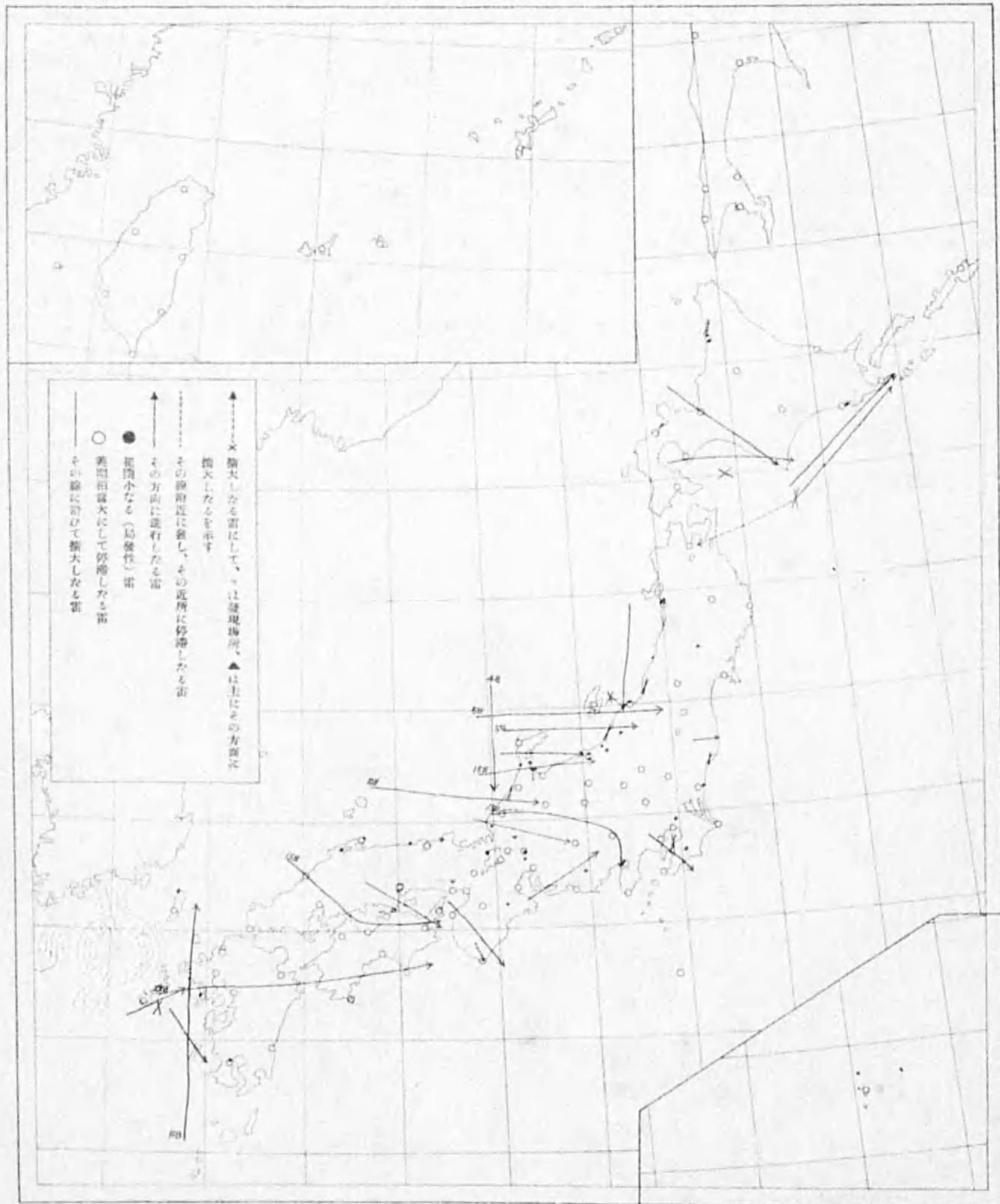
圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月九 十第版圖



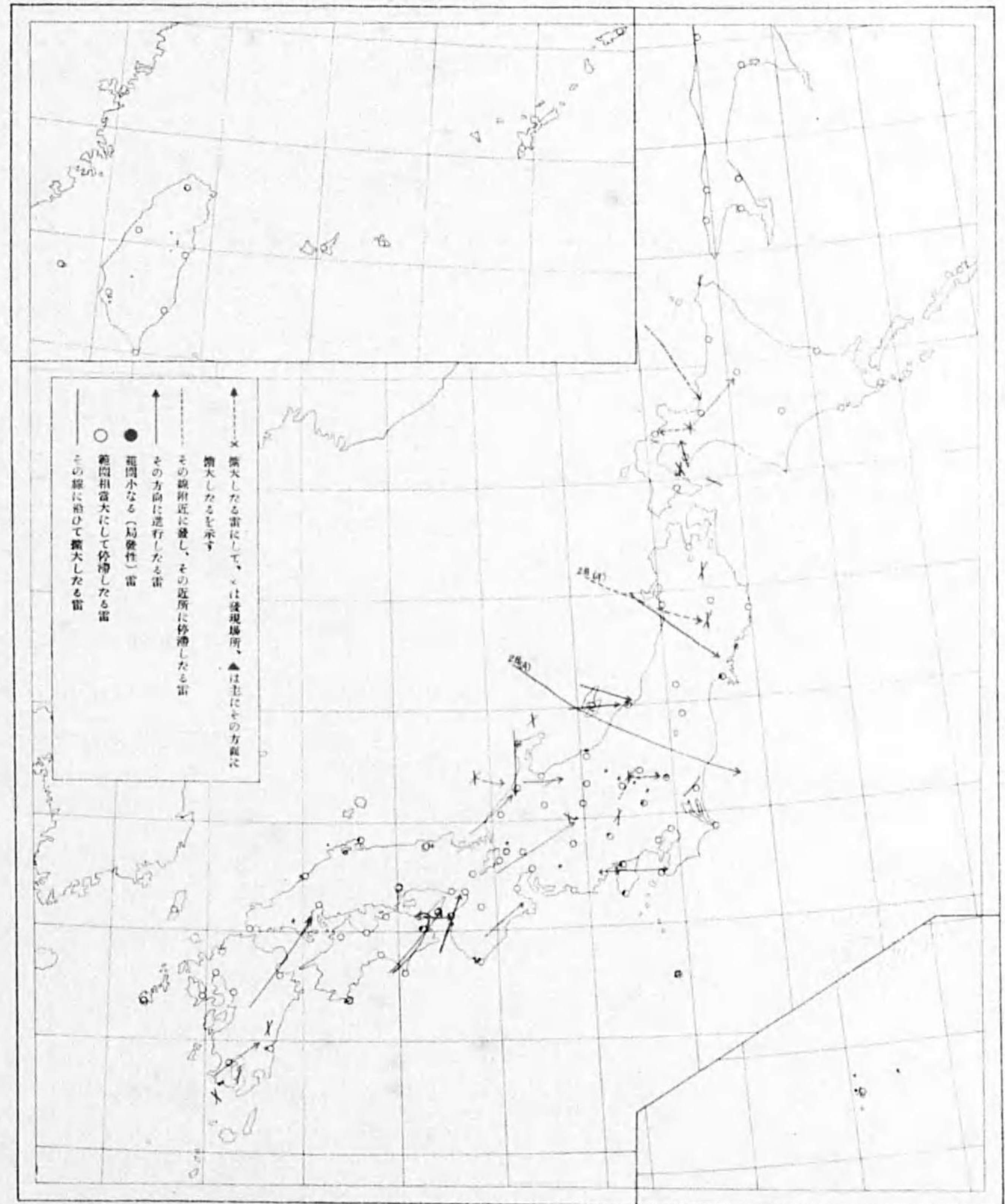
圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月八 九第版圖



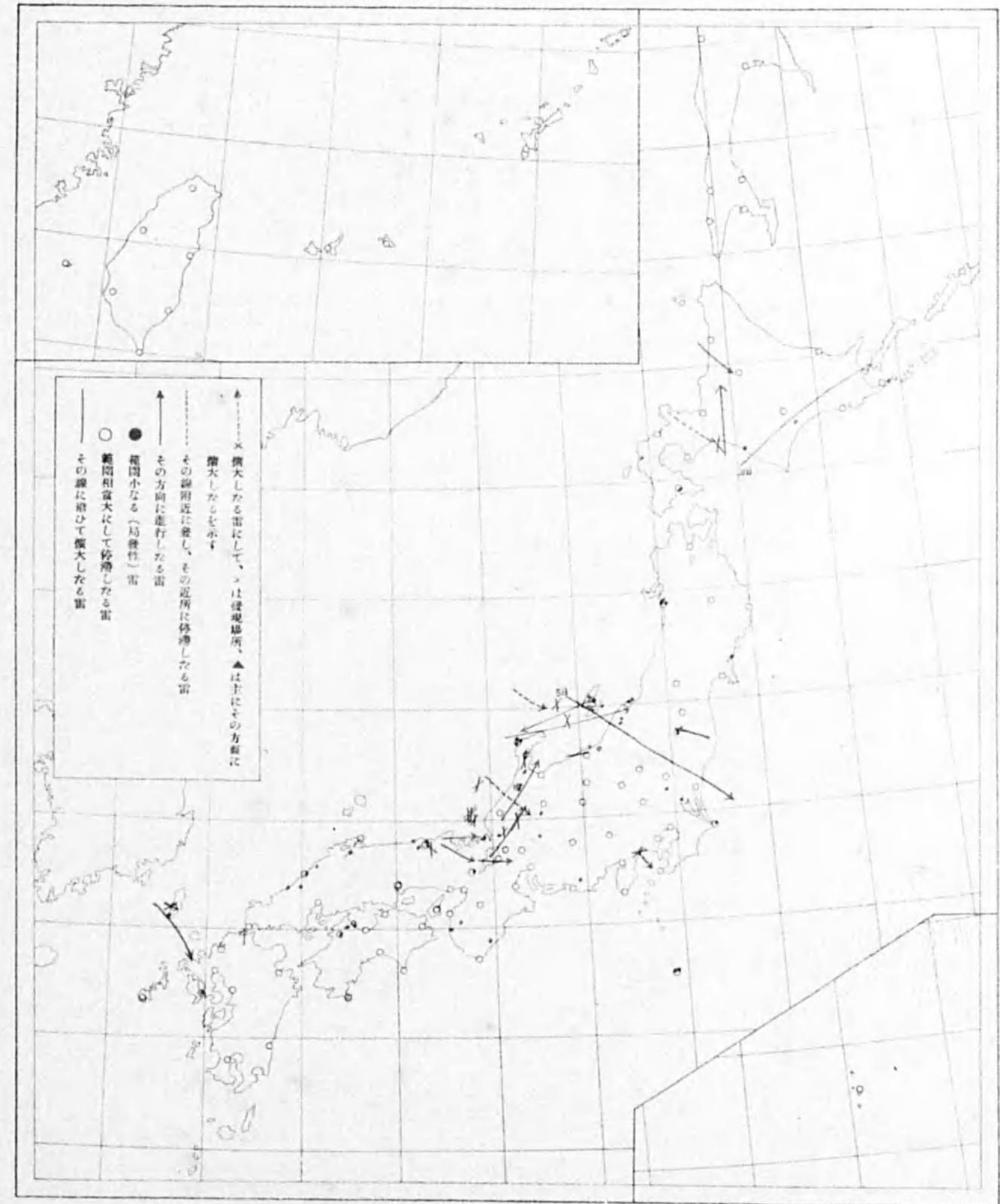
圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月一十 二十第版圖



圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月一十 一十第版圖



圖向方行進雨雷に竝方地現發雨雷の月二十 三十第版圖



昭和六年三月十五日印刷
 昭和六年三月二十五日發行

定價金貳圓

編纂者
 發行者

中央氣象臺

東京市麴町區竹平町

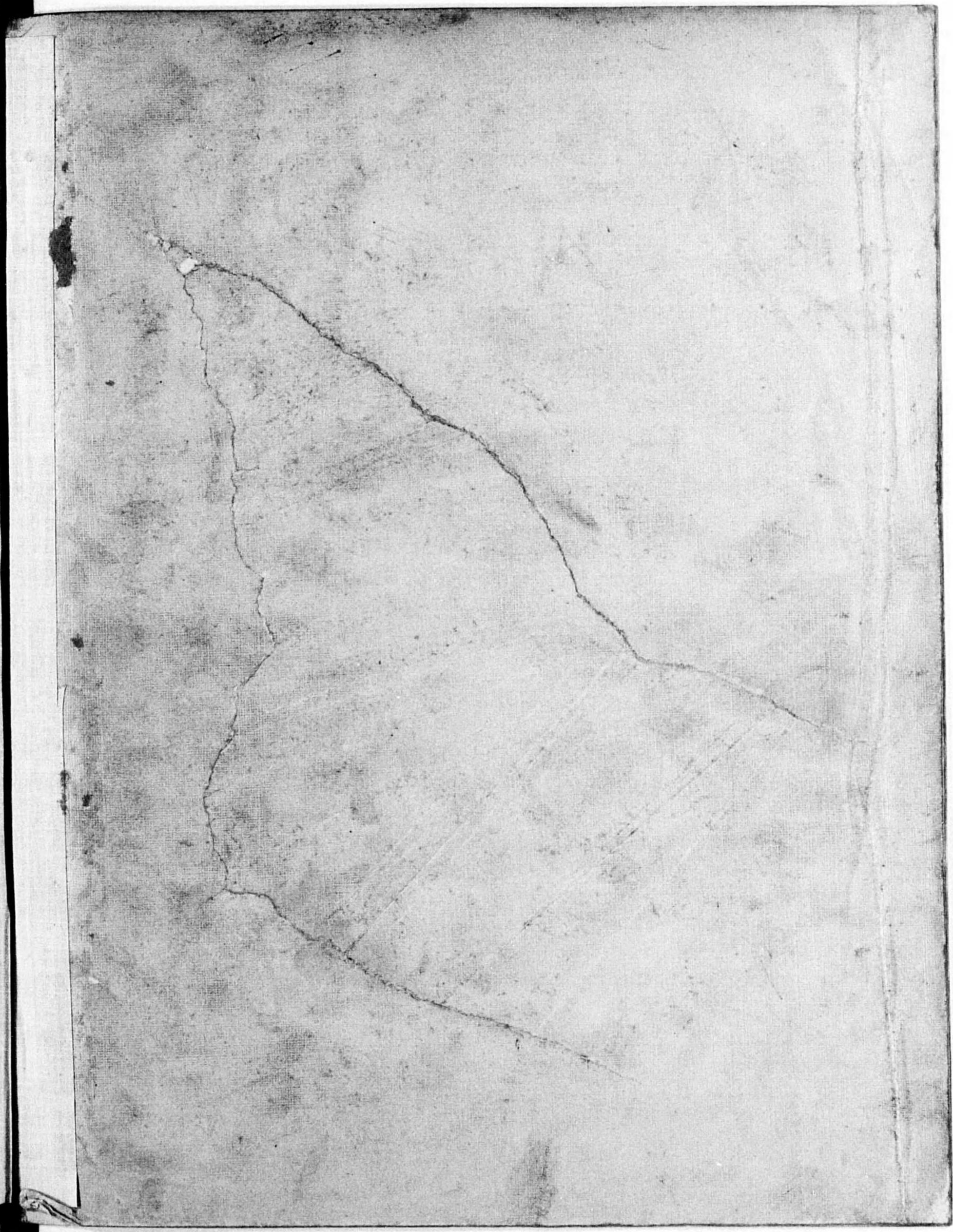
印刷者 佐々木恒太郎
 東京市京橋區京橋二丁目十三番地ノ一二三

印刷所 東亞印刷株式會社
 東京市京橋區京橋二丁目十三番地ノ一二三
 電話京橋(56) 二二五四番

販賣元 大日本氣象學會
 東京市麴町區竹平町中央氣象臺構内

14.6
276

146-
276



終